

狩谷遺跡 狩谷古墳群

2018年3月

岡山県総社市教育委員会

狩谷遺跡 狩谷古墳群

2018年3月

岡山県総社市教育委員会

1号墳第1主体部装身具出土状況



1. 耳飾りと周辺の玉類



2. 中心付近から出土した青銅製鈴と玉類



3. 中心付近の玉類



4. 体の右端付近から出土した瑪瑙とガラス小玉



5. 1号墳第1主体部装身具出土状況全景

3号墳第1 主体部装身具・鉄器出土状況



1. 頭部付近の装身具・鉄器出土状況



2. 耳環と玉類出土状況



3. 頭部付近の玉類・絞具出土状況



4. 小環付耳環

4号墳



5. 4号墳主体部玉類出土状況

土墳墓4



6. 土墳墓4 出土ガラス製管玉



1. 段1出土 蓋



2. 段2と上方から出土した器台



3. 3号墳墳丘北西部出土 甕



4. 3号墳墳丘南西部出土 直口壺



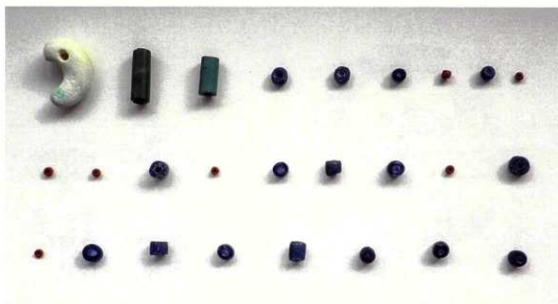
5. 3号墳墳丘南東部および周濠出土 広口壺



6. 広口壺同一個体片



1. 1号墳第1主体部出土玉類



2. 4号墳主体部出土玉類

序

総社市は、県下三大河川の一つである高梁川が、市域を二分して南下します。

高梁川左岸は、肥沃な平野が広がり、高梁川が運ぶ豊かな水、そして災害の少ない気候風土という農耕に適した条件に恵まれ、水稲耕作開始期以降人々が集住し、吉備の中核地として栄えてまいりました。全国第10位の規模を誇る国指定史跡作山古墳をはじめ、国指定史跡鬼城山・国分僧寺・国分尼寺など有数の遺跡の存在はその証左です。

このように、歴史遺産については高梁川左岸地域が重視されてきましたが、近年前方後方墳と判明した一丁塚1号墳や、新たに発見された前方後方墳：茶臼嶽古墳が古墳時代でも古い3世紀後半頃の築造であるとの知見を得たことによって、既知の金子石塔塚古墳や中・四国最古の寺院址：秦麿寺なども含めて、高梁川右岸地域が注目を集めるようになりました。

さらに、今回報告する狩谷古墳群では、3基の小規模な古墳から玉類を主とした多種多様な装身具が装着状況のわかる形で発見され、中には小環付耳環という非常に稀な遺物も出土しています。このような在り方は左岸側の同規模墳では見られないため、この地域の歴史的な位置付けを考える上で重要な資料になるものと考えます。

遺跡を保存することはできませんでしたが、この報告書が装身具研究進展の一助となり、また地域の新たな歴史を紐解く契機になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、平素から本市の文化財政に、格別の御指導・御協力を賜っております関係諸機関及び関係者の皆様に深謝申し上げますとともに、より一層の御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年3月

総社市教育委員会

教育長 山中榮輔

例言

1. 本報告書は、山土採取事業に伴って、総社市教育委員会が2012年7月2日～12月5日（8月と11月2日～11日まで中断）まで実施した、狩谷遺跡、狩谷土壌墓群・古墳群の発掘調査報告書である。
2. 狩谷遺跡、狩谷土壌墓群・古墳群は、総社市山田字狩谷2307外に所在する。
3. 発掘調査は総社市教育委員会文化課職員の高橋進一が担当していたが、11月12日からは同文化課職員平井典子が引き継いで実施した。
4. 本報告書の作成は、総社市埋蔵文化財学習の館職員の平井典子と総社市教育委員会文化課職員高橋進一・間所克仁が担当した。このうち鉄器は『総社市埋蔵文化財調査年報』24で実測図を掲載したが、その後保存処理を行って入手したX線写真により、鉄器の細部の形態が異なることが判明したため再度実測を行った。文責は各節あるいは遺構・遺物ごとの文末に示したが、概ね鉄器を間所が、個々の玉と1号墳については高橋が、そのほかを平井が担当した。
なお、遺物の洗浄・注記・復元は田中富子・犬飼真由美、遺物の実測は和田かほり・岡野佑香・笹田陽子の協力を得た。
5. 本報告書に係る初期須恵器の胎土分析を白石純、小環付耳環の蛍光X線分析を長柄毅一、両氏のご好意によって実施し、その有益な成果報告を得ることができた。記して感謝の意を表します。
6. 発掘調査及び報告書の作成において、下記の方々にご指導・ご教示を賜った。記して感謝の意を表します。
青柳泰介、石田為成、李志映、岩越陽平、宇垣匡雅、亀田修一、草原孝典、河本 清、白石 純、菅谷文則、田中清美、中野咲、中野雅美、新納 泉、乗岡 実、正岡睦夫、松木武彦、村上幸雄、柳田康雄、米田克彦
7. 本報告書の編集は、平井が担当した。
8. 出土遺物ならびに図面・写真類は総社市埋蔵文化財学習の館（総社市南溝手265-3）に保管している。

凡 例

1. 本報告書に用いた高度は海拔であり、X・Y軸の値は世界測値系である。方位もそれにのっとっている。
2. 本報告書に掲載した遺構・遺物の縮尺は個々に明記した。
3. 本報告書では附載を除き、各遺構の番号および土器・石器・金属器などの遺物番号はそれぞれ通し番号とし、挿図・写真図版なども連番とした。ただし、住居址に伴う柱穴はそれぞれの住居址で番号を付した。また、玉類に関しても墓塚からのみの出土であり、それぞれの墓塚から多数検出されているため、連番にすると番号が変更され煩雑になることから、それぞれの墓塚の取り上げ番号等を使用した。
4. 第1図は国土地理院長の承認および助言を得て、同院発行の1/2,500地形図から株式会社パスコが調整した「総社市城図63」を縮小・複製し、加筆したものである。
第2図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の1/50,000地形図から株式会社パスコが調整した「総社市全図」を拡大・複製し加筆したものである。
5. 径の計測が不可能な土器については、断面図の右側に外面、左側に内面を表示している。
径が不確かな土器については、図の中軸線左右を白抜きにしている。
6. 年報および概要報告などで付した遺構番号が、本報告で変更になったものについては、第3章において遺構名・番号の後に（ ）で旧番号を記した。
7. 弥生時代後期の時期については、上東・鬼川市Ⅰ式、上東・鬼川市Ⅱ式、上東・鬼川市Ⅲ式、才ノ町Ⅰ式、才ノ町Ⅱ式（柳瀬昭彦1977「川入・上東 V 結語」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』16）の区分を採用し、それにほぼ併行するものとして、上東・鬼川市Ⅰ式併行期、上東・鬼川市Ⅱ式併行期・・・として表記した。
8. 遺物の色調は、「新版標準土色帖（1994年版）」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所監修）による。

目 次

序文 例言 凡例 目次

第1章 地理的歴史的環境	1
第1節 遺跡の位置と地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第2章 調査の経緯	5
第1節 発掘調査に至る契機	5
第2節 調査体制	6
第3節 調査の経過	6
第3章 発掘調査の概要	9
第1節 狩谷遺跡	9
1. 住居址	11
2. 土壌	18
3. 柱穴	19
4. たわみ	21
5. 溝状遺構	21
6. 段	22
第2節 狩谷土壌墓群・古墳群	23
1. 土壌墓群	25
2. 古墳群	28
第3節 包含層出土遺物	49
第4章 総括	51
第1節 発掘調査の概要	51
1. 狩谷遺跡	51
2. 狩谷土壌墓群・古墳群	51
第2節 初期須恵器について	54
第3節 鉄製武器について	56
第4節 玉類について	58
第5節 装身具の装着状況について	62
第5章 附載	
総社市狩谷遺跡3号墳ほか出土須恵器の産地推定.....白石 純	69
狩谷3号墳出土耳環の分析.....長柄毅一	75

遺物観察表 写真図版 報告書抄録

目 次

<p>第1図 周辺主要遺跡分布図 (S=1/40,000) 2</p> <p>第2図 調査地位置図と調査区 (S=1/5,000) 5</p> <p>第3図 遺構全体図 (S=1/500) 9</p> <p>第4図 調査区南半遺構配置図 (S=1/250) 10</p> <p>第5図 住居址1平・断面図 (S=1/60) 11</p> <p>第6図 住居址1出土遺物1 (S=1/4・1/2・1/3) 12</p> <p>第7図 住居址1出土遺物2 (S=1/3) 13</p> <p>第8図 住居址2平・断面図 (S=1/60) 15</p> <p>第9図 住居址2出土遺物1 (S=1/4・1/3) 15</p> <p>第10図 住居址2出土遺物2 (S=1/2) 15</p> <p>第11図 住居址3平・断面図 (S=1/60) 16</p> <p>第12図 住居址3出土遺物 (S=1/4・1/2・1/3) 16</p> <p>第13図 住居址4平・断面図 (S=1/60) 17</p> <p>第14図 土壌1平・断面図 (S=1/30) 18</p> <p>第15図 土壌2平・断面図 (S=1/30) 出土遺物 (S=1/4) 18</p> <p>第16図 土壌3平・断面図 (S=1/30) 19</p> <p>第17図 土壌4平・断面図 (S=1/30) 19</p> <p>第18図 土壌5平・断面図 (S=1/30) 20</p> <p>第19図 土壌5出土遺物 (S=1/2) 20</p> <p>第20図 土壌6平・断面図 (S=1/30) 20</p> <p>第21図 柱穴出土遺物 (S=1/4) 20</p> <p>第22図 たわみ平・断面図 (S=1/30) 21</p> <p>第23図 溝状遺構平・断面図 (S=1/30) 出土遺物 (S=1/4) 21</p> <p>第24図 段1出土遺物 (S=1/4) 22</p> <p>第25図 段2出土遺物 (S=1/4) 22</p> <p>第26図 段2と上方からの出土遺物 (S=1/4) 22</p> <p>第27図 調査区北半発掘調査前地形測量図と 試掘トレンチ位置図 (S=1/300) 23</p> <p>第28図 土壌墓・古墳位置図 (S=1/300) 24</p> <p>第29図 土壌墓1平・断面図 (S=1/30) 25</p> <p>第30図 土壌墓1出土遺物 (S=1/4・1/3) 26</p> <p>第31図 土壌墓2平・断面図 (S=1/30) 26</p> <p>第32図 土壌墓2出土遺物1 (S=1/4・1/3・1/2) 26</p> <p>第33図 土壌墓2出土遺物2 (S=1/2) 27</p> <p>第34図 土壌墓3平・断面図 (S=1/30) 出土遺物 (S=1/3) 27</p> <p>第35図 土壌墓4平・断面図 (S=1/30) 28</p>	<p>第36図 土壌墓4出土遺物 (S=1/4・1/2・1/1) 28</p> <p>第37図 1号墳平面図 (S=1/50) 29</p> <p>第38図 1号墳第1主体部平・断面図 (S=1/30) 29</p> <p>第39図 1号墳第1主体部出土遺物1 (S=1/2) 30</p> <p>第40図 1号墳第1主体部出土遺物2 (S=1/1) 31</p> <p>第41図 1号墳第1主体部出土遺物3 (S=1/1) 32</p> <p>第42図 1号墳第1主体部出土遺物4 (S=1/1) 33</p> <p>第43図 1号墳第2主体部平・断面図 (S=1/30) 34</p> <p>第44図 1号墳第2主体部出土遺物 (S=1/2) 35</p> <p>第45図 2号墳主体部平・断面図 (S=1/30) 35</p> <p>第46図 2号墳主体部出土遺物 (S=1/2) 36</p> <p>第47図 3号墳平・断面図 (S=1/150) 36</p> <p>第48図 3号墳墳丘南西部遺物出土状況 (S=1/10) 37</p> <p>第49図 3号墳墳丘南東部遺物出土状況 (S=1/10) 38</p> <p>第50図 3号墳墳丘出土遺物 (S=1/4) 39</p> <p>第51図 3号墳第1主体部平・断面図 (S=1/30) 39</p> <p>第52図 3号墳第1主体部出土遺物1 (S=1/2・1/3) 41</p> <p>第53図 3号墳第1主体部出土遺物2 (S=1/2・1/1) 42</p> <p>第54図 3号墳第1主体部出土遺物3 (S=1/1) 43</p> <p>第55図 3号墳第2主体部平・断面図 (S=1/30) 45</p> <p>第56図 3号墳第2主体部出土遺物1 (S=1/2) 45</p> <p>第57図 3号墳第2主体部出土遺物2 (S=1/1) 46</p> <p>第58図 4号墳平・断面図 (S=1/150) 46</p> <p>第59図 4号墳主体部平・断面図 (S=1/30) 47</p> <p>第60図 4号墳主体部出土遺物1 (S=1/2) 48</p> <p>第61図 4号墳主体部出土遺物2 (S=1/1) 48</p> <p>第62図 包含層出土遺物 (S=1/4・1/2・1/3) 50</p> <p>第63図 持谷遺跡・持谷古墳群出土 初期須恵器 (S=1/4) 54</p> <p>第64図 近隣の組紐文を有する初期須恵器 (S=1/4) 55</p> <p>第65図 1号墳第1主体部 装身具出土状況 (S=1/6) 62</p> <p>第66図 3号墳第1主体部 腰部付近 装身具出土状況 (S=1/3) 64</p> <p>第67図 3号墳第1主体部 頸部付近 装身具出土状況 (S=1/3) 65</p> <p>第68図 4号墳主体部 装身具出土状況 (S=1/3) 67</p>
--	--

巻頭図版目次

巻頭図版1

- 1号墳第1主体部装身具出土状況
1. 耳飾りと周辺の玉類
 2. 中心付近から出土した青銅鉄製鈴と玉類
 3. 中心付近の玉類
 4. 体の右端付近から出土した瑪瑙とガラス小玉
 5. 1号墳第1主体部装身具出土状況全景

巻頭図版2

- 3号墳第1主体部装身具・鉄器出土状況
1. 頭部付近の鉄器・装身具出土状況
 2. 耳環と玉類出土状況
 3. 頭部付近の玉類・鉸具出土状況
 4. 小環付耳環

4号墳

5. 4号墳主体部玉類出土状況
- 土壌墓4
6. 土壌墓4出土ガラス製管玉

巻頭図版3

1. 段1出土 蓋
2. 段2と上方から出土した器台
3. 3号墳墳丘北西部出土 壺
4. 3号墳墳丘南西部出土 直口壺
5. 3号墳墳丘南東部および周濠出土 広口壺
6. 広口壺同一個体片

巻頭図版4

1. 1号墳第1主体部出土玉類
2. 4号墳主体部出土玉類

図版目次

第1図版	調査地遠景 (南から)	115	第25図版	1号墳第1主体部 石製勾玉とガラス小玉の耳飾り	123
第2図版	調査前全景 (南から)	115	第26図版	1号墳第1主体部 ガラス製勾玉・小玉の耳飾り	123
第3図版	南端平坦部全景 (北東から)	115	第27図版	1号墳第1主体部 滑石製白玉と不明鉄製品	123
第4図版	削平された平坦部と北側の丘陵 (南から)	116	第28図版	1号墳第2主体部鉄鏝出土状況	124
第5図版	平坦部西側の遺構完掘状況 (北東から)	116	第29図版	1号墳第2主体部全景 (北西から)	124
第6図版	住居址1完掘状況 (北から)	116	第30図版	調査区北平の丘陵 (南から)	124
第7図版	住居址1壁溝内出土石製品 (S11)	117	第31図版	北端付近の中央トレンチ (南西から)	125
第8図版	住居址1壁溝内出土石製品 (S9)	117	第32図版	2号墳半掘状況 (北から)	125
第9図版	住居址1壁溝内出土石製品 (S10)	117	第33図版	3号墳墳丘南西部遺物出土状況	125
第10図版	住居址2完掘状況 (東南から)	118	第34図版	3号墳墳丘南東部 遺物出土状況 (周濠上層出土分)	126
第11図版	住居跡3完掘状況 (北から)	118	第35図版	3号墳第1・第2主体部 (西から)	126
第12図版	住居址4完掘状況 (南から)	118	第36図版	3号墳第1主体部 頭部付近遺物出土状況 (西から)	126
第13図版	土壌3完掘状況 (南西から)	119	第37図版	3号墳第1主体部 頭部付近の鉸具と白玉 (南から)	127
第14図版	土壌6断面 (東から)	119	第38図版	3号墳第2主体部全景 (西から)	127
第15図版	段2全景 (南から)	119	第39図版	3号墳第2主体部ガラス小玉出土状況	127
第16図版	土壌墓1全景 (北西から)	120	第40図版	3号墳墳丘 (西から)	128
第17図版	土壌墓2全景 (東南から)	120	第41図版	3号墳墳丘 (南から)	128
第18図版	土壌墓2遺物出土状況 (西北から)	120	第42図版	4号墳主体部と南側サブトレンチ (北から)	128
第19図版	土壌墓3断面・被褥礎 (東北から)	121	第43図版	4号墳主体部と東トレンチ (北東から)	129
第20図版	土壌墓3全景 (南東から)	121	第44図版	4号墳北・西側の周濠 (西から)	129
第21図版	土壌墓4全景 (東から)	121			
第22図版	1号墳第1・第2主体部 (北西から)	122			
第23図版	1号墳第1主体部 装身具出土状況 (北西から)	122			
第24図版	1号墳第1主体部 銅鏡とガラス製手玉出土状況	122			

第45図版	古墳群完備状況と南側の平野部（北から）	129	第59図版	包含層出土石器	133
第46図版	住居址1出土土器	130	第60図版	住居址2出土鉄器	134
第47図版	住居址2出土土器	130	第61図版	土墳墓2出土鉄器	134
第48図版	住居址3出土遺物	131	第62図版	土墳墓4出土鉄器	134
第49図版	P115出土土器	131	第63図版	1号墳第1主体部出土鉄器	135
第50図版	土墳墓4出土土器	131	第64図版	1号墳第2主体部出土遺物	135
第51図版	包含層出土土器	131	第65図版	2号墳出土鉄器	135
第52図版	住居址1出土石器・石製品	132	第66図版	3号墳第1主体部出土鉄器（1）	136
第53図版	住居址3出土土器	132	第67図版	3号墳第1主体部出土鉄器（2）	137
第54図版	土墳5出土遺物	133	第68図版	3号墳第1主体部出土小環付耳環	137
第55図版	P9出土水晶	133	第69図版	3号墳第2主体部出土鉄器	138
第56図版	土墳墓2出土石器・石製品	133	第70図版	4号墳主体部出土鉄器	138
第57図版	土墳墓5出土礎	133	第71図版	包含層出土鉄器	138
第58図版	4号墳主体部出土石製品	133			

表 目 次

土器観察表	79	金属製品観察表	84
石器・石製品観察表	83	玉類観察表	85

第1章 地理的歴史的環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

調査を実施した狩谷遺跡・狩谷古墳群は、総社市山田字狩谷に所在し、新本川の北、正木山山塊から南に派生した低丘陵上に立地する。

岡山県三大河川の一つである高梁川は、吉備高原を侵食しV字谷を造って南流するが、吉備高原から連なる山塊が途絶えた総社市南部付近で、一部は東に流れ左岸に広い沖積平野を形成する。

右岸は左岸とは異なり、さらに南に山塊が連なり、山塊の間を東流する新本川が南下する高梁川に合流する。その過程で、新本川両岸には狭いながらも平野部が形成される。平野の北側には正木山山塊が、南側には高山山塊、高馬山山塊が、そしてさらに南に下ると小田川が東西に流れ、その流域にも平野が広がる。

第2節 歴史的環境

縄文時代・旧石器時代

高梁川右岸地域の新本川流域周辺では、現在まで旧石器時代の遺跡は発見されていない。縄文時代の遺跡については、新本字稲井田の長湊遺跡¹から早期の無節縄文土器片が採集されているほか、久代の板井砂遺跡²が立地する低丘陵上に、後期～晩期と考えられる縄文土器片が数点出土しているのみである。遺構に至っては全く確認されていない。

弥生時代

前期の遺跡としては、高梁川に近接する上原遺跡³があげられ、ここでは前期の溝からヘルメット状の人面土製品が出土している。

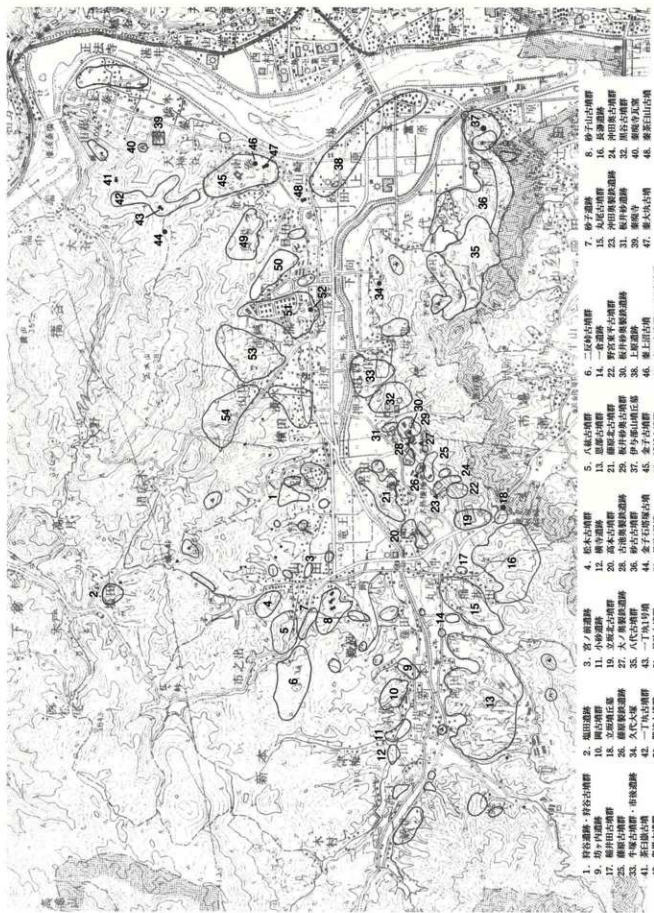
弥生時代中期以降には遺跡の数も増大し、新本川右岸平野部に位置する一倉遺跡⁴・長湊遺跡⁵、左岸段丘上に位置する横寺遺跡⁶、坊ヶ内遺跡⁷、小砂遺跡⁸などの集落遺跡が発見されている。特に左岸側の遺跡は大集落が多く、このうち横寺遺跡からは後期に属する小銅鐸・家形土製品のほか龍や船などの絵画土器、文様を施した器台等が出土しており、拠点的な集落であったと推測される。また、一倉遺跡でも、野面と考えられる人面絵画を施した後期の小形鉢が出土している。

なお、一倉遺跡、長湊遺跡、そして、山間の谷部に位置する塩田遺跡⁹などからは、高梁川の東部ではほとんど目にする事のない細い頸部をもつ中期後半の壺形土器が出土しており、これは備後や伊予で出土する土器に類似する。

以上の集落遺跡のほか、両岸の低丘陵上には数軒で構成された小規模な集落も営まれている。墓域としては、新本川の南約1.3kmの尾根上に、立坂型特殊器台の名粗遺跡となった立坂墳丘墓¹⁰と、高梁川を見下ろす丘陵上に向木見型の特殊器台を出土した伊与部山墳丘墓¹¹が所在する。

古墳時代

新本川両岸に形成された平野部に面する丘陵上には、数多くの古墳が築かれている。狩谷古墳群が位置する北岸の丘陵上には、東から一丁塚古墳群¹²、金子古墳群¹³、奥場古墳群、難波古墳群、長砂古墳群¹⁴、浦越古墳群、ハザ古墳群、山口古墳群、松木古墳群、八紘古墳群¹⁵、二反峠古墳群、やや南に



第1図 周辺主要遺跡分布図 (S=1/40,000)

- | | | | | | | | |
|----------------|------------|------------|------------|-------------|-----------------|--------------|------------|
| 1. 群谷遺跡・群谷古墳群 | 2. 堀田遺跡 | 3. 宮ノ前遺跡 | 4. 松木古墳群 | 5. 八幡古墳群 | 6. 二反塚古墳群 | 7. 砂子遺跡 | 8. 砂子山古墳群 |
| 9. 坊ノ内遺跡 | 10. 堀立遺跡 | 11. 小砂遺跡 | 12. 橋本古墳群 | 13. 原野古墳群 | 14. 一倉遺跡 | 15. 丸尾古墳群 | 16. 長瀬遺跡 |
| 17. 船井田古墳群 | 18. 立坂墳丘墓 | 19. 立坂北古墳群 | 20. 高木古墳群 | 21. 藤原北古墳群 | 22. 野宮平古墳群 | 23. 沖田集古墳群 | 24. 沖田集古墳群 |
| 25. 藤原集古墳群 | 26. 藤原集古墳群 | 27. 大ノ集古墳群 | 28. 古島集古墳群 | 29. 坂井砂原古墳群 | 30. 坂井砂原集古墳群 | 31. 坂井砂原集古墳群 | 32. 黒谷古墳群 |
| 33. 牛久古墳群・牛久遺跡 | 34. 久代大塚 | 35. 八代古墳群 | 36. 砂子古墳群 | 37. 伊ノ部山崎丘墓 | 38. 上原遺跡 | 39. 聖徳寺 | 40. 聖徳寺瓦葺 |
| 41. 茶臼山古墳 | 42. 一丁地古墳群 | 43. 金子古墳群 | 44. 金子古墳群 | 45. 金子古墳群 | 46. 藤上遺跡 | 47. 重大古墳 | 48. 茶臼山古墳 |
| 49. 奥馬古墳群 | 50. 藤波古墳群 | 51. 長砂古墳群 | 52. 長砂古墳群 | 53. 湯原古墳群 | 54. 山口古墳群・ハヤ古墳群 | | |

砂子山古墳群¹⁶、岡古墳群など小群も含め200基を超える古墳が築かれている。

また、南岸の丘陵上にも砂古古墳群、八代古墳群、牛塚古墳群¹⁷、黒谷古墳群¹⁸、板井砂古墳群¹⁹、藤原古墳群²⁰、沖田奥古墳群²¹、野宮東平古墳群²²、藤原北古墳群²³、高本古墳群²⁴、立坂北古墳群²⁵、稲井田古墳群、丸尾古墳群、思部古墳群など、一部消滅した古墳も含め総数200基を優に超す古墳が存在していた。

これらの古墳群の中で、秦地域の丘陵上には3世紀後半にまで遡る茶臼嶽古墳（前方後方墳）²⁶、その下方には4世紀初頭の一丁塚1号墳（前方後方墳）²⁷、さらに下方の丘陵先端付近には4世紀後半と考えられる秦大塚古墳（前方後円墳）²⁸など前期の首長墳が連続して築かれている。秦大塚古墳のやや上方には、市内で唯一の三角縁神獣鏡が出土したとされる秦上沼古墳²⁹が知られるが、すでに破壊されており、墳形も定かでない。また、西側の谷を挟んだ丘陵南端には、5世紀末～6世紀初頭と想定される秦茶臼山古墳（前方後円墳）³⁰も認められる。なお、秦の丘陵には5世紀段階と考えられる方墳・円墳が多数分布し、6世紀段階の横穴式石室をもつ古墳、終末期古墳なども数基認められる。

秦の地以外で首長墳が築造されたのは、さらに西に位置する砂子山古墳群³¹においてである。ここでは3基の前方後円墳が確認されている。

このほか特筆すべきこととして、新本川左岸において、吉備の首長墳に使用された貝殻石灰岩製の石棺と、歩揺の破片が出土した金子石塔塚古墳³²があげられるほか、終末期に位置付けられる県内唯一の横口式石棺をもつ長砂2号墳³³もこの地に所在する。右岸においても、県内では類例の少ない貝輪が出土した牛塚1号墳³⁴があげられるが、前方後円・後方墳などの首長墳および特異な遺構・遺物は左岸側に偏在する傾向にある。

集落としては、弥生時代から引き続き横寺遺跡、坊ヶ内遺跡、小砂遺跡、砂子遺跡³⁵などで、古墳時代の住居跡が多数発見されている。このうち横寺遺跡からは、縄紋文をもつ軟質土器が出土している。また砂子遺跡では、22基の鍛冶炉³⁶と土壌中の炭窟45基が検出されている。

なお、新本川の右岸丘陵上には、製鉄遺跡が分布しており、製鉄炉や製炭窟が多数出土している。遺物を伴わないため時期を決定するのは困難であるが、沖田奥製鉄遺跡³⁶のように、古墳との関係から7世紀代を中心に一部6世紀代まで遡るものも存在すると想定されている。

古代

高梁川右岸の小高い台地上に築かれた秦廃寺³⁷は、東西一町の寺域をもつと考えられ、伽藍は方位に合わせて築かれている。単弁8弁蓮華文軒丸瓦や、礎石の上面に方形の台座を造り中央に径45cm程度の穴を穿った塔心礎が出土していることから、中・四国で最も古い飛鳥時代前半期の寺院址と想定されている。

古墳時代に続き、製鉄も盛んに行われており、藤原製鉄遺跡³⁸・板井砂製鉄遺跡³⁹などは8世紀前後に操業されていたと推定されている。

註

- 1 村上幸雄1987「長湯遺跡」『総社市史 考古資料編』
- 2 高田明人1991「水島機械金属工業団地協同組合 西団地内遺跡群 第1章 板井砂遺跡」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』9
- 3 松尾洋平2010「上原遺跡発掘調査報告」『総社市埋蔵文化財調査年報』19

- 4 高田明人1987「一食遺跡」『総社市史 考古資料編』
- 5 谷山雅彦1987「長壽遺跡」『総社市史 考古資料編』
- 6 武田恭彰1994「横寺遺跡 新本新庄地区ほ場整備事業に伴う調査の概要」『総社市埋蔵文化財調査年報』3
- 7 武田恭彰1995「新本新庄地区ほ場整備事業に伴う発掘調査 その2」『総社市埋蔵文化財調査年報』5
- 8 武田恭彰1996「新本新庄地区ほ場整備に伴う発掘調査 その6」『総社市埋蔵文化財調査年報』6
- 9 谷山雅彦・高田明人1987「堀田遺跡」『総社市史 考古資料編』
- 10 近藤義郎1996「新本立坂 立坂型特殊器台名祖遺跡の発掘」総社市文化振興財団
- 11 近藤義郎1996「伊与部山墳墓群」総社市文化振興財団
- 12 谷山雅彦・高橋進一・村田 晋2014「一丁坊古墳群 市指定史跡 古墳確認調査」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』23
- 13 中田啓司1987「秦金子古墳群」『総社市史 考古資料編』
- 14 村上幸雄1987「長砂古墳群」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』5
- 15 物部茂樹編2011「八畝古墳群」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』233
- 16 近藤義郎・鎌木義昌1987「砂子山古墳群」『総社市史 考古資料編』
聞壁忠彦1986「総社市山田砂子山古墳群の墳形と石室—その資料と調査経過—」『倉敷考古館研究集報』第19号
- 17 村田 晋2017「牛塚古墳群」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』26
- 18 前角和夫1996「西団地並築に伴う発掘調査概要報告」『総社市埋蔵文化財調査年報』6
- 19 村上幸雄・谷山雅彦・高田明人1991「水島機械金属工業団地協同組合 西団地内遺跡群 第三部古墳群」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』9
- 20 註19文献に同じ
- 21 註19文献に同じ
- 22 註19文献に同じ
- 23 武田恭彰1993「藤原北古墳群」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』11
- 24 谷山雅彦1986「高本古墳群」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』3
- 25 註19文献に同じ
- 26 村田 晋2016「茶臼嶽古墳 墳丘確認調査報告書」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』24
- 27 註12文献に同じ
- 28 高橋進一・村田 晋2014「附載 秦大坊古墳測量調査について」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』23
- 29 中田啓司1987「秦上沼古墳」『総社市史 考古資料編』
- 30 中田啓司1987「秦茶臼山古墳」『総社市史 考古資料編』
- 31 註16文献に同じ
- 32 鎌木義昌・亀田修一1987「金子石塔塚古墳」『総社市史 考古資料編』
- 33 村上幸雄1987「長砂2号墳」『総社市史 考古資料編』
- 34 註17文献に同じ
- 35 武田恭彰2001「山田地区県営ほ場整備事業に伴う発掘調査（6）」『総社市埋蔵文化財調査年報』11
- 36 村上幸雄・谷山雅彦・高田明人1991「水島機械金属工業団地協同組合 西団地内遺跡群 第四部製鉄遺跡群」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』9
- 37 葛原克人1987「秦原廃寺」『総社市史 考古資料編』
谷山雅彦1996「秦（秦原）廃寺確認調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』6
谷山雅彦1997「秦（秦原）廃寺確認調査2」『総社市埋蔵文化財調査年報』7
平井典子2017「秦（秦原）廃寺の寺域と伽藍配置について—秦歴史遺産保存協議会の秦廃寺模型製作に係わって—」『総社市埋蔵文化財調査年報』26
- 38 註36文献に同じ
- 39 註36文献に同じ

第2章 調査の経緯

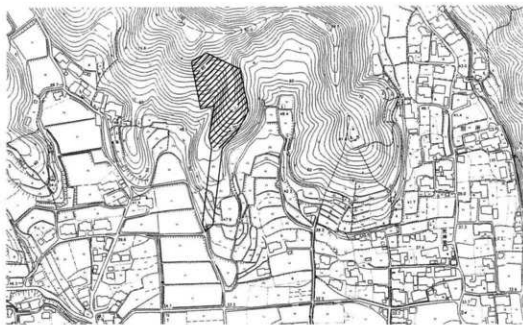
第1節 発掘調査にいたる契機

新本川流域に形成された狭小な平野の南北には花崗岩の山塊が連なる。山塊から延びる低丘陵は、良好な真砂が採取できるため、従来から丘陵を切り崩して真砂土採取が行われていた。このうち、新本川北側の総社市山田字西谷に所在する採取地において、2010年、さらに上方の尾根へ土取りを拡張する計画があがった。

この付近は2002年度、山田地区県営ほ場整備事業に伴って発掘調査が実施された。この調査で、今回の山土採取予定地の西斜面下方にあたる1区から、弥生時代後期の竪穴住居2軒と段状遺構・土城、古墳時代初頭の竪穴住居1軒・土壇・柱穴・溝、古代後期～中世の柱穴多数と段状遺構などが出土したほか、0.5～1m以上の厚い堆積をもつ弥生時代～中世の包含層が検出された(武田2004)。このことから、山土採取地においても遺構が存在するものと考えられ、確認調査を実施した。

確認調査は、文化課職員の武田恭彰が担当し、開発面積約7,000㎡の内、まず進入路にあたる約1,000㎡を2010年8月10日～23日に実施した。進入路部分は緩やかな尾根の稜線にあたるが、後世の開墾によって著しく削平されていた。遺構はすでに消滅しているおそれもあったが、地形が若干下がる東斜面でのみ、弥生時代の住居址・段状遺構・貯蔵穴と、中世の柱穴を確認することができた(武田2012)。

本体部分の確認調査は、樹木の伐採後、12月3日に尾根線上と西側斜面にトレンチを設定し、重機による掘削を行った。その結果、4基の前期古墳が連なって存在することが予想され、開発区域外でも僅かな高まりが認められることから、尾根線上に多数の前期古墳が並ぶと想定された。



第2図 調査地位置図と調査区 (S=1/5,000)

総社市教育委員会では、上記の確認調査結果を受け、開発業者と保存に向けての協議を行ったが、保存は困難であるとのことであった。保存ができない場合には発掘調査をする必要があることと、経費負担は開発側が負うことになっている旨を伝えた。これに対し開発側からは、従業員もいない零細な個人会社のため、発掘経費は到底負担できないとの申し出があった。教育委員会は開発業者と協議を重ねた結果、総社市教育委員会が規定している民間事業に対する発掘経費補助に該当すると判断し、国庫補助を申請して発掘調査経費を公費で負担することとした。また開発業者側は立木の伐採・処理や重機の提供など、できうるかぎりの協力をすることで覚書を交わした。

2011年度、確認調査の結果を基に発掘調査計画を策定し、国庫補助の申請を行って、2012年度に補助金の交付が確定したことを受け、2012年7月2日より調査に着手することとなった。

第2節 調査体制

発掘調査は、総社市教育委員会が7月2日～12月5日まで実施した。その体制は以下のとおりである。発掘調査終了後、出土遺物等は埋蔵文化財学習の館で洗浄・注記・復元を行った。

総社市教育委員会		埋蔵文化財学習の館	
教育長	山中榮輔	館長	村上幸雄
教育次長	松尾一夫	臨時職員	田中富子
参事兼文化課長	守安正道	臨時職員	犬飼真弓
主幹兼係長	谷山雅彦		
課長補佐	平井典子 (11/12～12/5 調査担当)		
課長補佐	武田恭彰 (確認調査担当)		
主査	高橋進一 (7/2～11/2 調査担当)		
主任	笹田健一 (庶務担当)		
主任	石井淳一 (庶務担当)		

なお、酷暑の中、日々発掘調査に従事下さいました下記の方々に、記して感謝の意を表します。

秋山薫、萱野節子、茅野恭平、茅野嘉史、小西啓子、坪井忠己、坪井保雄、出原 登、
原田幸生、前田和久、守屋佐代子、守屋茂美、守屋日出子、山田泰正、渡邊吉之

(敬称略 50音順)

第3節 調査の経過

発掘調査は2012年7月2日から開始し、文化課職員高橋進一が担当した。まず調査区上方の試掘トレンチ内清掃や周辺の表土剥ぎを行って、古墳を検出する作業を実施していたが、この年は特別暑さが厳しく、体調不良を訴える作業員さんもいたため、熱中症を回避するべく8月の作業をとりやめることとした。

この間、開発業者から土取り作業を急ぎたいとの申し入れがあり、現存している尾根の南端部分を先行して調査を行い、終了後明け渡すこととした。

8月29日、南端の平坦部に重機を入れ、表土を剥ぎ取って、9月3日から調査を再開した。南端の

平坦部は大きく削平されていたため、遺構はすべて消失しているものと想定していたが、残存状況は悪いものの、弥生時代の住居址4軒と土壇、多数の柱穴、弥生～古墳時代の土壇墓3基、墳丘は削平されていたが古墳と考えられる大小2基の主体部が並列する1号墳などが確認された。

このうち1号墳は、第1主体部から鉄器4点と青銅製の釧1点・青銅製の鈴2点をはじめ、400点を超える玉類が出土した。これらの装身具は、作業員さんが原位置から動かないよう丁寧に掘り下げて下さったため、装着状態が捉えられる貴重な資料となった。このことから、急速予算交渉を行い、立体剥ぎ取りを実施した。この立体剥ぎ取りは展示できるように加工を依頼し、2012年度中に完成した。2013年6月にまず市役所で展示し披露した後、総社市埋蔵文化財学習の館の展示室に常設している。

10月10日以降、平坦部の調査を実施しながら、丘陵上部南半の段や古墳の調査に入った。

その後、高橋が調査を継続できなくなったため11月5日に中断し、11月12日からは平井が引き継いだ。期限が切られており3週間程度で調査を終える必要があった。4号墳の主体部は掘り下げ途中で、その後300点を超える玉類などが出土した。周濠はほとんど掘り上げられていたものの途中で途切れるなど、墳丘や周濠の確認も必要であった。3号墳も第1主体部の掘り下げや鉄器・玉類などの遺物実測・取り上げが残っていた。掘り下げた結果、玉類約500点と鉄器17点、小環付耳環1対が出土した。それらの遺物を取り上げた後、12月3・4日には、各トレンチの土層検討と写真・図面、全体写真と配置図作成、そして12月5日にレベリングを終え、詰め切れない部分はあったものの調査を終了することができた。

- 7月2日～ 調査開始、腐食土除去作業
- 7月17日 基準点測量・杭打ち
- 7月24日 中央トレンチ清掃、新たに掘り込み確認
- 7月25日 斜面清掃、調査前写真撮影・地形測量
- 7月26日 サブトレンチ設定・掘り下げ、3号墳(旧：土壇墓7・8)表土剥ぎ
- 8月1日～9月2日 酷暑のため作業中止
- 8月29日 南端平坦部に重機を投入し、表土剥ぎを実施
- 9月3日 調査再開。南端平坦面から調査
- 9月5日 1号墳主体部検出
- 9月24日 これまで竪穴住居など集落の調査を実施しながら、1号墳掘り下げ開始。
- 10月11日～ 上方の尾根南半の調査開始 段を確認・調査
- 10月24日～ 上方の尾根北半で古墳(当初は土壇墓として扱う)を確認・掘り下げ開始
- 10月30・31日 1号墳第1主体部立体剥ぎ取り実施
- 11月1・2日 4号墳周濠ほぼ掘り上げ
- 11月5～11日 調査中止
- 11月12日 調査再開。4号墳主体部掘り下げ。4号墳主体部の南側にもう1基主体部が存在する可能性があるため南側にサブトレンチ掘削
- 11月14日 4号墳主体部掘り下げ。3号墳第1・第2主体部掘り下げ
2号墳主体部掘り下げ・南側にトレンチを延ばす

- 11月15日～ 4号墳玉類レベリング後取り上げ。
3号墳墳丘上の流土除去開始
- 11月19日 3号墳第1主体部鉄器出土状況写真・実測・レベリング・取り上げ, 玉出土状況写真・レベリング・取り上げ。
3号墳東西トレンチ延長
- 11月20日～ 3号墳第1主体部掘り下げ・玉類検出取り上げ。
作業員さん数人による玉類出土主体部の土漙し開始。
- 11月22日～ 3号墳第1主体部・4号墳主体部の玉検出。レベリング後取り上げ
3号墳 墳丘上の流土下げ—北東部を除き初期須恵器出土
- 11月28日 3号墳第1主体部玉取り上げ完掘
トレンチ断面清掃
午後から片付け開始
- 12月3日 トレンチ断面土層検討後写真
遺構・トレンチ配置図作成
- 12月4日 全掘写真
3号墳の墳丘測量
トレンチ断面図作成
- 12月5日 遺構のレベリング

参考文献

- 武田恭彰2004「山田地区景宮ほ場整備事業に伴う発掘調査(7)」『総社市埋蔵文化財調査年報』13
武田恭彰2012「土砂採取事業に伴う確認調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』21

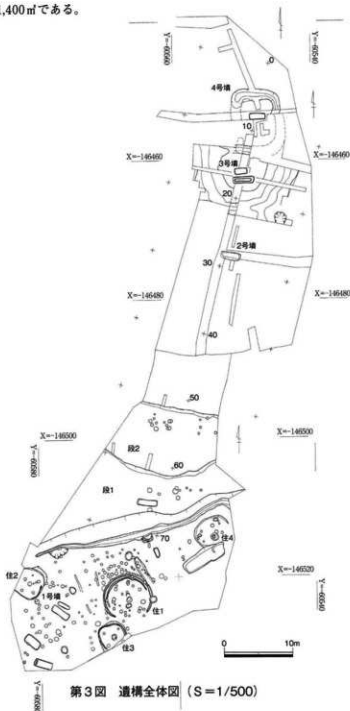
第3章 発掘調査の概要

狩谷遺跡は、高梁川の右岸に位置し、総社市西部の大字山田に所在する。大字久代との境付近に延びる南に面した丘陵尾根上に立地するこの遺跡は、弥生時代から近世に至る複合遺跡で、弥生時代の集落址、弥生～古墳時代の土壌墓、古墳群が主たるものである。

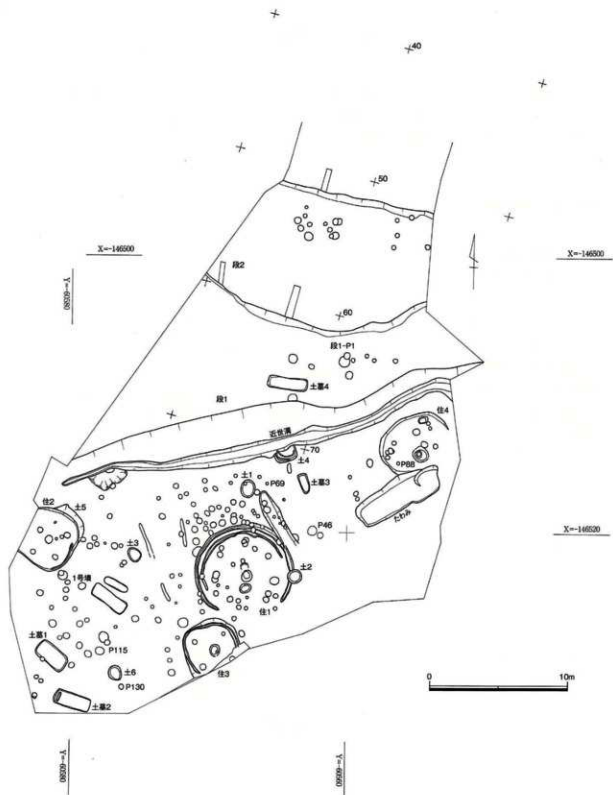
調査面積は、丘陵南斜面の約1,400㎡である。

第1節 狩谷遺跡

これまでの土取りを免れた尾根南端には、近世以降に削平されたと考えられる平坦部が存在する。集落は上部を大きく削平されてはいるものの、この平坦部に集中し、住居址や土壌、柱穴などが多数認められる。この平坦部と背後の尾根のレベル差は2m以上もあり、自然地形のままでは遺構の掘り込みが南端の平坦面にまでは達しそうにないことから、弥生時代にも一定程度削平され、段状に整えられていたものと推測される。北側の尾根にも段状にカットされた面がみられ、若干の柱穴が存在することから、同様に段が形成されていたものと考えられる。



第3図 遺構全体図 (S=1/500)



第4図 調査区南半遺構配置図 (S=1/250)

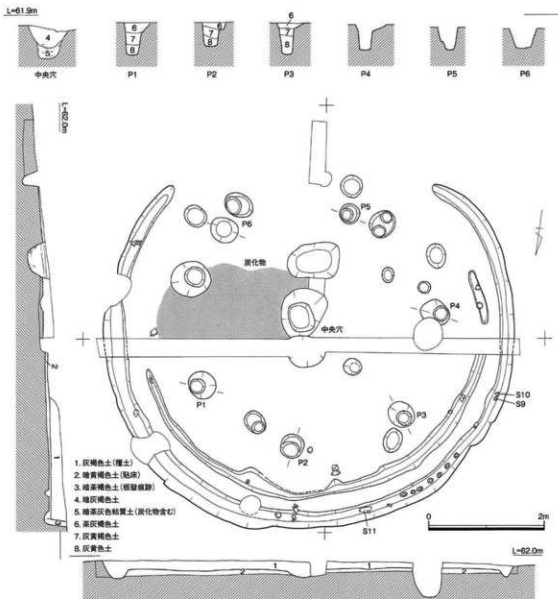
南端の平坦部や尾根上の段からは弥生時代前期～近世の遺物が出土し、前期の遺構は確認されなかったが、この丘陵が前期から利用されていたものと想定される。

なお、南端平坦部の南東部分では遺構が確認できなかったが、現地地形が南東方向に下がっていくことによって消失したものと考えられる。

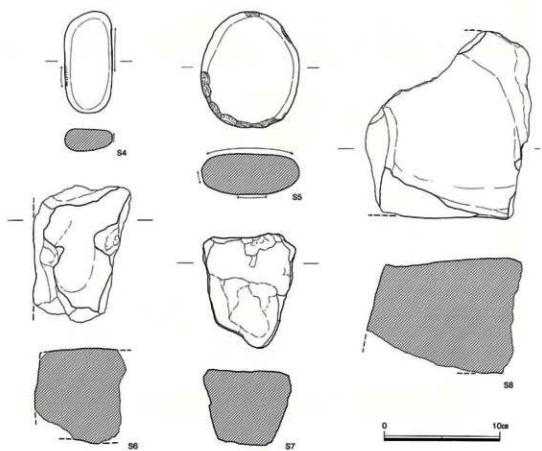
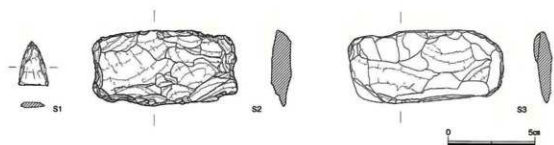
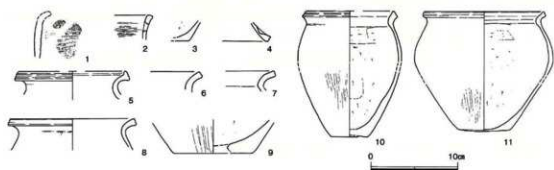
1. 住居址

住居址は4軒検出されており、すべて南端の平坦部に位置する。

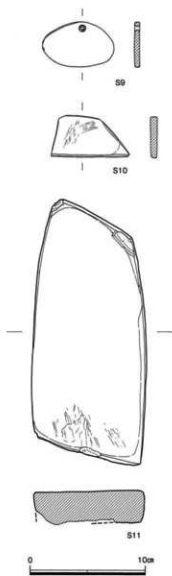
住居址 1



第5図 住居址1平・断面図 (S=1/60)



第6図 住居址1出土遺物1 (S=1/4・1/2・1/3)



第7図 住居址1出土遺物2
(S=1/3)

下半部は接合しないが同一個体である。出土土器は表面が薄く剥落したものが多く、12は外面の丹塗りが比較的良好に残っている。特殊器台・壺と同様に、内面の色調は茶褐色で胎土には角閃石を多く含む。住居址1の時期は、5～11の土器から上東・鬼川市Ⅱ式併行期と考えられる。

S 1は、サヌカイト製の石鏝である。S 2は、粘板岩製の打製石庖丁で、両端に抉りを施す。刃部は若干摩耗しているものの、使用頻度は低そうである。長さ84mmと小型であり、サヌカイトを使用していないことから後期に属するものと考えられる。S 3は、粘板岩製の磨製石庖丁未製品と考えられる。周囲を剥離し形態を整えている段階のものと思定される。S 4・S 5は叩き石で、S 4は表面に磨痕がみられ面を形成している。側面の一部には線状の敲打痕が認められる。S 5は閃緑岩製で表面に磨痕がみられ、裏面の中央付近と周縁の多くに敲打痕が認められる。

S 6・S 8は花崗閃緑岩、S 7は礫岩の角礫である。いずれも床面上から出土しており、台石あ

平坦部のほぼ中央付近に築かれた径7.1mの円形住居址で、検出された住居址の中では最も大きい。検出面から床面までの深さは東側で約18cm、残りの良い北側で約26cmである。北側では一部に貼床が残存しており、厚さ4～5cmを測る。

壁溝は二重に巡っており、南北土層断面の北端で、外側の壁溝につながる床面が内側の壁溝を覆っていることから、拡張されたものと考えられる。なお地形が南東に向けて下がっているため、内側の壁溝は2分の1近くを欠く。内側の壁溝より5～10cm程度深く掘られた外側の壁溝は、南東部4分の1弱を欠失するにとどまっている。外側の壁溝の北西部側では、底に杭痕跡が連なって認められたほか、粘板岩製の石製品3点が出土している。

柱は6本で構成されていたと考えられるが、内側の壁溝に対応する柱穴が抽出できなかったため、柱を共有していた可能性も想定される。住居の柱を構成すると考えられる柱のうち、P 1とP 6の間隔が他と比べて大きいことから、この間に入口が存在した可能性も考えられる。

中央穴の両側に2基の土壌が認められるが、南側のものは住居址の覆土を切って掘り込まれているため、この住居に伴うものではない。また北側のものは、中央穴を切る浅い土壌である。なお、中央穴の東側床面には炭化物の分布がみられる。

出土遺物(第6・7図)は以下のとおりである。1は前期新段階に位置付けられる甕口縁部付近の小片で、頸部に多條化した沈線文をもつ。住居址に伴うものではないが、当遺跡で最も古い遺物である。2は短頸直口壺で、口縁下部に円孔を穿つ。3は壺の底部と考えられる。4は高杯の脚で、三角形の透かしを施す。いずれも中期後半の土器である。5は、壺の口縁部から肩部にかけての破片である。6～8は、甕の口縁部から肩部の破片である。9はやや大型の壺底部である。10・11は鉢で、いずれも上半部と

るいは何らかの支石として使用されたものと推測される。

S9～S11は、いずれも粘板岩で作られており、外側の壁溝の南西部分から出土している。S9とS10は、壁溝の底から並んで検出された。S9は隅丸の三角形形状を呈し、頂部付近に1孔を穿ってペンダント状に仕上げている。携帯用の砥石の可能性が考えられるが、周囲の面もきれいに整えられている。S10も小型の砥石の可能性が考えられるが、側面も整えられており、S9よりさらに全面を滑らかに仕上げている。S9・S10共に同一石材を使用し、形も整えられ、全面が丁寧に磨かれていることから、他の用途を考える必要もあるのではないと思われる。S11は砥石と考えられるが、表面や側面、側面付近に形成された狭小な面も非常に滑らかである。下端付近には線状の擦痕が認められる。裏面は節理面がそのまま残されており、若干磨耗していることから使用当時の面と考えられる。

住居址2

平坦面の西端に位置し、西側を削られている。隅丸方形で、現状では南北辺が4.35mを測る小型の住居址である。床面は、検出面から25cm程度の深さにあり、壁溝が東側に一部残存する。床面の下層には、7cm以下の厚さをもつ貼床が見られる。西側は掘り過ぎたためか、地山の上に土を戻してその上に貼床をし、床面のレベルが一定になるように整えている。

柱が住居址内の南側に偏っていることと壁溝の形状からみて、北側の壁は崩れているものと思われる。4本柱と想定されるが、P1の平・断面形状はP2に類似するものの、壁溝の位置や柱間からみても、この住居址を構成する柱ではないと考えられる。P5は若干小さいものの、位置的にみて住居址に伴う可能性が高い。西側の柱穴は、東側のものに比べ20cm程度深く掘削されている。

出土遺物（第9・10図）は、土器・石器・鉄器である。

12～15は壺の口縁部である。12は短頸で、胴部中央付近が張るものと考えられる。13・14は長頸壺で、14は内外面に丹が施され、口縁部の形状も特殊壺に近いが胎土は異なる。15も内外面丹塗り、口縁部外面に斜線の一部が×状に交差する線刻を施している。

16～24は甕の口縁部から胴部にかけての破片である。16～18のように口縁部下端を若干外下方に引きだすものや、口縁部がほとんど拡張されない19～22、上方に拡張する23・24がみられる。25・26は甕の底部と考えられる。25は熱を受け外面が赤色に変色している。2mm以上の粗い長石・石英粒を多く含んでおり、16と同様の胎土・色調をもつことから同一個体の可能性が考えられる。

27～30は短脚高環の環接合部から脚柱部・脚裾部にかけての破片である。29は、脚柱の中心部に穿孔が施されている。30は、環部との接合付近まで脚柱部内が中空となる。

31・32は大形鉢の口縁部と推定される。33は、台付鉢の台の部分である。34は鉢の底部で、31と同一個体の可能性が高い。

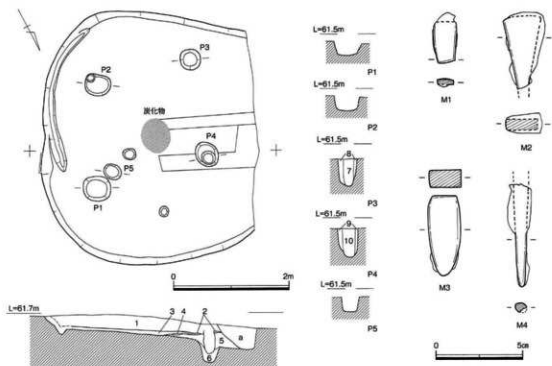
35は、器台の口縁部と思われる。

S12は側面に敲打痕をもち、表面も若干磨っている可能性がある。（平井）

M1～M4は不明鉄製品である。M1は残存長2.3cm、残存幅1.0cmを測る。M2は残存長4.6cm、残存幅2.1cmで、先端が直線的に広がり下端に向かって先細りとなる。M3は残存長4.5cm、残存幅1.9cmで中央付近がやや肥厚し下端に向かって幅を減じる。M4は残存長5.8cm、残存幅0.8cmを測り、棒状の形態を呈し下部に向かって先細りになる。

（間所）

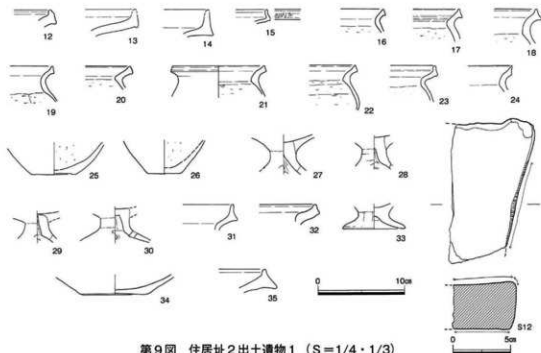
住居址の時期は、甕に上東・鬼川市Ⅱ式併行期の特徴をもつものもみられるが、23・24の甕や壺・



第10図 住居址2出土遺物2 (S=1/2)

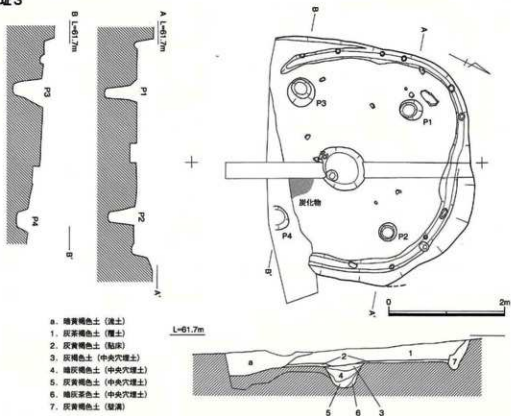
- a. 暗灰褐色土 (厚れ)
 1. 暗灰茶色土 (厚土) 2. 淡灰黄色土 (粘床) 3. 暗茶灰色土 (粘床)
 4. 暗灰茶色土 (粘床) 5. 黄灰褐色土 (埋め戻し) 6. 暗灰褐色土
 7. 暗灰茶色土 8. 灰茶色土 9. 暗灰褐色土 10. 茶灰褐色土

第8図 住居址2平・断面図 (S=1/60)

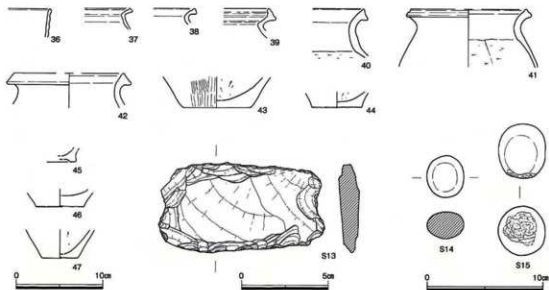


第9図 住居址2出土遺物1 (S=1/4・1/3)

住居址3



第11图 住居址3平·断面图 (S=1/60)



第12图 住居址3出土遺物 (S=1/4・1/2・1/3)

高坏・鉢などから上東・鬼川市Ⅲ式併行期と推測される。

平坦面の中央やや西寄り付近に位置し、住居址1の南東に当たる。南端付近は土取りによって削平されている。壁溝の形状からみて、東半部分と南西部分の壁は若干崩れているものと考えられる。現状では東西約4.1mの隅丸方形を呈する小型の住居址で、4本柱で構成されている。

検出面から約30cmの深さで床面を検出しており、直下には5cm程度の貼床が認められる。その貼床の下に中央穴の埋土が位置することから、中央穴を埋めた後に床を貼り直した可能性が考えられる。中央穴の南端上面から出土した土器が、他の土器や礫と同様に床面と考えられるレベルにあることから、中央穴を埋めた後、一部床を貼り直したとみてよいのではないだろうか。

なお、壁溝内には間隔をあげ、杭痕跡が連なって認められる。

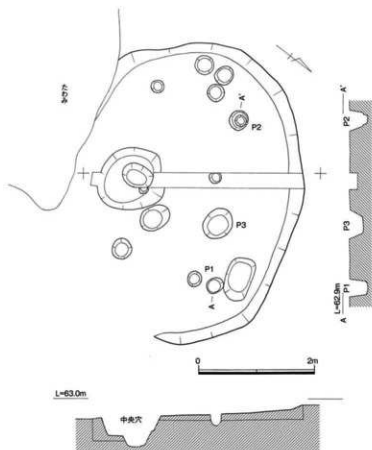
出土遺物(第12図)は、土器と石器である。36～39は弥生時代中期の土器である。36は外面に凹線文を施す直口壺の口縁部と推定される。36・37は中期中頃、38は中期後半の甕口縁部である。40～42は後期の甕の口縁部で、口縁部下端を外下方に引き出しており、内面のヘラケズリも頸部からかなり下がった位置に施されている。40は表面が荒れ、場所によっては口縁幅が異なったり、形状も若干の違いをもつ。胎土や色調が42に酷似していることから、部分的な形状の違いで同一個体の可能性も考えられる。43は壺の底部である。44～47は甕の底部で、45は上底となる。37・41・46は床面からの出土である。

S13は、床面上から出土したサヌカイト製の打製石廬丁である。サヌカイト製の石廬丁はこの1点のみで、長さ9.6cmと小型であることから、後期の石廬丁の可能性が高い。S14は円礫で、顕著な使用痕は認められないが、大きさや形が丸く整っていることから、つぶてなどの用途で自然石を採取してきた可能性が考えられる。S15は叩石である。長軸の下端に敲打痕が認められ、面を形成している。

以上、出土土器の特徴から住居址の時期は上東・鬼川市Ⅰ式併行期と考えられる。

住居址4

平坦部の北東端に位置する。現地形が南へ下がつて



第13図 住居址4平・断面図 (S=1/60)

いるため、南3分の2程度の壁面が消失しているが、推定径約5.5mの円形住居址と思われる。遺存状態が最も良好な箇所で、検出面から床面までが15cmである。壁溝も認められない。柱穴は、P1とP2が同じ深さで、位置的にもこの住居を構成する柱になると思われるが、住居の規模に比べ柱穴は小さい。南側は柱穴などの遺構が消失しているため確定はできないが、P3が2本柱となってこの住居址の柱となる可能性も残る。

遺物が出土していないため、住居址の時期は不明である。ただ周辺の遺構の時期などを考慮すると、弥生時代後期初頭から上東・鬼川市Ⅲ式併行期に収まるのではないかとと思われる。

2. 土壌

土壌1

南端平坦部中央の北端に近い場所に位置する。竪穴住居1の北側2m付近で検出された楕円形の土壌である。南北長129cm、東西長99cm、検出面からの深さは40cmを測る。遺物は出土していないが埋土は黄灰褐色を呈し固く締まっている。黄灰色を呈する古代～中世以降の埋土とは若干異なるため、弥生～古墳時代の可能性が高い。

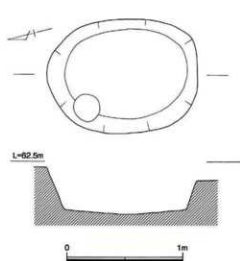
土壌2

南端平坦部中央付近の南側に位置し、竪穴住居1の外側壁溝を切って掘削されている。南北長104cm、東西長103cmでほぼ円形を呈する。検出面からの深さは30cm程度で、暗茶灰色土の埋土をもつ。出土遺物としては、弥生時代後期後半と思われる、丹塗りで角閃石を含む壺胴部小片(48)が出土している。

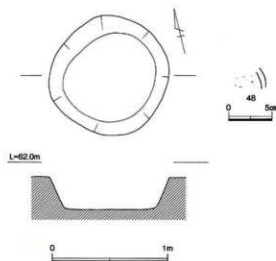
土壌3

南端平坦部の西寄り中央付近で検出された。土壌墓1・2の北側に位置し、南北長110cm、東西長90cmを測るやや楕円形を呈する土壌である。検出面からの深さは20cm程度である。

遺物は出土していないが、黄灰色の縮りがやや弱い埋土をもつことから、古代～中世以降の所産と考えられる。



第14図 土壌1平・断面図 (S=1/30)

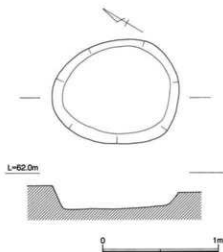


第15図 土壌2平・断面図 (S=1/30)
出土遺物 (S=1/4)

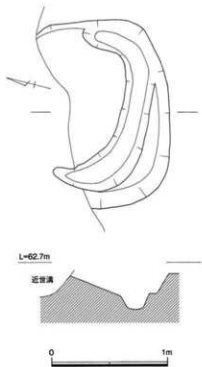
土壌4

南端平坦部やや東寄りの北端にあり、近世溝に切られる。平面形態はほぼ方形で、遺存している箇所最大長は161cmを測る。検出面から底部までの深さは20cm程度である。底部には壁溝状の溝が検出され、底部からさらに9~15cm程度掘り窪められている。

遺物は出土していないが、黄灰色の締りの弱い埋土をもつことから、中世以降の所産ではないかと考えられる。



第16図 土壌3平・断面図 (S=1/30)



第17図 土壌4平・断面図 (S=1/30)

土壌5

南端平坦部の西端付近に位置し、南西側の大部分を住居址2によって切られる。そのため形状や規模は不明であるが、検出面から少なくとも30cm以上は掘り下げられている。東側の斜面上、検出面から20cm程度の深さで打製石庖丁1点が出土している。

遺物は、図示しえなかった弥生土器の小片のほか、前述した粘板岩製と思われる打製石庖丁が1点出土している。表面には自然面を多く残し、両端に抉りをもつが、刃部の調整は粗雑であり、背部に至っては明瞭な背潰しは行われていない。全長8.1cmと小型で、石材もサヌカイトではないことから、弥生時代後期初頭の所産と考えられる。この土壌の時期は、上東・鬼川市Ⅲ式併行期と想定される住居址2に切られていることから、後期初頭と推定される。

土壌6

南端平坦部の南西で、1号墳の南、土壌墓3・4の東に位置する。長軸の一方がやや先細りとなった楕円形を呈する。南北120cm、東西95cm、検出面からの深さは47cmを測る。

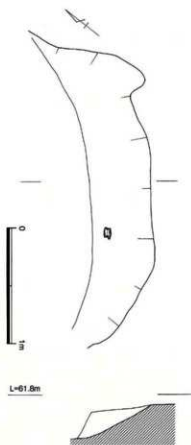
遺物は出土していないが、埋積した土はすべて黄灰色系の色調を呈し、土の締りもやや弱いことから、中世以降に掘削された土壌と考えられる。

3. 柱穴

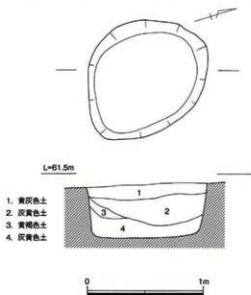
柱穴は、南端平坦部と段1・2で検出されているが、建物を構成する柱を抽出することはできなかった。なお、下記の柱穴はすべて南端平坦部において検出されたもので、これらの柱穴からは非常に少ないもの図化する遺物が出土している。

P46

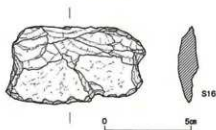
弥生土器の小片が30点足らず出土している。図示で



第18図 土壌5平・断面図 (S=1/30)



第20図 土壌6 平・断面図 (S=1/30)



第19図 土壌5出土遺物 (S=1/2)

きたのは壺の底部片 (49) のみである。壺の口縁片も出土しているが、口縁端部が欠損しているため図化できなかったが、概ね後期中葉～後葉にかけての年代が与えられる。

P69

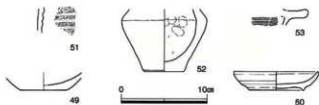
中央北寄り付近で検出された溝状遺構の北東に位置する。径22cmの小規模な柱穴で、検出面からの深さは30cmである。柱穴内から低い高台をもつ皿 (50) が出土している。高台付近は4分の1強残存しており、淡い緑褐色の釉薬がほぼ全面に施される。美濃焼で16世紀後半の所産と考えられる。

P88

東端の住居址4内で検出された径22cmの小穴である。検出面からの深さは27cmで、検出面が住居址4内の他のピットに比べ10cm前後低いので、住居址以前に掘削された柱穴の可能性が高い。弥生時代中期後半の、凹線文を施した壺の頸部片 (51) が1点出土している。

P115

南西部分で検出され、土壌墓1の南、土壌墓3の東付近に位置する。最大径31cm、検出面からの深さは12cmである。壺 (52) が1点出土しており、肩部から底部の破片である。底部は完存しており、胴部は約1/2弱残存している。内外面は共に荒れており調整は不明瞭である



第21図 柱穴出土遺物 (S=1/4)

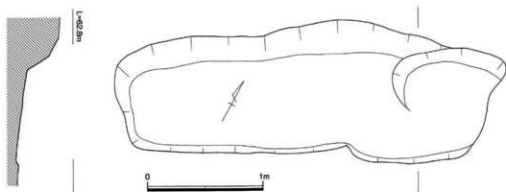
が、肩部内面の指頭圧痕と縦方向のヘラケズリ痕跡が若干認められる。色調は赤橙色で、量的には少ないものの2mm以上の長石・石英粒を含む。弥生後期に属する小型の壺と考えられる。

P130

西南端付近に位置する土壌6の南で検出された。楕円形を呈する長軸27cm、短軸22cmの小穴で、検出面からの深さは13cmである。羽釜の破片(53)が1点のみ出土している。

4. たわみ

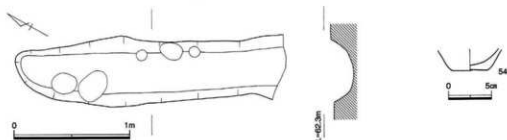
住居址4を切って西に広がる浅い窪みがある。概ね長方形を呈するが、二つの浅い遺構の切り合いの可能性もある。北側は検出面からの深さが7~15cm程度であるが、南側は1~6cmと差はほとんどない。また遺構の底面も南に向けて25cm前後も下がっている。出土遺物がないため、時期も性格も不明である。



第22図 たわみ平断面図 (S=1/30)

5. 溝状遺構

南端平坦部の中央付近に位置し、住居址1に東接する。幅61cmで、470cmの長さまで確認できた。深さは検出面から16cm程度である。遺物としては、壺の底部(54)が1点のみ出土している。形状や胎土・色調から弥生時代後期に属するものと考えられる。



第23図 溝状遺構平・断面図 (S=1/30), 出土遺物 (S=1/4)

6. 段

南端平坦部の北側には、2 m程度の比高差をもって上方に尾根が続く。この尾根の上部を25cm～50 cm程度カットして、二つの段を築いている。これらの段上には柱穴が若干存在し、南端の竪穴住居などにつながる集落のはずれとなる。

段1

南端平坦部から約2 m高い地点に位置し、背部をカットして段を形成している。この段上からは、12の柱穴と土壌墓が1基検出されたが土壌墓については第2節で後述する。柱穴も、建物を構成する配置にはない。

遺物は、段1-P 1から出土した底部(55)を除き、他はすべて包含層から出土したものである。55は、弥生後期の壺底部で、56・57は、弥生時代後期前半の甕口縁部である。58は須恵器の蓋と考えられるが、口縁の上部付近と想定される箇所に波状文が施されている。類例がなく初期須恵器と考えられる。59・60は中世の所産で、土師器皿と羽釜の破片である。



第24図 段1出土遺物 (S=1/4)

段2

段1の北側上方に位置する。柱穴が若干認められるが、柱穴からの出土遺物は認められない。

図示できる出土遺物は1点のみである。須恵器・甕の胴部小片で、外面はタタキ後ハケメを施している。内面には当具痕跡をそのまま残す。



第25図 段2出土遺物 (S=1/4)

以上、段からの遺物は少量であるが、段2とその上方の包含層から下記の遺物が出土している。すべて同一個体の器台片(62-1～4)であるが、コンパス文と分割技法の組紐文が施されている。これは、胎土分析の結果から奥ヶ谷窯跡の領域に分布しており、陶質土器ではなく初期須恵器と考えられる。(平井)

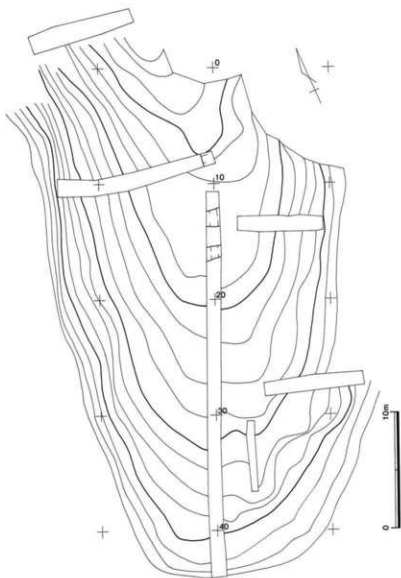


第26図 段2と上方からの出土遺物 (S=1/4)

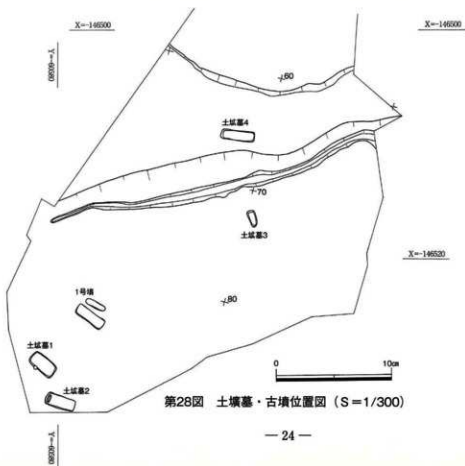
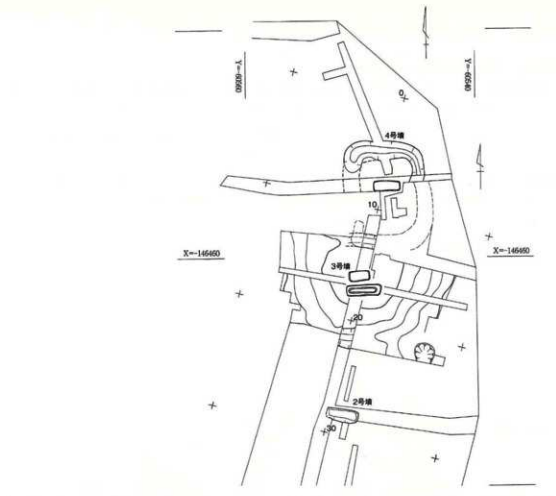
第2節 狩谷土墳墓群・古墳群

南端の近世に削平された平坦部とその北側に築かれた段，さらに上部の尾根上で土墳墓や古墳が発見された。確実に古墳と認定できるものは，尾根上に築造された3号墳と4号墳である。

しかし，南端平坦部上で検出され，年報などで土墳墓1・2として報告した墓塚（高橋進一2014）も，その並びから3号墳と同様に古墳の同一墳丘上から掘り込まれたものと推定される。墳丘や周濠は確認できなかったが，その副葬品の内容からも古墳の可能性が高いため，本報告では古墳として扱う。また，3号墳の南10m付近で発見された墓塚は，3・4号墳同様尾根の中央付近に位置する。単独で検出されており，規模も大きく副葬品も古墳時代に属していた。このような立地や墓塚のあり方などから，墳丘・周濠は確認できなかったが古墳として捉えたい。



第27図 調査区北半発掘調査前地形測量図と試掘トレンチ位置図 (S=1/300)



第28图 土横墓・古墳位置图 (S=1/300)

平坦部で確認された土墳墓1（旧：土墳墓3）と土墳墓2（旧：土墳墓4）は、古墳にするには近接しており、また同一墳丘内に築かれたと考えるには墓塚の主軸方向が不規則である。土墳墓3（旧：土墳墓5）は小規模であり、これらの墓塚を積極的に古墳とする根拠がないことから、ここでは土墳墓として取り扱う。土墳墓4（旧：土墳墓6）は、出土遺物から、弥生時代のものとして想定される。

1. 土墳墓群

土墳墓1（旧：土墳墓3）

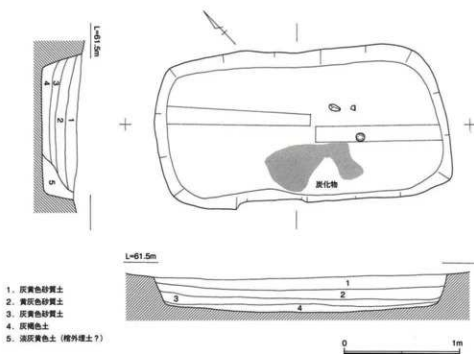
平坦部の西南端付近に位置する。長さ260cm、幅142cmを測り、検出面からの深さは32cm程度である。短軸断面の土層では、木棺の側板が外側に倒れて土が堆積したと推定される埋土の状況が見受けられた。長軸断面では、小口板を示すような痕跡は認められなかった。底面の中央付近南西側に、炭化物の分布がみられた。

遺物は、弥生土器の甕底部片（63）と叩石（S17）が出土した。甕の底部はその形態や胎土・色調などから弥生時代後期後葉に位置付けられる。叩石は一方の側面中央付近に敲打痕が認められ、面が形成されている。また、表面と裏面の一部には磨痕跡がみられる。

土墳墓1は、出土土器から弥生時代後期後葉の時期が与えられるが、底部片1点のみのため、周辺の遺構から混在した可能性も拭えない。

土墳墓2（旧：土墳墓4）

南端平坦部の西南端に位置し、土墳墓3の南で検出された。長軸276cm、最大幅108cm、検出面からの深さ約40cmを測る。長軸の西側では小口溝が検出された。東側の底面では小口溝は確認できなかったが、断面では小口板の存在を示すように立ち上がる土層が看取できた。



第29図 土墳墓1平・断面図（S=1/30）



第30図 土墳墓1出土遺物
(S=1/4・1/3)

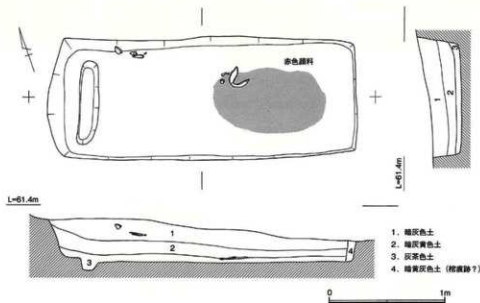
また、2層下部で赤色顔料の分布がみられた。棺底に置かれたものと考えられる。なお、赤色顔料に接して鉄鍔先と鉄器片そして双孔円盤2点が出土している。また、1層内からは土器小片も出土している。

出土遺物は、64が弥生時代後期中葉頃の甕である。65は高環の坏部片、66は高環の脚部片であり、いずれも、形態からみて古墳時代中期の古い段階に属するものと推定される。

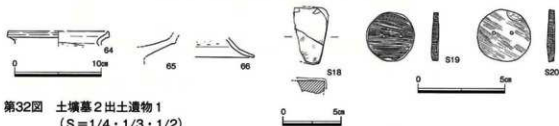
S18は小型の砥石で、残存する面はよく使用されており、表面には擦痕が認められる。S19・20は滑石製の双孔円盤である。S19は表裏面に粗い擦痕が顕著にみられるが、表面はなめらかに仕上げている。S20も丁寧に磨かれており、細かな擦痕が若干認められる。(平井)

M5は平根鎌で、残存長6.3cm、残存幅14.8cmを測る。鎌身部は三角形を呈し、短小な茎をつくる。

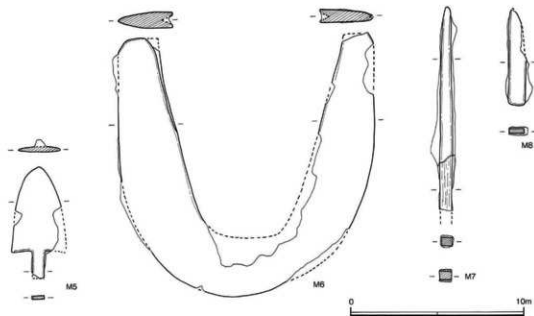
M6はU字鉄鍔先である。残存長15.0cm、残存幅14.8cmを測る。基部内縁には溝が確認できる。M7・M8は不明鉄製品である。M7は残存長11.7cm、残存幅0.7cmを測り、棒状の形態を有する。下端から4分の1付近には木質が確認できる。M8は残存長5.5cm、残存幅0.9cmを測り、棒状の形を呈している。(間所)



第31図 土墳墓2平・断面図 (S=1/30)



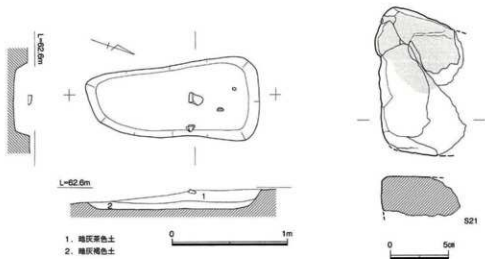
第32図 土墳墓2出土遺物1
(S=1/4・1/3・1/2)



第33図 土墳墓2出土遺物2 (S=1/2)

土墳墓3 (旧:土墳墓5)

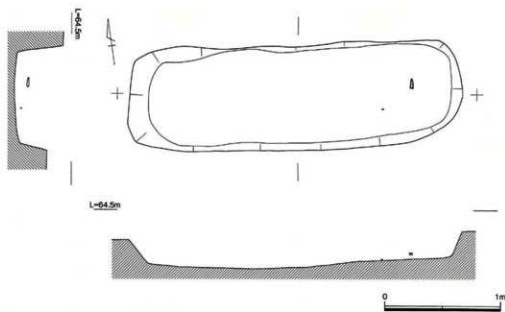
南端平坦部の中央からやや北東寄りに位置する。土墳4の南、溝状遺構2の東付近で検出され、長軸150cm、短軸最大長72cmの小規模な墓塚をもつ。検出面からの深さは17cmと遺存状況は不良である。1層の上層から礫が1点出土しており、火を受けたためか一面が黒化している。なお、1層からは鉄片2点も出土している。埋土の色調などから、弥生~古墳時代の土墳墓と考えられる。



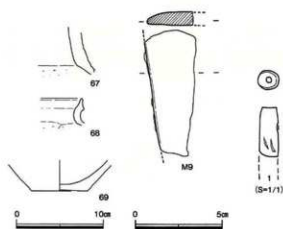
第34図 土墳墓3平・断面図 (S=1/30), 出土遺物 (S=1/3)

土墳墓4 (旧:土墳墓6)

南端平坦部の北側尾根上に位置する段1南端中央付近で検出された。長軸290cm、幅93cmの規模をもつ。地形は南に下がっており、北側の検出面からの深さは45cmである。



第35図 土墳墓4平・断面図 (S=1/30)



第36図 土墳墓4出土遺物 (S=1/4・1/2・1/1)

遺物は壺と甕が3点出土しているほか、棺底付近から鉄器片1点とガラス製管玉が1点出土している。いずれも東寄りに出土しており、頭部は東に位置していたと推定される。

67は長頸壺の頸部から肩部の破片で、頸部には沈線文が施され、沈線文の下端には刺突文が巡る。甕68は口縁端部が上方に立ちあがる。69は壺の底部である。これらの土器は、いずれも弥生時代後期後半の上東・鬼川市Ⅲ式併行期に属するものである。(平井)

M9は不明鉄製品である。残存長6.9cm、残存幅2.8cmを測り、端部から中央に向かって肥厚する。(間所)

管玉1は淡緑青色を呈する美しいガラス製で、半分近くが欠損した後研磨して再利用している。長さ14mm、径4.5～5.5mmを測り、弥生時代の所産と考えられる。土器から弥生時代後期後葉の時期が与えられるが、管玉からみても矛盾のないものと考えられる。(高橋)

2. 古墳群

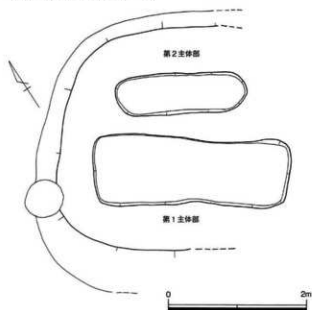
古墳は調査区外の上にも存在する可能性が高いため、下方から番号を付すこととし、調査区南端の平坦部に築かれた旧：土墳墓1・2を1号墳とした。

調査区北半の尾根筋では、調査前の地形測量図(第27図)からもみとれるように、等高線の幅が広い緩やかな箇所があり、墳丘の盛り上がりは確認できなかったものの、それぞれの箇所にも古墳の存

在が予想された。試掘トレンチでも掘り込みが認められ、周濠あるいは主体部の可能性が考えられた。

調査の結果、北半の尾根上からは3基の古墳が検出され、下方から2～4号墳とした。(平井)

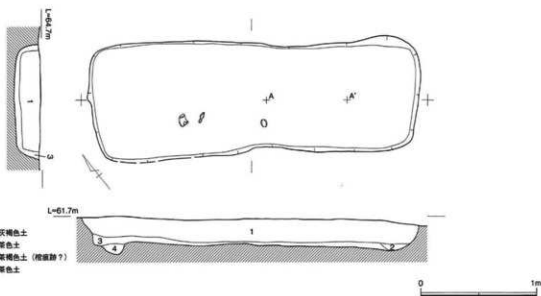
1号墳 (旧：土壊墓1・2)



第37図 1号墳平面図 (S=1/50)

1号墳は南端平坦部の西寄りに位置する。南北の中央付近にあり、大小2基の主体部が南東・北西方向に並列して存在する。当初は、上部が削平され墳丘や周濠が確認されなかったため、2基の主体部を土壊墓1・2として扱っていた。しかし、第1主体部から5世紀末～6世紀初頭と考えられる玉類を主とした多彩な装身具が出土したことや、3号墳からも同様の並びをもつ主体部が検出されたことから古墳と捉えた。なお周辺の地山の状況を精査した結果、成形痕の可能性のある盛り上がりが僅かながら確認できた。

第1主体部は、長さ290cm、幅105cm、検出面からの深さは25cmとなる。



第38図 1号墳第1主体部平・断面図 (S=1/30)

第1主体部からは、南東部に集中して装身具が出土し、耳飾りと考えられる一対の勾玉とそれに接してそれぞれガラス小玉が確認され、ガラス小玉も耳飾りの一部をなしていた可能性が高い。黄色のガラス小玉も検出され、その孔には鉄芯が残り、傍らには青銅の鈴が存在したことからブローチのような使用が考えられた。また、滑石製の白玉が多数出土しているほか、緑色凝灰岩製の管玉、赤く発

色させたメノウ製の管玉・丸玉、瑠璃色のガラス小玉などの多彩な玉類が出土しているが、これらの玉類は首と想定される付近には存在しない。また、首飾りのように垂下して中央に集中するような出土状況ではなく、垂下する玉飾りがそれぞれ独立して存在する。このことから、これらの装飾品は、胸飾りの類と推定される。腕付近には青銅製銅と手玉と想定されるガラス製小玉が出土している。なお、玉類に接して不明鉄器（M12）も出土しており、何らかの装身具に関連した遺物の可能性が高い。そのほかにも3点の鉄器が下半部から出土している。

これらの出土状況から、頭位は南東に向くものと思われる。（高橋）

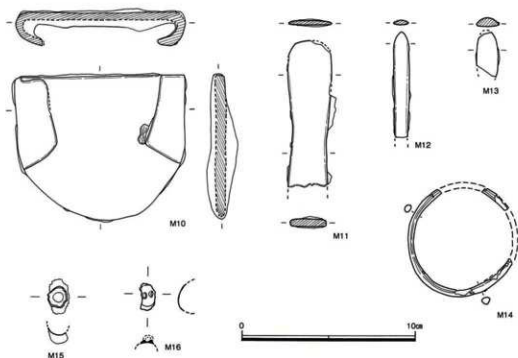
鉄器は4点出土しており、M10は鎌鏃先である。全長8.2cm、幅9.8cmを測る。基部は直線的で両端を折り返し、刃部は湾曲する。折り返し内部付近には、木柄装着時の痕跡と思われる木質が残存する。

M11～13は不明鉄製品である。M11は残存長9.0cm、残存幅2.4cmを測る。全体的に板状となり、基部は直線状、刃部は湾曲する。M12は残存長6.1cm、残存幅0.8cmを測る。全体的に棒状を呈しており、先端部は山形になる。M13は残存長2.5cm、残存幅1.2cmを測る。（間所）

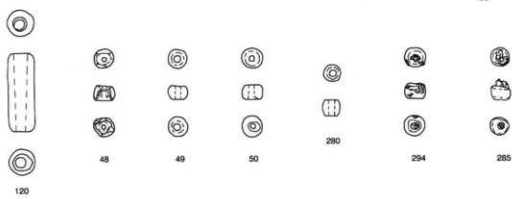
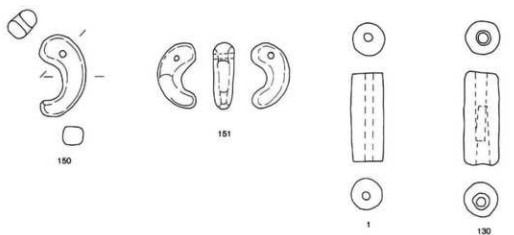
M14は内径5.5～5.6cmを測る円環形の銅鋼である。完形であったが遺存状態が悪く、取り上げの段階でいくつか破損した。鋼の断面は、太さ5～6mmの不整形な円形状をなしており、鑄造によって製作されたと考えられる。

M15・16は青銅製の鈴であり、いずれも遺存状態が悪く、環付近のみが残存していた。

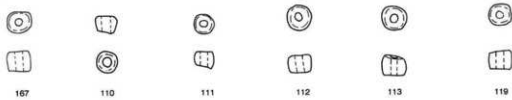
150・151は勾玉で、151は白色を呈する石製品であり、縞目がかすかに認められる。150は淡緑青色半透明のガラス製で、青味の強い部分が縞状に混じる。勾玉の頭部から尾部まで気泡列が並んで観察され、小瀬氏の分類による第3類にあたる（小瀬1989）。



第39図 1号墳第1主体部出土遺物1 (S = 1/2)



瑠璃色ガラス小玉

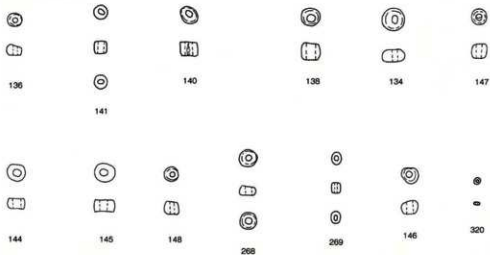


150 : ガラス製勾玉 151 : 石製勾玉 1 - 130 : 緑色凝灰土製管玉
 120 : 瑪瑙製管玉 48~50・280・294 : 瑪瑙製丸玉 285 : 黄色ガラス玉

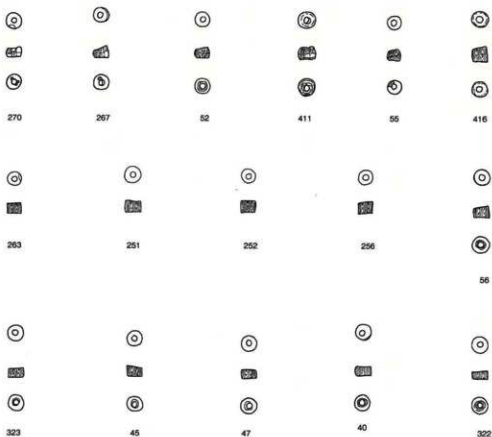


第40図 1号墳第1主体部出土遺物2 (S = 1/1)

暗青色半透明ガラス小玉

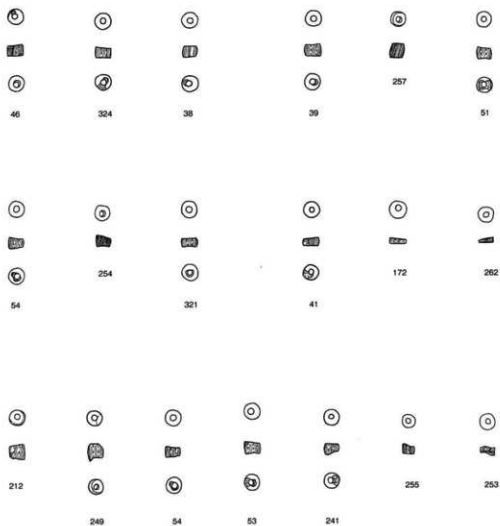


滑石製白玉



第41図 1号墳第1主体部出土遺物3 (S = 1/1)

滑石製白玉



銅鍍銀のガラス小玉 (手玉)



第42図 1号墳第1主体部出土遺物4 (S = 1/1)

1・130・120は管玉である。120は鮮やかな半透明赤褐色を呈する赤瑪瑙製で、赤色の濃淡が縞状に混じっている。孔はほぼまっすぐに開いており、孔内面にも艶と回転痕が認められる。色調から、加熱処理を施した赤瑪瑙で製作された（寺村光晴1980）と推定され、朝鮮半島製の可能性が考えられる。1は淡緑（灰）色硬質の碧玉製で、孔サラエがなされ孔内面にも艶が認められる。130は淡緑色軟質の緑色凝灰岩製で縞状の節理が観察される。両面穿孔で、玉の中央付近で大きくくいつまっている。やや風化が進行しており、遺存状況はやや悪い。

48～50・280・294は瑪瑙製の丸玉で、ていねいな研磨でよく艶出しされている。いずれも鮮やかな淡橙白色を呈しており、加熱加工されたと推定される。48は片面穿孔で、孔末には大きな断口がある。49・280の孔はほぼまっすぐに開いている。294の孔内には鉄芯が残っている。

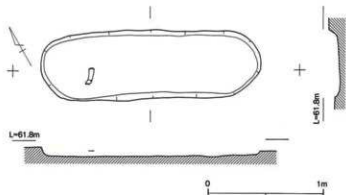
ガラス小玉は、すべて管切り法による古墳時代に通常の製品と考えられる（小瀬1987）。色調は玉類観察表のとおりであり、全体に小ぶりの玉である。瑠璃色小玉にはやや大きめのものと、極小で径2mm以下のいわゆる粟玉と呼ばれるものがある。また、瑠璃色に似るがやや色の淡い半透明暗青色小玉もある。また、淡青色小玉と淡緑青色小玉は、やや小さめでわずかに透過光が認められる。285の黄色不透明小玉の孔には鉄芯が残存している。（高橋）

第2主体部

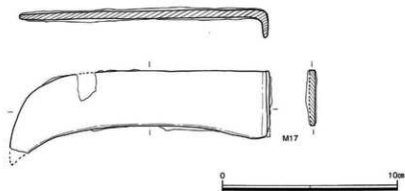
第2主体部は、第1主体部の北東側に30～40cmの距離を置き、ほぼ並行して築かれる。形態は小口側が丸く取られており、3号墳第1主体部の二段掘り墓壇の下部に類似する。第2主体部と第1主体部は近接した位置にあることから可能性は低いと思われるが、二段掘り墓壇の上部が削平され、下部のみ残った可能性も考えられる。

墓壇は長さ192cm、幅61cm、検出面からの深さは10cm以下で依存状況は悪いが、曲刃鎌が1点出土している。曲刃鎌など鉄器は足元に置かれることが多いことから、頭位は第1主体部同様南東方向を向くと考えられる。第1主体部と異なり、玉類は全く出土していないが、南東部は墓壇底まで3cm程度しか残っていない部分も多く、削平されたため残存していない可能性も残る。（高橋）

出土遺物は、図示しえない土器小片のほか、曲刃鎌が1点出土している。曲刃鎌M17は刃部の先端を僅かに欠くがほぼ完形に近い。長さ約15.0cm、幅3.8cmを測り、刃と背は鋒に向かって湾曲する。端部はほぼ直角に屈曲し先端を欠く。（間所）



第43図 1号墳第2主体部平・断面図（S=1/30）

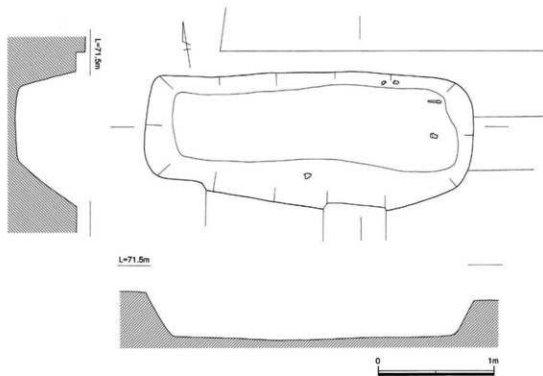


第44図 1号墳第2主体部出土遺物 (S=1/2)

2号墳 (旧：土塚墓9)

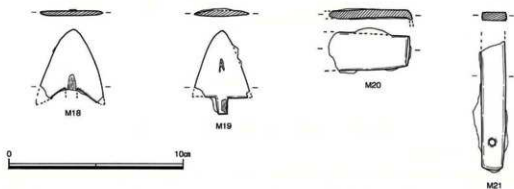
3号墳主体部から概ね10mほど南で墓塚が確認された。この主体部は、等高線の幅が広い緩やかな尾根上に立地し、3号墳や4号墳の主体部と同様に尾根の中央付近に位置する。このようなあり方から、墳丘や周濠は確認されなかったが古墳として捉えた。

墓塚の規模は長さ287cm、幅117cm、検出面からの深さは51cmである。木の根の攪乱で、上部での検出は困難であったが、中央トレンチと東西のトレンチで確認できた地山の掘削から掘方を追った。墓塚内上層部分で、東半に偏って鉄鎌が検出された。棺上に副葬されたものと考えられる。(平井)



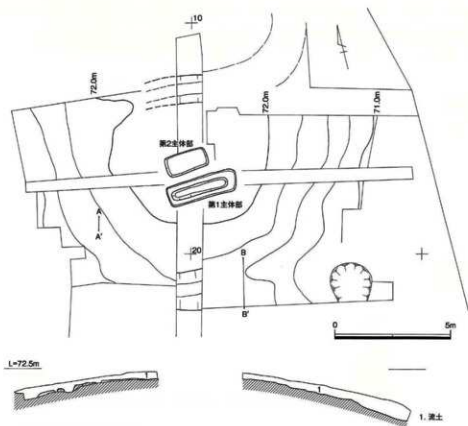
第45図 2号墳主体部平・断面図 (S=1/30)

出土遺物は鉄器のみで、M18・M19は鉄鎌である。M18は平根鎌で残存長4.2cm、残存幅3.6cmを測る。鎌身部は山形の刃部をつくり関は逆刺になる。残存状態は不良であるが、短小な茎部がX線写真により確認できる。また、鎌身部の中央付近に木製の根扶みが残存する。M19も平根鎌で残存長4.8cm、残存幅3.2cmを測る。鎌身部形状は三角形で短小な茎部を有し、表面には木製の根扶みが残存する。M20・M21は不明鉄製品で、M20は曲刀鎌・M21は刀子の茎の可能性がある。(間所)



第46図 2号墳主体部出土遺物 (S=1/2)

3号墳 (旧：2号墳，土墳墓7・土墳墓8)



第47図 3号墳平・断面図 (S=1/150)

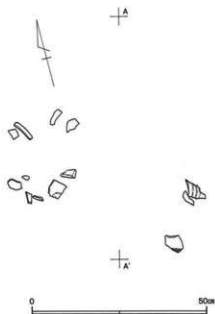
3号墳は、調査前の測量図によると、+20杭の北に緩やかに広がる尾根上に位置する。試掘時に墳丘は確認できなかったが、尾根中央に設定したトレンチで掘り込みが認められたことや、平坦な地形から古墳の存在が予想された。

発掘調査に入り中央の南北トレンチを精査した結果、盛土等は確認できなかったものの、墓壕らしき痕跡が確認されたため平面的な検出を試みたが、不明瞭であったため東西方向にトレンチを掘削し墓壕を確認した。なお東西のトレンチでも盛土の確認はできなかったため、すでに流失しているものと当初は考えていた。しかし墳丘上には須恵器が散乱し、それらの須恵器は南東部、南西部、北西部からそれぞれ同一個体片がまとまって出土したため、原位置に近い形で検出されたものと想定された。また墳丘外の尾根下方にこれらの須恵器が広く散在していない状況からも、墳丘は大量に流失したのではなく当初から低平に築かれたものと想定された。

須恵器を取り上げ地山面を追ってみた結果、墳丘を築く際の地山の削り出しと想定される面が検出できた。この成形成と考えられる面の等高線を測量すると、周濠らしき痕跡が南北で確認できた。北側は、調査の早い段階で4号墳の南側周濠として掘り上げていたものにつながっていくが、4号墳の周濠自体が明確につかめていなかったため、この掘り込みは4号墳ではなく3号墳の北側周濠にあたるものと考えられた。南側については、周濠と思しき箇所中央の南北トレンチで確認された掘り込みがつかえることから、3号墳の墳丘は8.6m程度の円墳と捉えられた。

墳丘から出土した遺物は、広口壺や甕、直口壺などの須恵器であるが、先述したように同一個体片がまとまって検出された。墳丘南東部からは広口壺の破片(第49図)が、南西部からは直口壺の破片(第48図)が、そして北西部からは出土状況の図示はできなかったが甕の破片が出土した。それらは一定程度の大きさに復元できたことから、原位置に近い状況にあったものと思われる。

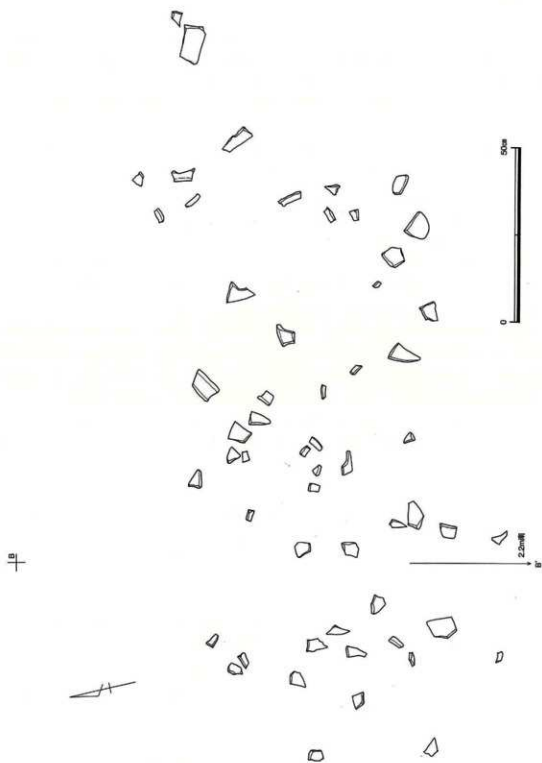
出土した須恵器のうち、70は孔の部分が見失われているものの甕と考えられる。口縁部はややナメ



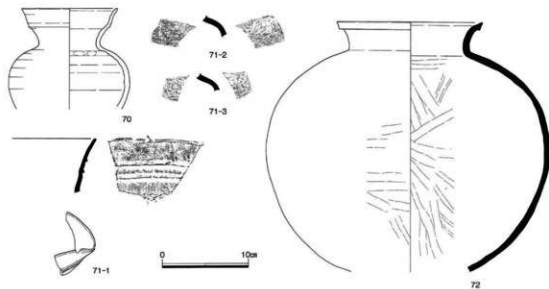
第48図 3号墳墳丘南西部
遺物出土状況 (S=1/10)

部が大きく歪んでいる。外面には2条の突帯が施されその下方は波状文で飾られている。71-2・3は、直口壺の頸部下端から胴部にかけての破片で、肩部付近に波状文を施す。広口壺72は口縁端部が短く立ち上がり、短い頸部から胴部が大きく膨らむ。外面はヨコナデを施し、工具によるナデが若干認められる。内面はナデを施した後、タテ・ヨコ・不定方向に幅の狭い工具で撫でた痕跡が顕著にみられ、奥ヶ谷窯跡出土のものにも同様の調整をもつものがいくつか認められる。この広口壺は、破片なども合わせて3分の2以上残存しており、ある程度原位置を保っていたことが窺える。

これら3個体の須恵器はいずれも初期須恵器の特徴を備えている。甕と広口壺は形態も整い胎土も緻密である。しかし直口壺に関しては口縁部が大きく歪んでおり、遠隔地から大切に運ばれてきたものとは考えにくく、近隣の窯から持ち込まれた可能性が高い。



第49图 3号墳填丘南東部遺物出土状況 (S=1/10)

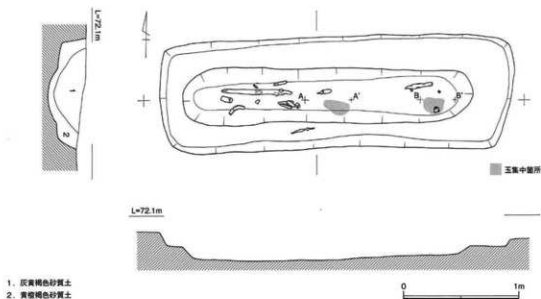


第50図 3号墳墳丘出土遺物 (S=1/4)

主体部は、墳丘中央付近に大小2基が築かれており、南端の平坦部上で検出された1号墳と同様の配置が認められた。

第1主体部 (旧：土壌墓7)

第1主体部は二段掘りとなっており、棺を設置したと考えられる内側の細長い掘り込みは底面がU字状を呈するため、舟底形の木棺を据えたものと思われる。長さ307cm、幅99cm、内側の棺の掘り込み部分は長さ253cm、最大幅50cm、検出面からの深さは二段掘りの上面までが24cm、下面が32cmを測る。



第51図 3号墳第1主体部平・断面図 (S=1/30)

棺内と思われるU字状の窠み内からは、約500点の玉類（ガラス小玉・滑石製白玉）や耳環などの装身具のほか、農工具・武具などの鉄器類がまとまって出土した。

一對の耳環が東側に位置するため、頭部は東に向いていたと想定される。耳環は出土例の非常に稀な小環付耳環で、北側に置かれた短刀の傍らから出土している。なお、東側の小環付耳環（M40）に接してガラス小玉が1点出土したほか、棺内の土澆しによってもガラス小玉が2点出土している。耳環とガラス小玉の出土状況や、他の玉類がすべて滑石製の白玉であることから、ガラス小玉は有機質のもので小環に取り付けた垂飾りではないかと想定される。検出できたガラス小玉は3点であるが、少なくとも2点ずつは垂飾していた可能性が高い。

玉類は2箇所にまとまって出土しており、耳環の周辺とそこから西へ約80cmのあたりにまとまりがある。位置的にみて頭部と腰付近にあたるものと思われる。平面的な出土状況も首飾りの類ではなさそうである。頭部付近に集中する玉類と共に鉄製の鉸具が出土しており、その上面には錆によって玉が連なり付着していた。玉を革などに綴じて頭に巻き、鉸具で止めたのではないかと推測される。

腰付近から出土した玉類はすべて滑石製の白玉で、墓壇の中軸線から南側に集中するため、左の腰付近を飾ったものと推定される。

なお、頭部付近から出土した白玉と腰付近から出土した白玉は、同じ滑石製ではあるがそれぞれ質的な違いが認められる。（平井）

鉄器はそのほとんどが西半から出土している。

M22～24は短頭鎌である。M22は残存長12.0cm、残存幅1.6cmを測り、鎌身部～基部までが完存する。鎌身部間はナデ岡であり頭部間は角岡となる。M23は鎌身部の一部を欠損するがほぼ完存する。残存長10.6cm、残存幅1.2cmを測り、鎌身部間はナデ岡、頭部間は角岡となる。M24は残存長8.0cm、残存幅1.8cmを測り、鎌身部間はナデ岡、頭部間は角岡になり基部は欠損する。

M25～27は平根鎌である。M25は残存長9.2cm、残存幅2.7cmを測り、山形の刃部と逆刺状の鎌身間になり、基部は欠損する。M26は残存長14.4cm、残存幅3.1cmを測る。山形の刃部をつくり、刃部の境界付近から基部に向かい幅を減じる。M27は残存長14.7cm、残存幅3.3cmを測り、鎌身部形状はM26と相似する。

M28は短刀である。残存長25.2cm、残存幅2.8cmを測り、刃間は斜角間、基部は直線的になり茎尻を欠損する。刀身には鞘および把の痕跡と考えられる木質が確認できるが、残存状況が悪く詳細な形状は不明である。

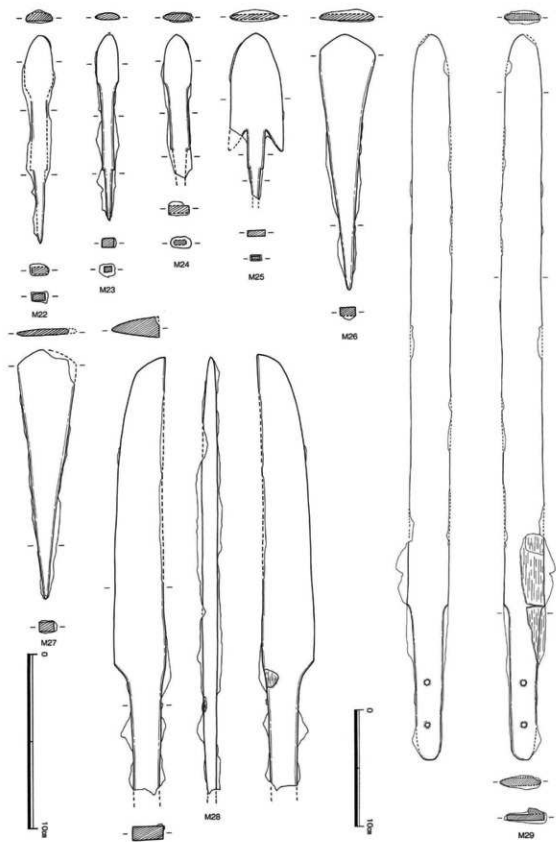
M29は長剣である。残存長63.2cm、残存幅3.5cmを測り、刃間は浅い撫間、基部は茎尻にむかい幅を減じ2つの目釘孔を穿孔する。剣身には鞘および把の痕跡と思われる木質が残存するが、短刀と同じく詳細な形状は不明である。

M30は袋状鉄斧である。残存長10.3cm、残存幅4.5cmを測り、基部から刃部の境界付近で緩やかに開き一文字状の刃部を有する。袋部断面は円形になり、基部断面は方形を有する。

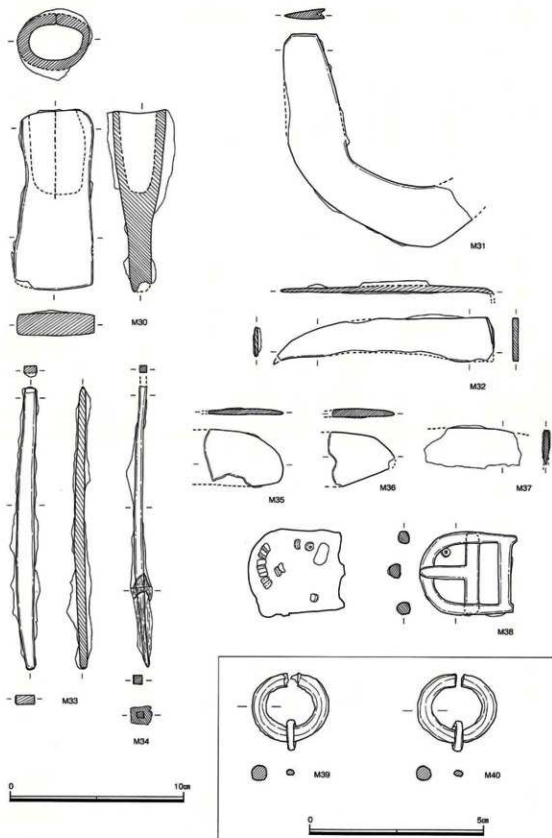
M31はU字銀鏃先である。残像長11.2cm、残存幅9.2cmを測り、全体の約2分の1を欠損する。

M32は曲刃鎌で残存長12.5cm、残存幅2.5cmを測る。刃部は鋒に向かい湾曲し端部はほぼ直角に屈曲する。鋒と基部の一部を欠損する。

M33は鑿もしくは鉋である。残存長16.3cm、残存幅1.1cmを測り、中央付近がやや肥厚する。先端には一文字状の刃部を有する。



第52图 3号墳第1主体部出土遺物1 (S=1/2・1/3)



第53图 3号墳第1主体部出土遺物2 (S=1/2・1/1)

耳飾り



3

頭飾り



22



217



18



11



213



206



25



32



224



7



211



30



33



208



26



13



218



14



24

腰付近の飾り

上層出土の白玉



200



198



204



203



186



182

下層出土の白玉



142



141

下層出土の白玉



165



166



158



170



162



155



152



第54図 3号墳第1主体部出土遺物3 (S=1/1)

M34～37は不明鉄製品である。M34は残存長16.3cm、残存幅0.4cmを測る。形態は棒状を呈し下端から3分の1付近に木質が残存し、2つの部材を合わせてつくられた痕跡が確認できる。M35は残存長2.9cm、残存幅4.3cm、M36は残存長3.1cm、残存幅3.5cm、M37は残存長2.4cm、残存幅5.5cmを測り、いずれも板状になる。

M38は鉸具である。残存長5.3cm、残存幅4.8cmを測り、外郭部は先端に向かいなだらかに湾曲する。また、指金と外郭部が雌雄状に装着されたことがX線写真から確認できる。出土時には玉が多数附着していた状況から装身具の一部と考えられる。(問所)

M39・40は小振りでやや細みの一対となる耳環で、小環が取り付けられている。M39は端部とその付近の内側が破損しているが、全体の形状は見て取れる。M40の遺存状況は良好で、表面の一部が僅かに破損し小穴が空いている程度である。両耳環は小環も含め、環に沿って幾筋かの扁平な面が形成されており、鍛造痕が顕著に認められる。本体の断面は面をもった円形であるが、端部付近の内外面は打ち出しによるものか平坦な面がみられる。小環も端部付近の作りは同様であるが、端部付近以外は、表面を丸く取め内側を扁平に仕上げている。計測値は、M39・40ともに径が20mm～22mmで端部に直交する側がやや長い。厚さ4.2mm前後である。小環はいずれも径約9.5mm、厚さ2mm前後を測る。

この耳環は、長柄毅氏のご厚意により蛍光X線分析を実施し、玉稿を附載として掲載している。分析の結果、金-銀合金板を被覆材として使用した銅芯金板張り耳環の可能性が高いとのことである。銀を含むためか、一般的な金環によくみられる濃い金色の色彩はなく、薄い金色に輝く耳環である。

(平井)

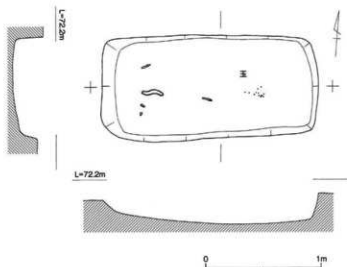
狩谷遺跡3号墳第1主体部からは、ガラス小玉3点と滑石製白玉466点が出土している。このうち原位置の滑石製白玉が390点確認されているが、4点は取り上げの際に粉末化してしまっている。このうちガラス小玉2点と滑石製白玉76点と破片多数は土渡しによって検出された。

滑石製白玉は出土した位置から、頭飾りと腰付近の飾りに使用されたと考えられる。頭飾りと推定される白玉は、暗灰色を基調としており、径5mm・厚さ2.5～3mm程度の大きさをしており、ガラス小玉をよく模倣しており、やや胴張りの白玉もあるが、胴部に稜線は認められない。小口面には研磨が施されている場合と、断面面のままのものがあるが、片面が研磨面でもう片面が断面面のものが多く、両面ともに研磨されている場合や、両面ともに断面面のままのものもある。穿孔は片面穿孔で、研磨面から穿孔されていることが多いが、断面面から研磨面に向けて穿孔されるものも少量認められる。

腰付近にまとまりをもつ白玉は、淡灰色～淡灰白色を基調としており、径3～4mm・厚さ1.5～2mmを測り、頭飾りの白玉と比べると白っぽくて小型である。胴部中央付近に弱い稜線があるものが多い。小口面は、頭飾りと同じく研磨される場合と、断面面のままの場合があるが、頭飾りと違い両面とも断面面のものも多い。穿孔は研磨面がある場合は研磨面から施されている。(高橋)

3号墳第2主体部(旧:土墳墓8)

第2主体部は、第1主体部の北側に35～40cm程度の間隔をあけて掘り込まれた長さ189cm、幅90cm、深さ25cmを測る小規模な墓壇である。底面が平坦で、箱形の木棺が使用されたものと考えられる。出土遺物は、U字鋏鋤先1点・刀子1点・不明鉄製品3点などの鉄製品とガラス小玉15点である。(平井)

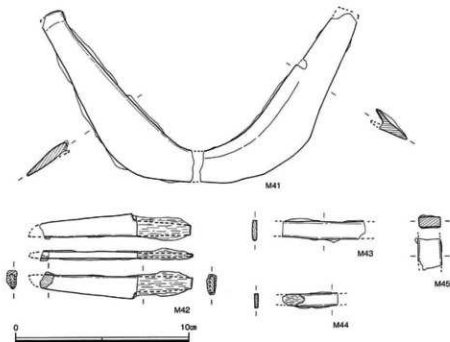


第55図 3号墳第2主体部平・断面図 (S=1/30)

出土した鉄器は以下のとおりである。M41はU字鋤先である。残存長10.0cm、残存幅13.1cmを測り、基部の中央付近を一部欠損する。形状は上部に向かい逆ハの字状に広がり、基部内縁には溝が確認できる。

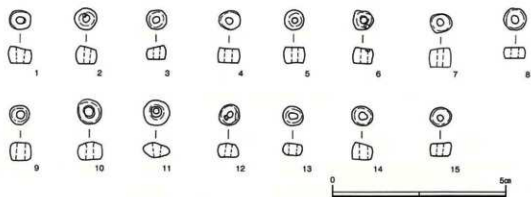
M42は刀子で、残存長8.7cm、残存幅1.2cmを測る。鋒は欠損し、刃間は斜角闊、茎部は茎尻までの幅がほぼ均一になる。表面には把および鞘の痕跡となる木質や布目が残存する。

M43～45は不明鉄製品である。M43は残存長4.8cm、残存幅1.0cm、M44は残存長3.2cm、残存幅0.8cmを測り木質が残存する。M45は残存長1.8cm、残存幅1.4cmを測る。 (間所)



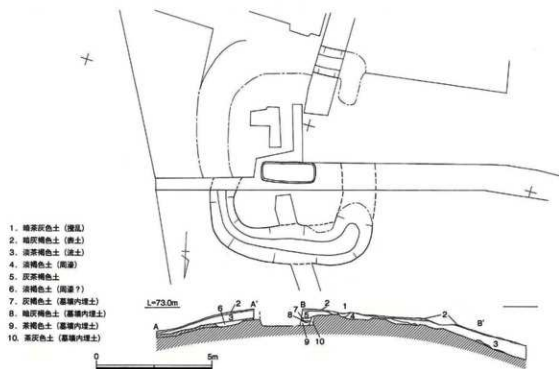
第56図 3号墳第2主体部出土遺物1 (S=1/2)

狩谷遺跡3号墳からは、ガラス製小玉15点が出土している。すべて色調は瑠璃色～暗青色半透明と似通った色調を呈している。3・5以外は、ガラス生地の中に原料の溶け残りとして推定される白色の異物が観察される。5・9以外は管切法によって製作されている。5は、切り様に前面研磨されており、気泡も観察されない。鋳型法によるものかもしれない。9は、玉の長軸方向に3層になっており、巻き付け小玉を重ねて加熱加工されたものと考えられる。孔内面には細かい凹凸があり、ロッド技法によって整形されたものと考えられる。11は算盤玉状の形状をしており孔は両側で大小があり、気泡は斜め縦方向に引き伸ばされている。素材のガラス管をロッドに通して加熱加工したものとして推定される。小口面は11が片小口のみ研磨されている以外は、両小口が研磨されている。(高橋)



第57図 3号墳第2主体部出土遺物2 (S=1/1)

4号墳 (旧: 1号墳・土墳墓10)



1. 暗茶灰色土 (深直)
2. 暗茶褐色土 (表土)
3. 淡茶褐色土 (表土)
4. 淡褐色土 (周濠)
5. 灰茶褐色土
6. 淡褐色土 (周濠?)
7. 灰褐色土 (墓室内埋土)
8. 暗茶褐色土 (墓室内埋土)
9. 茶褐色土 (墓室内埋土)
10. 茶灰色土 (墓室内埋土)

第58図 4号墳平・断面図 (S=1/150)

4号墳は調査区北端付近の尾根上に位置し、調査区内の遺構としては最高所に当たる。明瞭な墳丘の盛り上がりは認められなかったが、この地点は等高線の幅が広く古墳の存在を暗示していた。南北方向のトレンチ内で、周濠と推定される掘り込みが確認された。表面は木の根により攪乱されており、プランが不明瞭なことから地山の掘り込みを追って掘り進めたが、南側は不明瞭で、西側は北方向に地山が上がっていき周濠は途切れた。

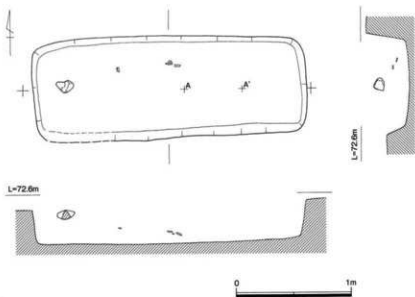
その後、3号墳の地山削り出し痕跡から、4号墳南側の周濠と考えられていたものは、3号墳の北側周濠であることが判明した。このことから、4号墳の南側周濠が存在するなら、もう少し北側に掘削された可能性が考えられ、主体部の南側に南北方向のサブトレンチを二箇所設定したが、どちらからも地山への掘り込みは確認できなかった。

トレンチの断面で周濠の位置を精査してみたところ、東西トレンチで周濠の可能性のある掘り込みが南北の壁で確認でき、概ね北半の周濠につながった。しかし、南側はすでに広く掘り上げられており、詳細を知ることはできなかった。

北半の周濠が確定であれば、4号墳の墳丘は東西6m程度の小規模なものと考えられる。

主体部は、長さ237cm、幅89cm、検出面からの深さは79cmを測る。西端寄りには棺底から浮いた状態で鏝が1点出土している。棺底に近い場所からは、中央付近および西寄りで鉄器が2点検出された。また東半部では双孔円盤1点と硬玉製勾玉1点、碧玉製管玉2点、そして滑石製白玉、ムティサラが多数出土しており、東に頭部を向けていたものと考えられる。

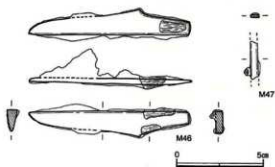
主体部も比較的小さく、また墳丘も小規模である可能性が高いにもかかわらず、多彩な玉類を多く副葬した特異な古墳である。 (平井)



第59図 4号墳主体部平・断面図 (S=1/30)

図示した鉄器は2点で、M46は刀子である。残存長9.4cm、残存幅1.4cmを測り、表面には把の痕跡となる木質が確認できる。

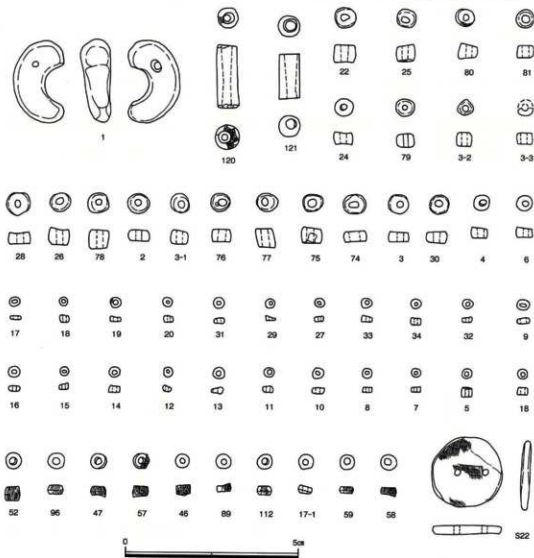
M47は不明鉄製品である。残存長2.1cm、残存幅0.4cmを測り棒状の形態を呈する。表面には白玉が



第60図 4号墳主体部出土遺物1 (S=1/2)

付着する。 (間所)

S22は滑石製の双孔円盤である。径20mm、厚さ3.0mmを測り、径1.7~1.8mmの2孔が開けられている。表面は風化のためやや残りが悪いが、製作時の細かい擦痕が表面に残る。鏡を模していると考えられており、小孔を二つ開けるだけの、もっとも簡素化されたタイプのものである。4号墳の主体部からは、硬玉製勾玉1点・碧玉製管玉2点・滑石製白玉52点・ガラス小玉63点と豊富な玉類が出土している。また墓室内廃土中からも滑石製白玉52点、ガラス小玉168点が出土している。



第61図 4号墳主体部出土遺物2 (S=1/1)

1の硬玉製勾玉は、純白の石基に少量の鮮緑色の部分が縞状に入る良質のものである。片面穿孔で丁寧に研磨艶出しされている。120・121は碧玉製の管玉で、120は濃緑色硬質で両面穿孔を行っている。全体によく艶出しされているが、片小口面のみ艶が少なく、断口も残されているので製作時になにか不都合があったのではないかと推定される。121は淡緑色硬質で両面穿孔であるが、ほとんど片面から穿孔されている。表面・孔内面ともによく研磨されている。石基にわずかに縞模様が見られる。

滑石製白玉は灰色～淡灰色を呈するわずかに透光性のある石材で製作されている。やや胴張りの形状で側面には細かい擦痕が残っている。孔は片面穿孔でほぼまっすぐに開けられており、小口面は打割面のままで研磨されていない。径3.8～4.7mm、1.6～3.6mmを測り、大きさにはバラつきがある。

ガラス小玉はいずれも管切法で製作されており、瑠璃色のもの18点と、赤褐色のもの45点の合計63点がある。瑠璃色の小玉は古墳時代に通用のもので、小口面は研磨されており、やや小振りのものである。赤褐色のものは、アフリカ大陸東岸部からインド～東南アジアにかけて分布する淡色玉：インド・パシフィックビーズの一種で、ムティサラと呼ばれているものである。ガラスに添加された銅コロイドによる発色で、酸化・還元バランスによって表面に黒色の筋が模様のように入っている。弥生時代後期から輸入され始め、古墳時代中期以降輸入量が増えて、後期以降大量に流入するようになる。(高橋)

参考文献

- 小瀬康行1987「管切り法によるガラス小玉の成形」『考古学雑誌』73-2
小瀬康行1989「古墳時代ガラス勾玉の成形法について」『考古学雑誌』75-1
寺村光晴1980「古代玉作形成史の研究」

第3節 包含層出土遺物

狩谷遺跡では、集落部分のほとんどが大きく削平を受けていたため、包含層から出土した遺物も非常に少ない。そのためここでは図示できる遺物はほとんど図化し掲載した。

73～75は弥生時代中期の土器である。73・74が甕の口縁部と底部である。75は高坏の脚である。76～89は弥生時代後期の土器で、76・77は壺口縁部、78～82が甕口縁部、83が鉢、84・85が壺底部である。87・88は高坏の脚部で、87は後期初頭、88は後期後半に比定できる。89は台付鉢の台の部分と考えられる。

90は古墳時代の須恵器製の口縁部で、小片ではあるが6世紀中葉前後に比定できると思われる。

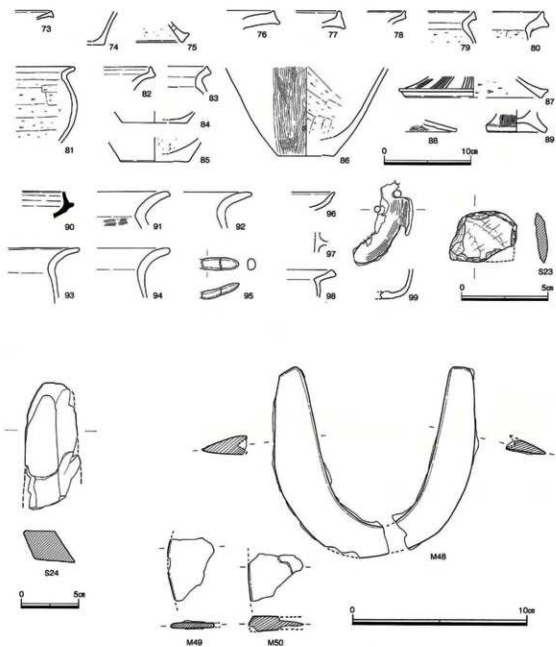
91～94は古代の長胴の甕と思われる。95は把手の部分で、橙色を呈する。

96～99は中世の土器で、96は埴、97は羽釜、98は土鍋、99は甕と考えられる。

S23は、一辺に調整を施して刃部とした小型のスクレイパーである。S24は縞状模様をもつ石材を使用した砥石である。(平井)

鉄器は3点出土しており、M48はU字鎌鋤先である。残存長14.4cm、残存幅9.2cmを測り、基部内縁には溝が確認でき、下部に向かって急激に湾曲する。

M49～M50 不明鉄製品である。M49は残存長3.6cm、残存幅2.6cmを測り、M50は残存長2.6cm、残存幅3.1cmを測る。(間所)



第62図 包含層出土遺物 (S=1/4・1/2・1/3)

第4章 総括

第1節 発掘調査の概要

1. 狩谷遺跡

狩谷遺跡では、調査区南半で集落が確認され、遺存状況は悪いものの上部を大きく削平された南端平坦部に遺構が集中していた。遺構の状況から集落はさらに南に広がると考えられるが、すでに山土採取によって消失している。平坦部の北側に残存する尾根上には、段状にカットされた面が二段認められ、それぞれに柱穴が散在する。段より北では集落関連の遺構は確認されていない。

検出された遺構は、住居址4軒、土塋6基、柱穴、溝状遺構、たわみなどであるが、確実に建物を構成する柱は確認できなかった。

出土遺物のうち最も古いものとしては、住居址1から出土した弥生時代前期新段階の甕小片があげられる。住居址に伴うものではないが、前期新段階からこの尾根上において人々の営みが始まったと想定される。中期中頃～後半の遺物も住居址1・3から出土しているが、これも住居址に伴うものではないと考えられる。

住居址4は遺物が出土していないため時期は不明であるが、形態から弥生時代に属するものと考えられる。他の3軒はいずれも弥生時代後期の所産で、最も古いものは上東・鬼川市Ⅰ式併行期と思われる住居址3である。次いで住居址1が概ね上東・鬼川市Ⅰ～Ⅱ式併行期に、そして最も新しい住居址2が上東・鬼川市Ⅲ式併行期と、ある程度継続的に築かれている。

住居址1からは、粘板岩製と考えられる小型の石製品が壁溝内から出土している。同一石材の、砥石と考えられる大型品も共に出土していることから、精緻な作りではあるが小型の携帯用砥石の可能性が高い。

そのほか住居址1・3と土塋5から、未製品も含め、石廂丁が4点出土している。いずれも小型で、1点を除きサヌカイト以外の石材を使用していることから、後期前半のものと考えられ、住居址の時期とも一致する。なお、住居址1・3にはみられなかった鉄器が、住居址2からは4点出土している。

以上、集落遺跡は上部を大きく削平されており、遺構や包含層からの出土遺物は総じて少ないが、弥生時代前期新段階から人々の営みが始まり、後期初頭からこの地が本格的な生活の場になったものと考えられる。

2. 土塋墓群・古墳群

土塋墓4基、古墳4基が確認された。

このうち1号墳と2号墳は、墳丘や周濠は確認できなかったが、第3章第2節で述べたように墓域の並びや位置的なことから古墳と判断した。土塋墓としたものの中にも、古墳の可能性がないとはいえないが、積極的に古墳とする根拠がなかったため土塋墓として扱った。

土塋墓

土塋墓のうち最も古く位置付けられるのは土塋墓4で、弥生時代後期の上東・鬼川市Ⅲ式併行期と考えられる。この土塋墓からは、青緑色不透明のガラス製管玉が出土しており、エンタシス状の管玉

が折損したものを再利用したものと推測される。色調や欠損したエンタシス状の管玉を再利用した形態が、三雲遺跡から出土したガラス製管玉に類似する（柳田ほか1981）。

土壌墓1も底面付近から甕の底部が1点出土しており、弥生時代後期の可能性はあるが周辺の集落からの混在とも考えられる。土壌墓2は、出土した土器やU字形鉄鍬先から、古墳時代でも5世紀段階のものと思定されるが、土壌墓1との距離が近いので古墳ではなく土壌墓とした。しかし土壌墓1が弥生時代に属するものであるなら、遺物のあり方などから墳丘は削平されているが古墳の可能性も考えられる。土壌墓3は、時期を判断できる遺物が出土していないため不明である。

古墳群

古墳は、主体部が1基の2・4号墳と、2基の1・3号墳がある。

特筆すべきことは、3号墳の墳丘上から初期須恵器がまとまって出土していることと、1号墳第1主体部、3号墳第1主体部および4号墳の主体部から大量の装身具が出土していることである。

1号墳第1主体部からは、銅剣、青銅製鈴、ガラス製勾玉・石製勾玉各1点（耳飾り）、碧玉製管玉、暗赤褐色に発色させた瑪瑙製管玉、淡橙色に発色させた瑪瑙製丸玉、ガラス製小玉（珊瑚色・黄色）、滑石製白玉など多種多彩な装身具が出土している。

3号墳第1主体部からは、非常に珍しい小環付耳環一対と、ガラス製小玉、滑石製白玉のほか、白玉が連なって付着した鉸具が出土している。また、鉄製の武器や農耕具も下半部を中心に出土している。

また4号墳の主体部からは、硬玉製勾玉、碧玉製管玉、ガラス製小玉、滑石製白玉、そしてインドパシフィックビーズと呼ばれる赤褐色を呈するガラス製のムティサラが多数出土した。

古墳は、墳丘が流失しているとはいえ、一辺あるいは径が10mにも及ばない小規模なものと想定されるが、副葬品、特に装身具は多種多彩で、近隣の小古墳とは明らかに異なる。特に1号墳第1主体部の赤色系に発色させた瑪瑙や銅剣、青銅製鈴、鉄芯が入った黄色のガラス小玉、3号墳第1主体部の小環付耳環、装身具と共に出土した鉸具、4号墳主体部の硬玉製勾玉、ムティサラなど特殊なものが認められる。

これらの装身具が多量に出土した古墳の時期は、3号墳が、初期須恵器や鉄製武器からみて5世紀前半でも中葉に近い時期と考えられる¹。1号墳は玉の組成などからみて5世紀末～6世紀初頭と思定される²。4号墳は碧玉製管玉と滑石製白玉の石質が良質で、作りが丁寧なことから6世紀初頭の可能性が高い³。

なお、2号墳の主体部では装身具の副葬は行われず、埋土上層から鉄鍬のみが出土している。鉄鍬からみて、2号墳は遅くとも5世紀後半までには築かれた可能性が高い⁴。

以上、1・3・4号墳のように、5世紀以降と考えられる小規模な古墳から特殊かつ多彩な装身具が出土していることや、3号墳墳丘から初期須恵器が出土していることなどから、朝鮮半島との密接な関係が想定される。

新本川流域の北側には、秦地域の一丁塚15号墳のように朝鮮半島の積石塚を彷彿させるような特殊な石積みをした5世紀代の古墳が存在する（高橋2017）。また時期は下がるが6世紀後半の金子石塔塚古墳（26m×20mの楕円形を呈する円墳）からは、盗掘されてはいたものの冠か飾履に付けたと考えられる歩揺付金銅製亀甲文板片などの特殊な遺物が出土している（鎌木・亀田1987）。さらに西に位

置する新本の横寺遺跡からは、詳細は不明であるが縄文末をもつ軟質土器片が集落から出土している(武田1994)。

このように、高梁川以西の新本川流域、とりわけ左岸にあたる北側に朝鮮半島からの文物や影響を受けたと考えられるものが多く存在する。高梁川以東の吉備中核地でも、狩谷古墳群の規模でこのような多彩な装身具をもつ古墳はほとんどない。渡来人の墓の可能性もあり、墓域が吉備中核地からはずれた場所に設定されたとも考えられるが、高梁川以東において造山・作山古墳に比較的近い場所で渡来人の集落が発見されており(弘田2000・平井2013)、高梁川以西の新本川流域にも渡来人の拠点となる集落が存在した可能性は高い。

註

- 1 平井・間所の所見による。
- 2 高橋の所見による。
- 3 高橋の所見による。
- 4 間所の所見による。

引用・参考文献

- 鎌木義昌・亀田修一1987「金子石塔塚古墳」『総社市史 考古資料編』
- 高橋進一2017「史跡整備に伴う一丁塚15号墳の確認調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』26
- 武田恭彰1994「新本新庄地区ほ場整備事業に伴う発掘調査1」『総社市埋蔵文化財調査年報』4
- 弘田和司編2000「高塚遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』150
- 平井典子2013「南溝手地内の保育所建設に伴う発掘調査概要報告 北西区の調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』22
- 柳田康雄ほか1981「三雲遺跡Ⅱ」『福岡県文化財調査報告書』第60集

第2節 初期須恵器について

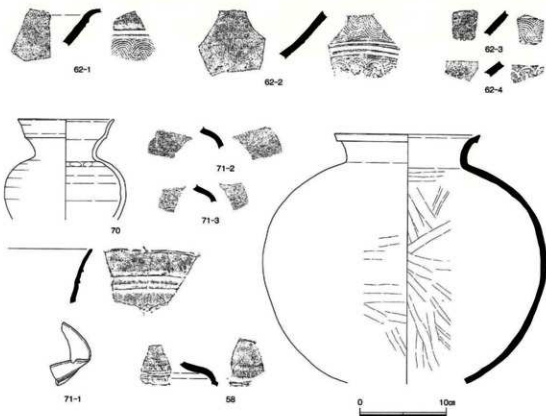
狩谷遺跡・狩谷古墳群からは、初期須恵器が5個体分確認されている。すべて南端平坦部の北側に位置する丘陵上からの出土である。そのうち3個体分が3号墳の墳丘上および周濠内から出土したもので、広口壺72は3号墳南東部の墳丘斜面から周濠内にかけて破片が広がっていた(第49図)。直口壺71は南西部から(第48図)、甕70は北西部からと、いずれもまとまって検出された。

そのほかの2個体は、58が段1から、器台62が段2およびその上方から出土している。58は類例がなく、天井部と考えられる面には自然釉が付着しているが、内面と考えられる面にはみられないことから蓋とした。

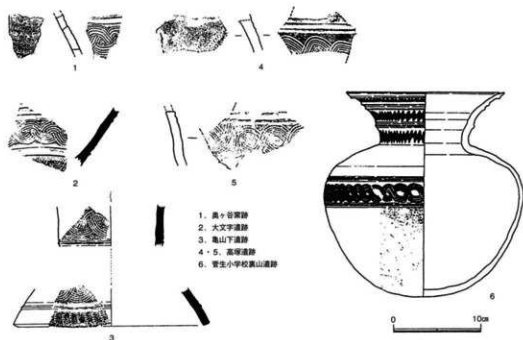
器台62には組紐文とコンパス文が施されている。近隣での類例をみると、組紐文は総社市奥ヶ谷窯跡(柴田1997)・大文字遺跡(前角1994)、岡山市高塚遺跡(柴田2000)、倉敷市菅生小学校裏山遺跡(中野1993)から出土しているが、コンパス文は皆無である。また、これらの初期須恵器のうち、甕・広口壺・直口壺・蓋は形態的に類似するものが近隣では認められない。

狩谷遺跡・狩谷古墳群から出土した初期須恵器は、蓋58を除く4個体について、白石純氏のご厚意により分析がなされ玉稿を賜った。本書に附載として掲載している。

その結果、広口壺と甕の胎土は陶色領域に分布するとのことである。広口壺の分析資料番号が2、甕が4である。組紐文とコンパス文を施した器台の胎土は奥ヶ谷窯跡の領域に分布し、分析資料番号は1である。



第63図 狩谷遺跡・狩谷古墳群出土初期須恵器 (S=1/4)



第64図 近隣の組紐文を有する初期須恵器 (S=1/4)
(各報告書から引用)

分析資料番号3の直口壺71はどの領域にも入らないとのことであるが、墳丘上の祭祀に使用したにしては口縁部がかなり歪んでおり、田中が指摘するように被葬者と須恵器工人との関係が推測される資料である。(田中2017)。このように歪んだ須恵器が、遠隔地からわざわざ運ばれてきたとは想定しにくい。胎土分析によると比較的近い奥ヶ谷窯跡から供給された可能性は極めて低いことから、高梁川以西に初期須恵器の窯が存在した可能性も想定される。

これらの初期須恵器の時期については、3号墳墳丘出土の初期須恵器から細かく時期を特定することは困難であるが、出土鉄鏝の時期も考慮して5世紀前半でも中葉に近い時期ではないかと考えられる。また、器台の組紐文は奥ヶ谷窯跡出土のものと同様、分削技法によるものであり、連接技法によるものよりは新しく位置付けられる(中久保2014)ことから、出土した初期須恵器は概ね5世紀前半の中葉に近い時期に位置付けられるのではないかと推測される。(平井)

引用・参考文献

- 柴田英樹1997「奥ヶ谷窯跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』121
 柴田英樹2000「高塚遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』150
 田中清美2017「吉備の須恵器生産の始まり」『古代吉備』28
 中野雅美1993「菅生小学校裏山遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』81
 平井典子2013「南清手地内の保育所建設に伴う発掘調査概要報告 北西区の調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』22
 前角和夫1994「前川地区は場整備事業に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』4
 中久保辰夫2014「野中古墳出土土器の性格と意義」『野中古墳と「倭の五王」の時代』大阪大学大学院文学研究科編

第3節 鉄鍬について

第3章でも述べたように、狩谷古墳群では武器や農具など多様な鉄製品が出土した。狩谷古墳群の鉄製品は以前にも年報において報告され、そのなかで3号墳については古墳時代中期後葉以降の年代が位置付けられた(高橋・村田2015)。しかし、年報による報告後、保存処理業務が実施されたことから、資料の形状等詳細な情報が明らかとなり再検討の必要性が生じた。本節では保存処理後の状況を受け、鉄製品の中でも編年研究が進んだ状況にある鉄鍬の年代について検討を加えたい。なお、資料の分類および編年については川畑純の論考を参考にした(川畑2009, 2015)¹。

鉄鍬の型式

土墳墓2では短茎長三角D式1点、3号墳第1主体部では短頸B1式が3点、大型先刃C式が2点、横刃脇扶柳葉C3式が1点、2号墳では短茎長三角B、D式がそれぞれ1点ずつ出土した。各型式の年代については短茎長三角B、D式がI～V期、大型先刃C式、横刃脇扶柳葉C3式、短頸B1式はⅢ期に存在する。

土墳墓2、2号墳出土鉄鍬の年代

土墳墓2、2号墳で出土した鉄鍬は存続年代が長期にわたるものであり、詳細な年代の提示は困難である。鍬形状以外の部分に着目すると土墳墓2、2号墳出土の鉄鍬は矢柄との装着時に根扶を用いるものであり、これらの型式は古墳時代後期以降の西日本では減少する傾向が指摘されている(尾上1993, 水野1995, 2009)。以上のような特長を勘案するならば土墳墓2、2号墳より出土した鉄鍬の年代は古墳時代中期後半までに納まることが考えられる。

遺構名	番号	型式	鍬身部長 (cm)	鍬身部幅 (cm)	頸部長 (cm)	頸部幅 (cm)
土墳墓2	M5	短茎長三角D	6.3	2.6		
2号墳 主体部	M18	短茎長三角B	(4.2)	3.6		
	M19	短茎長三角D	4.8	3.2		
3号墳 第1主体部	M22	短茎B1	(3.6)	1.6	(4.1)	1.0
	M23		(3.0)	1.0	4.8	0.7
	M24		3.2	1.5	3.5	1.2
	M25	横刃脇扶柳葉C3	7.8	3.0		
	M26		14.7	3.2		
	M27	大型先刃C	14.4	3.3		

3号墳第1主体部出土鉄鍔の年代

3号墳第1主体部出土の鉄鍔はいずれの型式もⅢ期古段階に該当するものである。しかしながら、3号墳第1主体部出土の短頸B1式は鍔身部～頸部間までの長さがやや長くなるものが確認でき、第52図M22で7.7cm、第52図M23で7.8cmを測る。短頸鍔は時期が降るにつれ、鍔身部～頸部間までの長さが長身化する傾向が指摘されており（鈴木2003、川畑2015）、3号墳第1主体部出土の短頸鍔は川畑分類の短頸B1式からB2式へと移行する過渡期のものと考えられる。したがって、3号墳第1主体部出土鉄鍔の年代は中期前葉の終わりを想定したい。（間所）

註

- 1 川畑編年各期の実年代については概ね、Ⅰ期は前期初頭～前期前葉、Ⅱ期は前期中葉～後葉、Ⅲ期は中期初頭～中期中葉、Ⅳ期は中期後葉～中期末葉、Ⅴ期は後期以降に該当する（川畑2015）。

参考文献

- 尾上元規1993「古墳時代鉄鍔の地域性—長頸式鉄鍔出現以降の西日本を中心として—」『考古学研究』第40巻第1号 61—85頁
- 川畑 純2009「前・中期古墳副葬鍔の変遷とその意義」『史林』第92巻第2号 日本史研究会 285—323頁
- 川畑 純2015『武具が語る古代史』京都大学出版会
- 川畑 純2015「五條墓塚古墳出土鉄鍔の製作系譜と編年の位置付け」『五條墓塚古墳の研究』奈良国立博物館 341—350頁
- 鈴木一有2003「中期古墳副葬鍔の特質」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第11集 帝京大学山梨文化財研究所 49—70頁
- 高橋進一・村田晋2015「狩谷遺跡・狩谷古墳群出土の鉄器について」『総社市埋蔵文化財調査年報』24 総社市教育委員会 45—49頁
- 水野敏典1995「東日本における古墳時代鉄鍔の地域性」『古代談叢Ⅳ—滝口宏先生追悼考古学論集—』早稲田大学出版部 423—441頁

第4節 玉類について

狩谷古墳群からは装着状況が復元できる多種多様な玉類が出土しているが、これらの装着状況については第5節に記載するので、ここでは個々の玉について検討を加えたい。

土墳墓4

鮮やかな青緑色不透明の美麗なガラス製の管玉が1点出土している。もとエンタシス形状の製品が約半分に毀損したものと推定され、毀損面には研磨が施されている。毀損面では、同心円状のガラスの重なりが観察され、巻きつけ技法で製作されたと考えられる。孔内には小さな凹凸が観察され、ロッドに塗られた剥離剤の状況が推定される。ガラス生地中に少量の気泡が認められ、玉表面に泡切れも観察されることから、ロッド技法による成形後研磨して仕上げられたものと推定される。玉表面には打痕状の欠損がいくつか認められ、使用中の破損と考えられる。この土墳墓の唯一の副葬品であることから、被葬者に長く愛用され、棺に納められたものと推定される。

1号墳第1主体部

墓墳の検出面から10cm程度の深さのところから、勾玉2点、管玉3点、瑪瑙製丸玉5点、ガラス小玉77点、滑石製白玉388点の合計475点が出土した。詳細な装着状況に関しては、第5節で詳述するが、垂下するように白玉を連ねて先端に管玉を縦方向に配した垂れ飾りと、金銅製の鈴2点と鉄芯の残存する黄色のガラス小玉・瑪瑙製丸玉4点を組み合わせた飾りを配し、左腕脇にも同様に垂下するように白玉を連ねて先端に鉄製品を配した垂れ飾りが認められる。これらの出土状況からこの胸飾りは、玉や金銅製の鈴を組み合わせて垂下させて装飾したものと推定される。おそらくは歩揺のように体の動きにあわせて揺れ動く効果をねらっていたものと推定される。

2点出土している勾玉のうち、150の淡緑青色半透明のガラス製のものは小瀬康行氏の分類による第II群の、気泡列が頭部から尾部方向に走る勾玉に分類される¹。国内で一定量出土しているが、国産品とは考えにくい。具体的な制作技法は明らかでないが、一定量以上のガラスを一度に融解させて加工した可能性が高い。151の白色石製のものは片面穿孔されており、表面は丁寧に研磨されている。石材名は不明であるが、緻密で縞目がかすかに認められる。あまり類例のない製品である。

瑪瑙製の玉類が6点出土している。120の瑪瑙製の管玉は暗赤褐色半透明を呈しており、よく似た石質の菓玉が倉敷市橋築遺跡²や岡山市百間川原尾鳥遺跡³から出土している。瑪瑙製の丸玉(48・49・50・280・294)は淡橙色半透明を呈している。すべて片面穿孔されており、孔内には顕著に回転痕が残る。開口部と孔末の径差がほとんど見られないことから管錐による穿孔の可能性もある。これらの鮮やかな色調の赤瑪瑙製品は、瑪瑙原石を焼成発色させてから加工したものと推定され、日本列島では近世瑪瑙細工において実施されている⁴が、古代玉作遺跡においては確認できない。こうした穿孔技術や加熱発色加工が施された製品は朝鮮半島で多く出土していることから朝鮮半島系の遺物であると考えられ⁵、これらの瑪瑙製品はすべて輸入品であると推定される。

緑色凝灰岩製の管玉(1・130)は国産と考えられ、両方とも両面穿孔されている。1は硬質で表面も艶出しされており、淡緑色を呈している。孔内は孔サラエされており、両孔の接合部の段差もほとんどなくなっている。出雲玉作では基本的に古墳時代中期後半以降の管玉は片面穿孔されることと、

碧玉の材質感が出雲産とは若干異なるため、製作地は出雲玉作以外と推定される。130は淡緑白色を呈し、軟質で粉っぽく表面も荒れている。孔は玉中央付近で大きくくいちがう。軟質緑色凝灰岩製としては大型のものに分類され、東日本での出土品に類似する⁶⁾。このように緑色凝灰岩製管玉に関しては出雲玉作遺跡以外で製作され、搬入されたものである可能性が高いと考えられる。

ガラス小玉は素材のガラス管を切断したのち、加熱加工して切断面のバリを丸めて製作している。大部分のガラス小玉は、加熱処理した後にさらに両小口を研磨加工しているが、片小口のみ研磨処理されているものも認められる。径2mm前後の極小のガラス小玉：粟玉においてもガラス管切断後、加熱処理～研磨されているが、加熱加工のみで、小口を研磨されていないものも多い。孔内に鉄芯の残存する不透明黄色ガラス小玉の小口も研磨加工されていない。国産ガラスの製造開始は飛鳥池遺跡以降と考えられるので、古墳時代までのガラス小玉はすべて輸入品と考えられる。

白玉は、石質・色調・形状ともにバラエティーに富んでいる。側面形状も平行になっている大多数のもの他に、胴部中央付近に稜線を持つものや胴張りのものも認められる。いずれも1点ずつ製作する個体作りによるものと推定されるが、いくつかの工房で異なった時期に製作された製品が混在している可能性もある。古墳時代中期末に比定される勝負砂古墳⁷⁾は、渡来系の色彩が極めて強いが、出土している白玉は国産品と考えられる。

以上のように、1号墳第1主体部出土の玉類は、近年の古墳時代研究の進展もあって、渡来系の色彩の強い玉類が含まれていることが明らかとなった。このことは、胸飾りと推定される装身様式ともあいまって被葬者の性格を窺い知る手がかりとなる。

3号墳第1主体部

原位置から滑石製白玉387点（うち粉末化したもの4点）・ガラス小玉1点が、原位置からの遊離や廃土の水洗によって、滑石製白玉109点・破片少量とガラス小玉1点・破片少量が出土した。原位置の確認できる玉からは、頭飾りと腰付近の飾りとして使用されたことが推定された。

装身具の中心となるのは滑石製白玉であるが、頭飾りの白玉は、腰付近の飾りのものに比べてやや大振りで色調も黒っぽい。側面は、弱い稜線もしくは胴張りになっているものもあるが、大多数のものは稜がなく、側辺が平行のものである。白玉の小口面は研磨されているが、片面が断面のまま残されているものも半数弱認められる。穿孔はすべて研磨面から施されている。

対して腰付近の白玉は頭飾りの白玉と比べて小振りで白っぽく、弱い稜線があるか、胴張りとなっている。小口面は研磨されるが、一方の小口が断面のまま残されているものも約半数ある。また少量であるが両小口ともに断面のままのものも認められる。穿孔は基本的に研磨面側からなされるが、断面側から研磨面にむけて穿孔されているものも僅かに認められる。

また、耳飾りを構成していたと推定されるガラス小玉は、一般的な管切技法によるものではなく、巻き付け技法によって製作された環形に近い、やや大振りの瑠璃色のものである。原位置で完形のものが1点と、廃土の水洗によって2個体分程度の破片が検出された。この形態の巻き付けによる大振りのガラス小玉の出土例は稀である。

3号墳第2主体部

ガラス小玉15点が出土している。すべて暗青色半透明～瑠璃色の似た色調のものである。5・9・

11以外は、普遍的なガラス小玉の製法である管切法～小口研磨で製作されている。5は玉表面全体を切り状に研磨加工しており、磨りガラス状の表面仕上げになっている。9はガラスを、剥離剤を塗った鉄芯に巻き取る巻き付け技法か、ガラス小玉3点程度を剥離剤を塗った鉄芯に順に通して加熱し1つの玉に整形するロッド技法で製作されたものと判断された。11は切断したガラス管を、剥離剤を塗ったロッドに通し、加熱加工して小口を仕上げたものと考えられる。玉の側面観は算盤玉状であり、孔には大小が認められる。ガラス小玉を素材として加熱再加工している可能性もある。15のガラス生地には石英のような白色の異物が多く認められ、ガラス原料の溶け残りの可能性が高い。以上のようにわずかに15点のガラス小玉のなかに、古墳出土のガラス小玉としては、あまり見かけない玉が含まれている。

4号墳

原位置から硬玉製勾玉1点・碧玉製管玉2点・瑠璃色ガラス小玉18点・ムティサラ45点・滑石製白玉52点の計118点が出土した。また、原位置からの遊離や塵土の水洗によって、滑石製白玉52点とムティサラ168点⁸⁾の計220点が出土している。1の硬玉勾玉は、純白地に鮮緑色が少量筋状に混じる良質のもので、糸魚川産の硬玉ヒスイと考えられる。片面穿孔され逆C字形を呈しており、孔の開口部は錐ブレのためかやや楕円形をなしている。

碧玉製管玉2点のうち、120は暗緑色、121は淡緑色を呈する硬質のもので、両面穿孔されている。碧玉の石質からどちらも出雲玉作の製品とは考えにくく、勾玉とともに北陸方面の玉作遺跡からもたらされた可能性が高い。

白玉の原料滑石は白っぽく、蠟石質でやや透光性のある良質のもので、個体作りと推定される。いずれも小振りで丁寧な作りのものである。

ガラス製小玉はすべて管切法で製作されており、小口面は研磨されている。径3mm以下のムティサラの小口面も研磨されていることが特筆される。

まとめ

個々の遺構から出土した玉類を検討してきたが、もっとも普遍的に出土している滑石製白玉についてみると、1号墳第1主体部の白玉は、石質・色調・形状ともにバラエティーに富んでいる。使用石材は、淡灰色～淡緑灰色を呈しており、側面形状においては、大多数の平行になっているものの他に、胴部中央付近に稜線を持つものや胴張りのものも認められる。いずれも1点ずつ製作する個体作りで製作されたと推定されるが、いくつかの工房で異なった時期に製作された製品が混在している可能性もある。3号墳第1主体部の白玉は、大振りで黒っぽい頭飾りと、小振りで白っぽい腰付近出土のもの二種類が出土している。4号墳から出土した白玉のほとんどは、白っぽく蠟石質でやや透光性のある滑石原石を使用しているが、ごく僅か普通の不透明灰色の滑石が使用されている。以上のように、各出土遺構によって白玉に違いが認められることが判明した。

ガラス製玉類については、狩谷土塚墓群の中では最も古く位置づけられる土塚墓4から出土した美麗なガラス製管玉や、3号墳第1主体部出土の巻き付け法による円環形状の小玉、そして3号墳第2主体部出土のガラス小玉を再加工したと考えられる小玉など、出土例の少ないものが認められる。

なお、1号墳第1主体部出土の焼成発色させた瑠璃製玉類など、渡来系の色彩の強い玉類が出土し

ていることは特筆される。

以上のように、本古墳群から出土した玉類については、ガラス玉の再加工作品と考えられる玉や渡来系の玉類の出土など、高梁川西岸の古墳群の性格を考える上で、重要な資料となると考えられる。

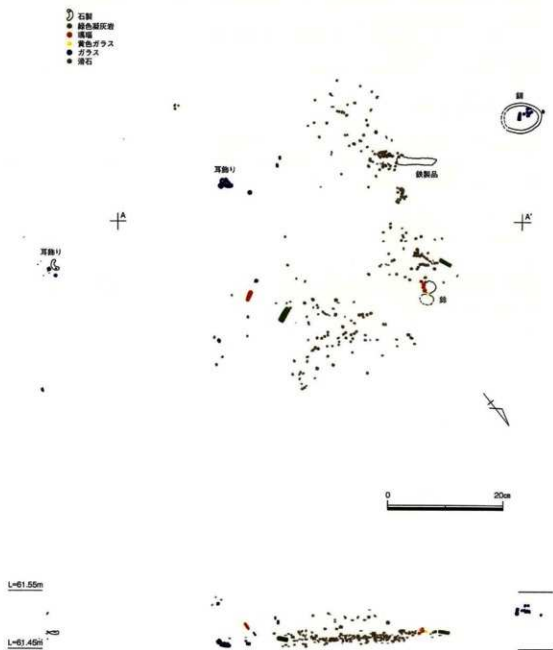
(高橋)

註

- 1 小瀬康行1989「古墳時代ガラス勾玉の成形法について—内部気泡の観察を中心として—」『考古学雑誌』75-1
- 2 近藤義郎1992『稲葉弥生墳丘墓の研究』
- 3 平井 勝編1995「百間川原尾島遺跡4」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』97
- 4 寺村光晴1966「古代玉作の研究』
- 5 鳥根県古代文化センター 鳥根県埋蔵文化財調査センター 2009『出雲玉作の特質にかかるとの研究 —古代出雲における玉作の研究Ⅲ—』
林天秀・菅家文則ほか2016『玉から古代日韓交流を探る』第2回 古代歴史文化協議会講演会試料
- 6 註5に同じ
- 7 松木武彦ほか2009『勝負砂古墳 調査概報』岡山大学考古学研究室編
- 8 ムティサラは、径3mm前後と小さく、色調からも墓塚埋土内では確認しにくい。また、原位置を維持することも困難であったため、遊離あるいは水洗によって検出したものが多い。

第5節 装身具の装着状況について

今回の調査では、1号墳第1主体部・3号墳第1主体部・4号墳主体部から大量の玉が出土した。作業員さんが原位置から動かないように丁寧に丁寧に掘り進めて下さったため、装着状況を検討することができる貴重な資料となった¹⁾。



第65図 1号墳第1主体部 装身具出土状況 (S=1/6)

1号墳第1主体部出土装身具

装身具は東半部に分布する。ガラス製勾玉と石製勾玉がそれぞれ1点ずつ出土しており、位置的に耳飾りと推定されるが、遺体の縦軸方向に分布するので、遺体が腐敗した段階で首が落ち、耳飾りが出土位置に動いたものと想定される。また勾玉と近接してガラス小玉が各2点出土しており、これらの小玉も耳飾りとして使用されたものと考えられる。なお、取り上げの最終段階で、石製勾玉周辺に極小ガラス小玉(約2mm以下)の分布が確認できた。極小ガラス小玉は原位置での発見が困難で、土壌しによって24点の出土をみたが、出土状況図には反映できなかったものの、ガラス製勾玉に接して極小ガラス小玉の存在することが写真によって判明した(第26図版)。これら、勾玉とガラス小玉、極小ガラス小玉の3種がセットになって、耳飾りを構成していたものと捉えられる。

その他の玉類は、耳飾りによって推定される頸部付近の位置には全く存在しない。また首飾りのように中央に向けて垂下する状態にもないことから、首飾りの類ではなさそうである。多種多様な玉類は、中心軸に対して広く横に広がり、中心付近にはVの字に連なった白玉の先端に管玉が位置する。これが中心の飾りとなる可能性が高い。その両外側に位置する玉類も、それぞれ直線的に垂下している。また、V字に連なる白玉の北側では黄色のガラス小玉が検出され、孔内に鉄芯が認められた。その両側には青銅の鈴が、その傍らには瑪瑙の丸玉が並んで出土し、ブローチ的な使用がなされたものと推測される。なお、中軸線の南側には白玉と共に薄い板状の鉄器(第27図版)が出土しており、装身具の一部をなしていたものと推測される。

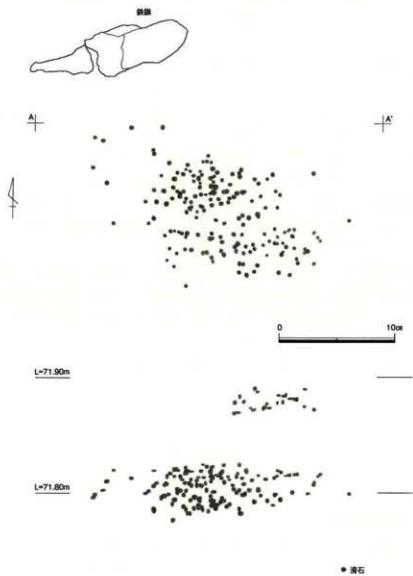
このような分布状況から、これらの玉類を主とした装身具は、布あるいは衣服などに綴られ、遺体の胸付近に置いたか、衣服として着せたものという可能性が考えられる。耳飾りと腕飾りを除いた玉類の平面的な分布は、概ね長軸方向に45cm、短軸方向に55cmと広い範囲に認められるが、立面では2cm前後の間に直線的に集中する。まばらに散ったものを含めても6cm内に収まる。体の丸みに沿った分布を示していないことから、玉を綴った布もしくは衣服を遺体に掛けた可能性が高いように思われる。衣服として生前身につけていたならば、垂下する玉飾りは、歩揺の効果を担ったものと推定される。

銅釧の内側に12点、外側に接して1点のガラス小玉が出土しており、これらは銅釧とともに手玉として手首を飾ったものと想定される。ただ、手首を取り巻くだけの点数がないため、有機質の玉などが共に使用されていた可能性が高い。

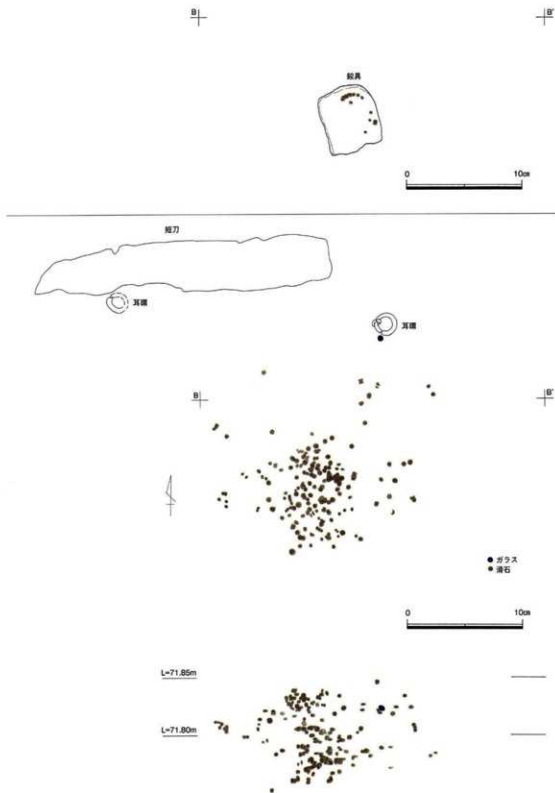
3号墳第1主体部出土装身具

玉類は、墓塚中軸線より南側に位置し、東端および中央付近の2箇所に分かれて集中する。東端の集中部付近では一対の小環付耳環が出土していることから、この付近が頭部と推定される。二つの耳環は短刀の傍らとその付近にあり、耳環の位置は白玉の分布からはずれて墓塚の主軸にほぼ平行することから、頭部が腐食して落ち移動したにしては不自然に感じられる。

第3章でも述べたように、東側の耳環に接するようにガラス小玉が1点出土している。このガラス小玉を除くと、墓塚から出土し原位置が捉えられた玉はすべて滑石製の白玉であり、調査時に原位置から遊離した玉や土壌しで出土した玉も、白玉以外にはガラス小玉が2点出土しているにすぎない。このあり方から、ガラス小玉は耳環との関係で捉えられるものと推測され、有機質のもので小環に取り付けた垂飾と想定される。ガラス小玉は土壌し分も含め3点出土していることから、検出できなかった



第66图 3号墳第1主体部 腰部付近装身具出土状況 (S=1/3)



第67図 3号墳第1主体部 頭部付近装身具出土状況 (S=1/3)

た玉の存在を考慮すると、少なくとも2点ずつは垂飾していた可能性が高い。

白玉は頭部が存在したと推測される箇所に集中しており、その上部からは錆により白玉が連なって付着した鉄製の鉸具が検出された。白玉の立面は10cm弱の厚みをもって分布することから、革のようなある程度の硬さをもった有機質のものに玉を綴じ、頭部あるいは髪に巻いて鉸具で留めたものではないかと推測される。頭飾り、あるいは髪飾りの類と想定される。

東側の集中箇所から70～80cm程度西側に、もう一つの白玉集中箇所があり、平面では東西23cm、南北14cmの範囲に広がるが、特にまとまりがみられる範囲は南北10cm程度である。同じ滑石製ではあるが、東側のものとは質が若干異なり、それぞれ別に製作されたものと推測される。この位置は、ちょうど腰付近にあたと推定され、墓塚の中軸線から南に偏在するため左側の腰の付近に位置すると考えられる。

立面図によると、玉の集中箇所は4cm程度の間隔をあけ上下2箇所に分かれる。上方の玉は東寄りに短く、下方の玉は、上方の玉の東端付近から西に長く延びる。なお、上方の下端と下方の上端の玉が直線的に並ぶことから、上下の玉の間には何らかの平らな面をもつ有機物が存在した可能性も考えられる²。

以上、3号墳第1主体部から出土した玉類を主とする装身具は、いずれも首飾りを想定するような出土状況にはなく、布や革などに綴り遺体に装着したものと捉えられる。

4号墳主体部出土装身具

玉類は墓塚の中心付近から東寄りで検出され、東西50cm、南北25cm内に散在する。位置的には遺体の胸付近に当たるものと推定される。これら硬玉製勾玉・碧玉製管玉・ガラス小玉・滑石製白玉そしてムティサラはそれぞれの分布が異なって平面的に広がる。立面からみた玉も、平面同様素材や玉の種類によって分布が異なり、4号墳主体部の玉類もやはり首飾りではなさそうである。玉類を綴ったものを胸飾りとして使用した可能性が高い。

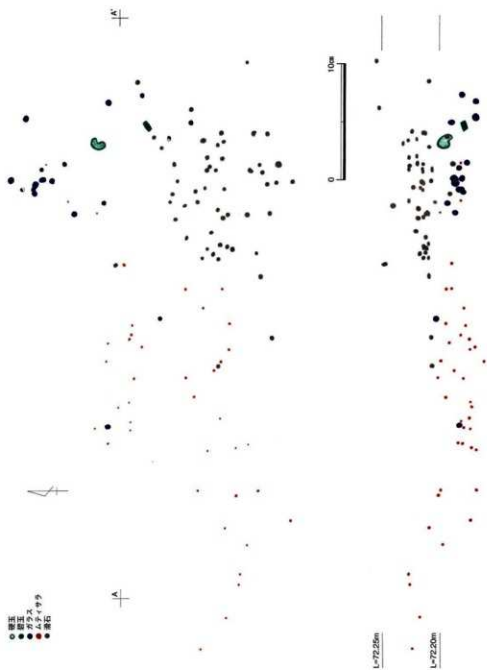
立面図によると、墓塚中軸線から概ね南に位置する白玉は、北側の玉に比べレベルが高い。胸飾りとして使用したのであれば、体の端に行くにしたがいレベルは下がると考えられるが、5～7cm内外のこととはいえ、中軸線南側の白玉はすべて高く位置する。このあり方をいかに捉えるべきか疑問が残る。

なお、ムティサラは、平面的には白玉と一連のものにみえるが、立面図によると白玉よりは低い位置にあり、それぞれ別の布などに綴った可能性も考えられる。

以上、1号墳第1主体部・3号墳第1主体部・4号墳主体部から出土した、多数の玉類を主とした装身具について、その出土状況から装着状況を類推してきたが、いずれも首飾りと想定することのできないものであった。これらの装身具は、玉衣などのような衣服を含む布や革などに綴られたもので、胸飾りや頭飾り、腰付近の飾りに使用された可能性が高い。

大化の薄葬令に「飯含無、以珠玉。無施珠襦玉押。」とあり²、死者の口に珠玉を含ませる習慣をやめ、珠を貫いて飾りとした短衣や珠玉の飾り箱を置くこと無しとしている³。大化の薄葬令についてはその実効性が疑問視されているが、この記述からみて、いつから行われたかは不明であるが、薄葬令が出される以前、葬送に際しての玉飾りの風習が様々な形で存在していたことが窺える。

狩谷1号墳第1主体部・3号墳第1主体部・4号墳主体部から出土した玉類を主とした装身具の



第68图 4号墳主体部 装身具出土状況 (S=1/3)

様々な使用は、これらの古墳の時期から、5世紀中葉以降には既に行われていたと考えられるが、それ以前はどのような用方をされたのであろうか。

第1節でも述べたようにこれらの古墳は小規模で、狩谷3号墳の墳丘は約8.5m、4号墳は約6m、1号墳は上部を削平されているが、地山の成形痕らしきものからみて、10mを超えるとは考えにくい。このような小墳から、多彩な装身具が多数出土し、赤く発色させた瑪瑙や小管付耳環などの極めて出土例の少ないものが認められる。周辺の同規模墳からは、同様の遺物は出土していないため、被葬者の性格を窺い知る手がかりとなる。

狩谷遺跡では段1・段2とその上方や3号墳墳丘上から初期須恵器が出土していることから、朝鮮半島との密接な関係が想定され、渡来人を埋葬した古墳の可能性も考えられる。これらの古墳における装身具の装着状況は、それまでの倭国でのあり方とは相違する可能性もあり、今後の良好な資料の蓄積から、葬送の際の玉飾りのあり方を捉えることによって、出自やどのような格差に基づくものなのか明らかにできるのではないだろうか。

(平井)

註

1 1号墳第1主体部の玉は、それぞれ実測し図面を作成した。3号墳第1主体部と4号墳主体部の玉は、時間的な余裕がなかったため、水糸とテープを張って写真を撮り、写真に番号を付しレベルを測って取り上げた後、さらに掘り下げて同様の作業を繰り返した。写真から図面を起こしたため、水糸から離れた箇所の玉は数mm単位の誤差を生じているものもあるが、大きく異なるものではなく、このような方法でも一定程度装着状況の復元はできるものと考えられる。

なお、原位置を押さえて取り上げたもののほか、検出作業中に動いて取り上げたものや玉周辺の土を濡して得た資料も多く、それらは平・立面図には反映されていない。

- 2 立面図によると、下方に分布する玉は、数量も多く厚く堆積していることから、玉を飾った箱の可能性は極めて低いと思われるが、僅かな可能性として頭の片隅に置いておきたい。
- 3 坂本太郎・家永三郎・井上光良・大野晋校注(1965)『日本書紀』下『日本古典文学大系』下 岩波書店から引用。

附 載

総社市狩谷遺跡3号墳ほか出土須恵器の産地推定

1. はじめに

この胎土分析では、総社市内出土の初期須恵器の自然科学的胎土分析を行い、初期須恵器がどの生産地に推定されるか検討した。分析した須恵器は、狩谷遺跡・狩谷3号墳、亀山下遺跡、大文字遺跡の各遺跡出土初期須恵器である。

2. 分析方法と試料

分析は蛍光X線分析法で行い、胎土の成分(元素)量を測定し、その成分量から分析試料の差異について調べた。測定した成分(元素)は、 SiO_2 、 TiO_2 、 Al_2O_3 、 Fe_2O_3 、 MnO 、 MgO 、 CaO 、 Na_2O 、 K_2O 、 P_2O_5 の10成分である。

なお測定装置・条件・試料は以下の通りである。

測定装置：SEA5120A(日立ハイテクサイエンス社製)を使用した。

測定条件：X線照射径2.5mm、電流50~200mA、電圧50kV/15kV、測定時間300秒、測定室は真空の条件で測定した。

測定元素：10成分の定量値は地質調査所の標準試料JA-1(安山岩)、JG-1a(花崗岩)、JR-1(流紋岩)、JB-1a(玄武岩)、JF-1(長石)の5個の試料を用いて検量線を作成し、定量値を算出した。

測定試料：分析試料は、須恵器表面の汚れを除去後(研磨機)、乾燥した試料を乳鉢(タングステンカーバイト製)で粉末(100~200メッシュ)にしたものを加圧成形機で約15 μm の圧力をかけ、コイン状に成形したものを測定試料とした。したがって、一部破壊分析である。

分析結果の比較(差異)は、有意な差がみられる成分を横軸と縦軸にとり、散布図を描き、分析試料の差異やまとまりについて検討した。

産地推定を行った初期須恵器の分析試料は、第1表に示した14点である。器種としては坏蓋、壺、甕、器台などである。また、比較した初期須恵器の生産地試料としては、国内では総社市奥ヶ谷窯跡、陶邑窯跡、韓国では慶尚南道(威安、昌寧、大成洞古墳)の窯跡および古墳出土の須恵器と比較した¹⁾。

3. 分析結果

この分析では測定した10成分のうち、分析試料に顕著な差がみられたのは、 TiO_2 、 CaO 、 K_2O 、 Al_2O_3 の4成分であった。この4成分を用いて散布図を作成した。

第1図 K_2O - CaO 、第2図 TiO_2 - CaO 、第3図 Al_2O_3 - CaO の各散布図では、狩谷3号墳、亀山下遺跡、大文字遺跡の各遺跡出土初期須恵器の胎土を比較検討した。その結果、大きく2つの胎土に分類できる。それは、試料番号2・5・7・9・10・11・12・13・14(A群)と1・4(B群)である。また、3・6・8はそれぞれ単独で分布した。なお、第2図 TiO_2 - CaO 散布図では、A群が7・12・13・14と5・7・9・10・11の2つに分かれる傾向がみられた。

第4図 K_2O - CaO 、第5図 TiO_2 - CaO 、第6図 Al_2O_3 - CaO の各散布図では、各遺跡出土初期須恵器の生産地を推定した。その結果、A群は総社市奥ヶ谷窯跡の領域に分布した。また、B群は陶邑領域に分布

した。なお、陶邑領域には、韓国の慶尚南道地域の窯跡が分布し、陶邑と半分ほど領域が重なる。しかし第4図でB群は陶邑領域に分布している。また、3・6・8はどの領域にも入らず、生産地が不明である。

第7・8図は、胎土分析した須恵器試料の砂粒表面観察写真である。

まず、生産地である奥ヶ谷窯跡出土の須恵器には、1mm前後および、それ以下の石英粒が多く観察できる。色調は暗灰色～灰白色が多いが、明褐色系の色調もみられる。

次に、各遺跡出土の初期須恵器の胎土表面観察では、分析で奥ヶ谷産と推定されたA群には1mm前後の石英粒が多く含まれ、奥ヶ谷の生産地試料とよく似ていた。また、B群のものには1mm大の石英粒は含まれていない。また、生産地が不明となった3（狩谷3号墳・直口壺）には、石英粒（1mm前後）が含まれ、6（亀山下・甕口縁部）には1mm前後および、それ以下の石英粒が多く含まれ、黒色粒（0.5mm以下）も一定量含まれていた。そして、8（亀山下・器台）には、1mm前後の石英粒が多量に含まれていた。

4. まとめ

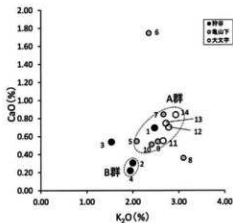
総社市狩谷遺跡、亀山下遺跡、大文字遺跡より出土した初期須恵器の産地推定を行ったところ、ほとんどのものが、奥ヶ谷窯跡より供給されていることが推定された。そして、試料番号1・4（狩谷3号墳）は、陶邑に推定された。また、胎土中の砂粒観察でも、ほとんどのものが1mm前後およびそれ以下の石英粒を多く含む奥ヶ谷窯跡の胎土によく似ていた。そして、陶邑と推定されたものには、石英粒がほとんど観察されなかった（ただ、器種が異なることで砂粒の大きさも異なるので砂粒の有無で一概に言えないが）。

生産地が不明なもので、試料番号3・6・8にも石英粒が含まれ、特に8には多量に含まれていた。胎土分析では、どの産地にも入らなかったが、総社周辺部に未発見の窯があるのかもしれない。今後、消費地遺跡の初期須恵器を蓄積し検討することで、産地を推定することも可能かもしれない。

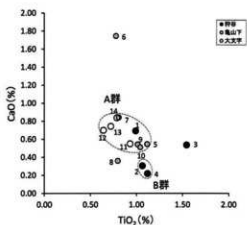
この胎土分析を実施するにあたり、平井典子、前角和夫、高橋進一の各氏、総社市教育委員会にはいろいろとお世話になった。記して感謝いたします。

註

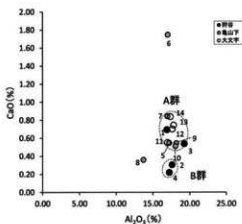
- 1) 白石 純、田中清美「上町谷1-2号窯跡の初期須恵器および関係土器試料の胎土分析報告」『大阪文化財研究所 研究紀要』第17号 2016年3月



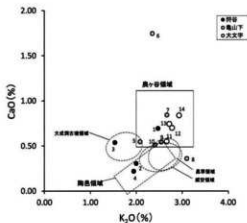
第1図 各遺跡出土須恵器の比較(K_2O - CaO)



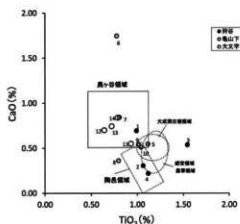
第2図 各遺跡出土須恵器の比較(TiO_2 - CaO)



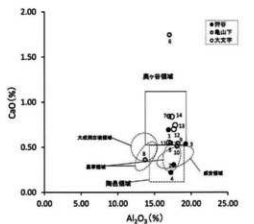
第3図 各遺跡出土須恵器の比較(Al_2O_3 - CaO)



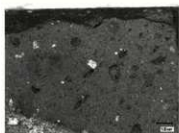
第4図 各遺跡出土須恵器の比較(K_2O - CaO)



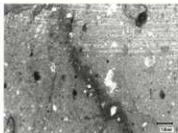
第5図 各遺跡出土須恵器の比較(TiO_2 - CaO)



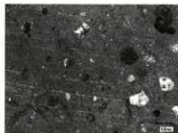
第6図 各遺跡出土須恵器の比較(Al_2O_3 - CaO)



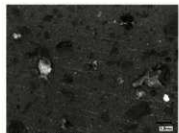
奥ヶ谷窯跡 8



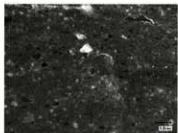
奥ヶ谷窯跡 11



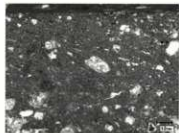
奥ヶ谷窯跡 24



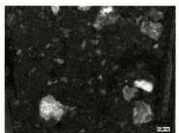
奥ヶ谷窯跡 35



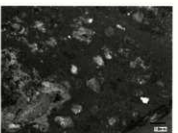
奥ヶ谷窯跡 52



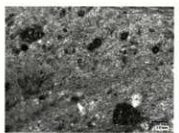
奥ヶ谷窯跡 54



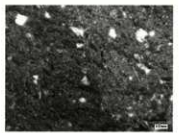
奥ヶ谷窯跡 65



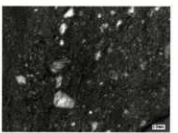
奥ヶ谷窯跡 78



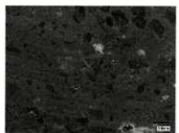
7. 亀山下遺跡 (R028)



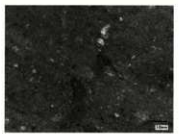
12. 大文字遺跡



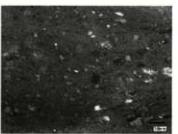
13. 大文字遺跡



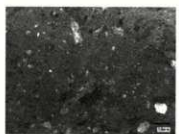
1. 狛谷遺跡



5. 亀山下遺跡 (R021)

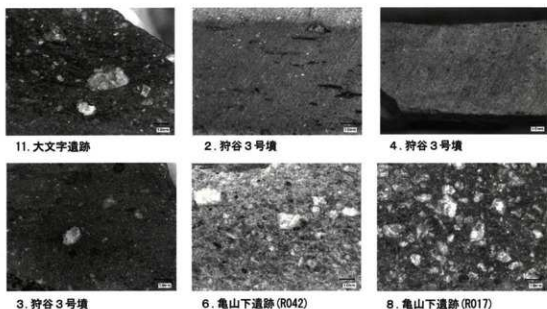


9. 亀山下遺跡 (R050)



10. 亀山下遺跡 (R050)

第7図 胎土分析した初期須恵器の砂粒観察写真



11. 大文字遺跡

2. 狩谷3号墳

4. 狩谷3号墳

3. 狩谷3号墳

6. 亀山下遺跡 (R042)

8. 亀山下遺跡 (R017)

第8図 胎土分析した初期須恵器の砂粒観察写真

第1表 各遺跡出土初期須恵器の胎土分析結果一覧表 (%)

試料番号	遺跡名	器種	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	備考
1	狩谷遺跡	器台	70.33	0.99	16.90	6.25	0.04	2.16	0.69	0.00	2.47	0.03	段2と上方
2	狩谷3号墳	広口壺	69.12	1.06	17.62	6.72	0.01	2.33	0.31	0.73	2.00	0.03	墳丘上～周濠
3	狩谷3号墳	直口壺	65.53	1.54	19.26	7.84	0.04	2.51	0.54	1.05	1.53	0.05	墳丘上
4	狩谷3号墳	甕	74.47	1.12	17.23	4.15	0.00	0.70	0.22	0.00	1.94	0.06	墳丘上
5	亀山下遺跡	器台	69.29	1.12	17.21	7.81	0.05	1.75	0.55	0.00	2.08	0.05	R021
6	亀山下遺跡	甕 (口縁部)	69.45	0.78	17.04	4.72	0.02	1.94	1.74	1.81	2.35	0.05	R042
7	亀山下遺跡	器台	69.06	0.81	16.98	6.13	0.07	1.72	0.84	1.52	2.67	0.07	R028
8	亀山下遺跡	器台	75.52	0.80	13.71	6.10	0.01	0.25	0.36	0.00	3.10	0.05	R017
9	亀山下遺跡	器台	69.13	1.01	18.19	7.65	0.07	0.71	0.54	0.00	2.54	0.04	R050
10	亀山下遺跡	器台	69.53	1.04	18.07	7.43	0.04	0.82	0.51	0.00	2.41	0.04	R050
11	大文字49号	壺か甕	71.36	0.93	16.98	6.87	0.04	0.48	0.55	0.00	2.66	0.03	
12	大文字	甕	70.91	0.64	17.64	4.50	0.00	0.99	0.70	1.70	2.78	0.04	住居3
13	大文字	甕	70.87	0.72	17.82	4.54	0.02	0.92	0.74	1.53	2.72	0.04	住居3
14	大文字	甕	69.69	0.79	17.38	4.87	0.00	1.74	0.84	1.59	2.93	0.04	住居1



第9図 胎土分析した各遺跡出土初期須恵器（番号は分析資料番号）



第10図 胎土分析した各遺跡出土初期須恵器（番号は分析資料番号）

狩谷3号墳出土耳環の分析

富山大学芸術文化学部 長柄 毅一

1. はじめに

日本における銅の産出に係る研究（科学研究費補助金「日本列島における銅、鉛原材料の産出地特定と使用開始年代に関する学際的研究」代表：澤田秀実）に取り組む過程で、総社市山田の狩谷遺跡で出土した耳環を調査する機会を得た。

耳環の写真を図1に示す。一对の耳環は、いずれも表面状態が極めて良好で、美しい金色の外観を呈している。小環が付いたまま出土したもので、さらに耳筋りが付いていたとみられる。うち一方（No.58）は、表面層に割れ、剥離の認められる部分があり、こうした部分を利用して、蛍光X線分析装置による定性分析を行った。



図1 狩谷3号墳出土耳環

2. 外観の観察

耳環の構造は、一般に、芯の部分表面を被覆材で覆ったもの、芯の無い中空のもの、無垢の3タイプがあり、素材は様々である。表面に鍍金が施される場合もある。¹⁾ 狩谷2号墳の耳環は、図2に示すようにNo.58の端部の割れから、芯材が覗いており、芯を持つタイプであることがわかる。耳環の色が金色であることから、金板で巻かれているか、あるいは銀板を巻いた後、鍍金したことが可能性として考えられる。また、この被覆材は図3に示すように端部できれいに叩いて仕上げられている。環状のまま、端面加工をすることは不可能なため、ほぼ直線状の棒材でこの被覆工程を行い、その後、環状に成形したものと考えられる。この作業順については、複数の先行研究^{1), 2)} においても述べられており、このように考えても差し支えないだろう。



図2 No.58耳環端部にみられる芯材



図3 No.59耳環端部の鍛造痕

3. 蛍光X線による分析

素材の成分を明らかにするために、化学分析を行った。耳環から分析用試料を少量切り取って湿式分析に供することが可能ならば、微量元素も含めて、正確な定量値を求めることができる。ただし、この耳環のように極めて状態のよい考古資料においては、分析用の試料採取が不可能なため、次善の策として蛍光X線分析法を採用した。蛍光X線分析は、資料表面にX線を照射した際、そこで新たに発生するX線（蛍光X線という）が、物質に固有のエネルギー値を持つことに着目して、資料を傷つけることなく、なにが（定性）、どのくらい（定量）あるのかを明らかにする分析法である。ただし、物質表面で発生する蛍光X線を評価することから、表面が腐食生成物に覆われた出土品については、地金の定量値を明らかにすることは困難である。そのため今回は、定性分析を行うに留めた。

分析に使用したのはアワズテック佛製の可搬型蛍光X線分析装置OURSTEX 100FAである。X線を発生するための管球はパラジウム (Pd) をターゲットとしており、管電圧35kV、管電流0.3mA、分析時間60secの条件で分析を行った。図4に装置を示す。耳環は写真右手前のアクリル台の中心にあるX線を遮蔽するための試料室カバーの内部に置かれている。



図4 蛍光X線分析装置

図5は芯材部における蛍光X線スペクトルである。鉄 (Fe)、銅 (Cu)、鉛 (Pb)、金 (Au)、銀 (Ag)、パラジウム (Pd) が検出された。これらのうち、パラジウムは照射X線の反射によるものであり、素材成分とは関係がない。金、銀は被覆材の影響によるものと考えられる。従って、主な元素は銅であり、不純物として鉄、合金元素として鉛を含むものと考えられる。被覆材の部分における蛍光X線スペクトルを図6に示す。主に金と銀を検出した。すなわち、被覆材は金を主成分とし、銀を含む合金（いわゆるエレクトラム合金）であるか、もしくは、銀板を、銅芯を覆う被覆材とし、これに鍍金したもののいずれかであると推察される。そこで、アマルガム鍍金の痕跡があるかどうかを検証するために、図6におけるエネルギー値が9.000keV～12.200keVの部分を拡大して水銀 (Hg) が検出されるかどうかを確認した。この拡大図を図7に示す。水銀のL β 線のエネルギー値11.822keVの位置（図に矢印で示した位置）にはピークらしき山がみられるが、肝心のL α 線の9.987keVの位置には全くピークは認められなかった。すなわち、耳環表面にはアマルガム鍍金の根拠となる水銀は存在しない、もしくは蛍光X線分析の検出限界以下の量しか含まないということになる。さらに、顕微鏡を用いた表面観察も行っており、表面の凹凸まで探したが、アマルガム鍍金の特徴である金細粒³⁾を見出すこともできなかった。これらのことから、この耳環は、被覆材として金-銀合金板を用いた銅芯金板張耳環ではないかと考える。もちろん、アマルガム鍍金ではなく、単に金箔を張り付けただけのケースもありえないかもしれないだろうが、表面の擦過傷の部分で銀地金が露出しているような箇所もみられなかったことからその可能性は低いものと考えられる。

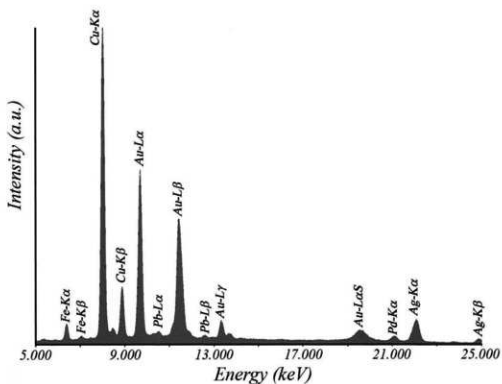


図5 芯材部における蛍光X線スペクトル

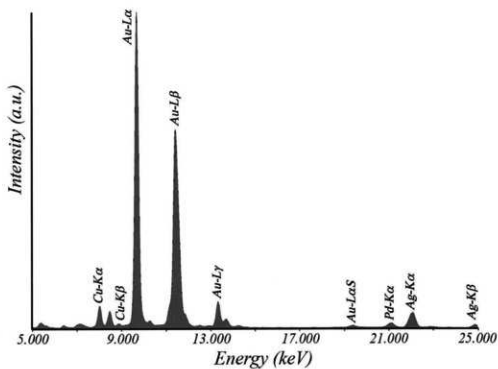


図6 表面被覆材の蛍光X線スペクトル

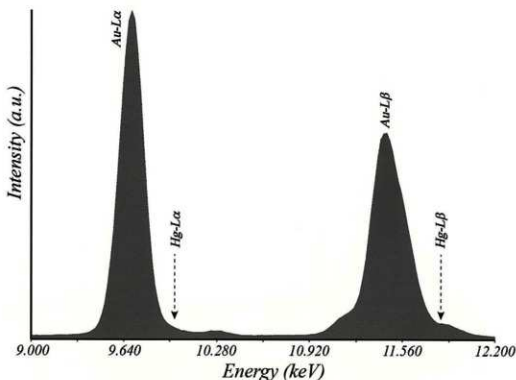


図7 表面被覆材の蛍光X線スペクトル (図6の拡大図)

4. まとめ

狩谷3号墳出土耳環について、表面観察と蛍光X線分析を行った。得られたデータを考え合わせると、銅芯金板張り耳環に分類されるものと考えられる。表面被覆層の破れ目から分析用試料をごく微量(外観に影響を及ぼさないくらいの量)採取し、断面の元素分析を行えば、より正確なことを明らかにできると考える。

参考文献

- 1) 渡辺智恵美「自然科学的手法を用いた古墳時代の金属器製作技術の調査と工具の復元」,『科学研究費助成事業研究成果報告書』2012
- 2) 高橋正樹「茨内古墳群出土銅芯銀箔張り鍍金耳環復元製作実験」,『文化財と技術』第2号, 工芸文化研究所 2002
- 3) 村上 隆,『金・銀・銅の日本史』,岩波新書 2007

謝辞

本研究はJSPS科研費JP 17K03224の助成を受けたものです。

土器観察表

番号	遺構・土層名	種別	器種	特徴・調整	色調	備考
1	住居址1	弥生土器	甕		外: 7.5YR8/3 (浅黄橙) 内: 10YR7/4 (にぶい黄橙)	
2	住居址1	弥生土器	直口壺	短頸	外: 2.5YR5/6 (明赤褐) 内: 2.5YR5/6 (明赤褐)	
3	住居址1	弥生土器	壺		外: 2.5YR6/6 (橙) 内: 2.5YR6/6 (橙)	
4	住居址1	弥生土器	高坏		外: 10YR8/4 (浅黄橙) 内: 10YR8/4 (浅黄橙)	
5	住居址1	弥生土器	壺		外: 5YR4/6 (赤褐) 内: 5YR6/6 (橙)	
6	住居址1	弥生土器	甕		外: 7.5YR6/6 (橙) 内: 7.5YR6/6 (橙)	
7	住居址1	弥生土器	甕		外: 5YR6/8 (橙) 内: 10YR7/6 (明黄褐)	
8	住居址1	弥生土器	甕		外: 2.5YR6/6 (橙) 内: 2.5YR6/6 (橙)	
9	住居址1	弥生土器	壺		外: 5YR6/8 (橙) 内: 5YR6/8 (橙)	
10	住居址1	弥生土器	鉢		外: 5YR6/6 (橙) 内: 5YR5/6 (明赤褐)	
11	住居址1	弥生土器	鉢		外: 2.5YR5/8 (明赤褐) 内: 10YR6/4 (にぶい黄橙)	
12	住居址2	弥生土器	壺		外: 2.5YR5/3 (にぶい赤褐) 内: 10YR7/4 (にぶい黄橙)	
13	住居址2	弥生土器	壺		外: 5YR7/6 (橙) 内: 7.5YR7/6 (橙)	
14	住居址2	弥生土器	壺		外: 2.5YR5/6 (明赤褐) 内: 2.5YR5/6 (明赤褐)	
15	住居址2	弥生土器	壺		外: 10R5/6 (赤) 内: 10R5/6 (赤)	
16	住居址2	弥生土器	甕		外: 7.5YR7/6 (橙) 内: 10YR6/4 (にぶい黄橙)	25と同一個体か
17	住居址2	弥生土器	甕		外: 7.5YR7/4 (にぶい橙) 内: 10YR7/4 (にぶい黄橙)	
18	住居址2	弥生土器	甕		外: 5YR7/6 (橙) 内: 10YR7/4 (にぶい黄橙)	
19	住居址2	弥生土器	甕		外: 7.5YR8/6 (浅黄橙) 内: 10YR8/4 (浅黄橙)	
20	住居址2	弥生土器	甕		外: 7.5YR7/4 (にぶい橙) 内: 5YR7/6 (橙)	
21	住居址2	弥生土器	甕		外: 7.5YR7/6 (橙) 内: 7.5YR7/6 (橙)	
22	住居址2	弥生土器	甕		外: 7.5YR6/6 (橙) 内: 7.5YR7/6 (橙)	
23	住居址2	弥生土器	甕		外: 10YR7/4 (にぶい黄橙) 内: 10YR7/4 (にぶい黄橙)	
24	住居址2	弥生土器	甕		外: 10YR7/4 (にぶい黄橙) 内: 10YR7/4 (にぶい黄橙)	
25	住居址2	弥生土器	甕		外: 2.5YR5/6 (明赤褐) 内: 10YR7/4 (にぶい黄橙)	16と同一個体か
26	住居址2	弥生土器	甕		外: 7.5YR7/6 (橙) 内: 10YR6/4 (にぶい黄橙)	
27	住居址2	弥生土器	高坏		外: 7.5YR7/6 (橙) 内: 7.5YR8/8 (黄橙)	
28	住居址2	弥生土器	高坏		外: 7.5YR7/6 (橙) 内: 7.5YR7/6 (橙)	
29	住居址2	弥生土器	高坏		外: 10YR7/4 (にぶい黄橙) 内: 7.5YR6/4 (にぶい橙)	

番号	遺構・土層名	種別	器種	特徴・調整	色調	備考
30	住居址2	弥生土器	高坏		外：7.5YR6/6 (橙) 内：7.5YR6/6 (橙)	
31	住居址2	弥生土器	鉢		外：7.5YR8/6 (浅黄橙) 内：7.5YR7/6 (橙)	
32	住居址2	弥生土器	鉢		外：10YR7/6 (明黄褐) 内：7.5YR7/6 (橙)	
33	住居址2	弥生土器	白付鉢		外：7.5YR7/6 (橙) 内：7.5YR7/6 (橙)	
34	住居址2	弥生土器	鉢	底部	外：7.5YR8/6 (浅黄橙) 内：7.5YR8/6 (浅黄橙)	31と同一個体か
35	住居址2	弥生土器	器台		外：7.5YR7/6 (橙) 内：7.5YR7/6 (橙)	
36	住居址3	弥生土器	直口壺		外：7.5YR6/4 (にぶい橙) 内：10YR7/4 (にぶい黄橙)	
37	住居址3	弥生土器	甕		外：10YR7/4 (にぶい黄橙) 内：7.5YR8/6 (浅黄橙)	
38	住居址3	弥生土器	甕		外：7.5YR6/6 (橙) 内：7.5YR7/6 (橙)	
39	住居址3	弥生土器	甕		外：10YR5/4 (にぶい黄褐) 内：10YR6/4 (にぶい黄橙)	
40	住居址3	弥生土器	甕		外：5YR6/8 (橙) 内：5YR6/8 (橙)	43と同一個体の可能性あり
41	住居址3	弥生土器	甕		外：7.5YR7/6 (橙) 内：7.5YR7/6 (橙)	
42	住居址3	弥生土器	甕		外：5YR6/8 (橙) 内：7.5YR6/6 (橙)	41と同一個体の可能性あり
43	住居址3	弥生土器	壺	底部	外：5YR6/6 (橙) 内：7.5YR7/6 (橙)	
44	住居址3	弥生土器	甕	底部	外：5YR6/6 (橙) 内：7.5YR7/4 (にぶい橙)	
45	住居址3	弥生土器	甕	底部	外：10YR6/3 (にぶい黄橙) 内：10YR5/3 (にぶい黄褐)	
46	住居址3	弥生土器	甕	底部	外：2.5YR6/8 (橙) 内：7.5YR6/6 (橙)	
47	住居址3	弥生土器	甕	底部	外：7.5YR5/6 (明褐) 内：5YR6/8 (橙)	
48	土壇2	弥生土器	壺	外面 丹塗り	外：2.5YR5/6 (明赤褐) 内：10YR6/4 (にぶい黄橙)	胎土に角閃石を含む
49	柱穴46	弥生土器	壺	底部	外：7.5YR7/6 (橙) 内：10YR7/4 (にぶい黄橙)	
50	柱穴69	陶磁器	皿		外：5Y7/4 (浅黄) 内：5Y7/3 (浅黄)	美濃焼
51	柱穴88	弥生土器	壺	頸部	外：7.5YR8/4 (浅黄橙) 内：10YR8/3 (浅黄橙)	
52	柱穴115	弥生土器	壺		外：5YR5/8 (明赤褐) 内：5YR5/8 (明赤褐)	
53	柱穴130	中世土器	羽釜		外：2.5Y4/2 (暗灰黄) 内：2.5Y4/1 (黄灰)	
54	溝状遺構	弥生土器	甕	底部	外：2.5YR6/6 (橙) 内：10YR7/4 (にぶい黄橙)	
55	段1	弥生土器	壺	底部	外：10YR6/6 (明黄褐) 内：10YR7/6 (明黄褐)	
56	段1	弥生土器	甕	口縁部	外：10YR7/4 (にぶい黄橙) 内：10YR7/4 (にぶい黄橙)	
57	段1	弥生土器	甕	口縁部	外：5YR7/6 (橙) 内：5YR7/6 (橙)	
58	段1	須恵器	蓋?	波状文	外：2.5Y7/2 (灰黄) 内：2.5Y7/1 (灰白)	初期須恵器

番号	遺構・土層名	種別	器種	特徴・調整	色調	備考
59	段1	土師器	皿		外：7.5YR7/3 (にぶい橙) 内：10YR6/3 (にぶい黄橙)	
60	段1	中世土器	羽釜		外：5Y5/1 (灰) 内：5Y7/1 (灰白)	
61	段2	須恵器	甕		外：5GY6/1 (オリーブ灰) 内：5B6/1 (青灰)	
62-1	段2とその上方	須恵器	器台	組紐文	外：2.5YR5/1 (赤灰) 内：2.5YR6/1 (赤白) 断：2.5YR6/3 (にぶい橙)	初期須恵器 1～4同一個体
62-2				組紐文・コンパス文	外：N 4/ (灰) 内：2.5YR5/1 (赤灰) 断：10YR6/3 (にぶい赤橙)	
62-3				組紐文	外：N 4/ (灰) 内：2.5YR5/1 (赤灰) 断：10YR6/3 (にぶい赤橙)	
62-4				コンパス文	外：10YR4/1 (褐灰) 内：7.5YR6/1 (褐灰) 断：10R5/4 (赤褐)	
63	土壇墓1	弥生土器	甕	底部	外：10YR8/6 (黄橙) 内：7.5Y7/1 (灰白)	
64	土壇墓2	弥生土器	甕		外：10YR6/4 (にぶい黄橙) 内：10YR6/4 (にぶい黄橙)	
65	土壇墓2	土師器	高坏		外：5YR6/8 (橙) 内：7.5YR7/8 (黄橙)	
66	土壇墓2	土師器	高坏		外：7.5YR6/8 (橙) 内：7.5YR6/8 (橙)	
67	土壇墓4	弥生土器	壺	長頸壺頸部	外：7.5YR7/4 (にぶい橙) 内：7.5YR7/6 (橙)	
68	土壇墓4	弥生土器	甕	口縁部	外：5YR6/6 (橙) 内：5YR6/6 (橙)	
69	土壇墓4	弥生土器	壺	底部	外：10YR7/4 (にぶい黄橙) 内：7.5YR7/4 (にぶい橙)	
70	2号墳墳丘 北西部	須恵器	皿		外：7.5Y5/1 (灰) 内：5Y7/1 (灰白)	初期須恵器
71-1	2号墳墳丘 南西部	須恵器	直口壺	口縁部 2条の突帯と波状文	外：N 3/ (暗灰) 内：N 3/ (暗灰)	初期須恵器 1～3同一個体 1は重みが著しい
71-2				波状文	外：5PB3/ 1 (暗青灰) 内：5PB4/ 1 (暗青灰)	
71-3				波状文	外：5PB3/ 1 (暗青灰) 内：5PB4/ 1 (暗青灰)	
72	2号墳墳丘 南西部	須恵器	広口壺	底部を欠く	外：5B5/ 1 (青灰) 内：5B5/ 1 (青灰)	初期須恵器
73	包含層	弥生土器	甕	口縁外面に 2条の凹線	外：7.5YR6/4 (にぶい橙) 内：7.5YR7/4 (にぶい橙)	
74	包含層	弥生土器	甕	底部	外：7.5YR8/6 (浅黄橙) 内：10YR8/4 (浅黄橙)	
75	包含層	弥生土器	高坏	脚部 円形の透かし	外：10YR8/4 (浅黄橙) 内：10YR8/4 (浅黄橙)	
76	包含層	弥生土器	壺	口縁部	外：10YR7/6 (明黄褐) 内：5YR7/8 (橙)	
77	包含層	弥生土器	壺	口縁部	外：7.5YR8/6 (浅黄橙) 内：10YR8/4 (浅黄橙)	
78	包含層	弥生土器	甕	口縁部	外：7.5YR7/4 (にぶい橙) 内：7.5YR6/4 (にぶい橙)	
79	包含層	弥生土器	甕	口縁部	外：2.5Y7/3 (浅黄) 内：2.5Y7/2 (灰黄)	
80	包含層	弥生土器	甕	口縁部	外：7.5YR6/4 (にぶい橙) 内：7.5YR6/4 (にぶい橙)	
81	包含層	弥生土器	甕	口縁部	外：10YR7/4 (にぶい黄橙) 内：10YR7/4 (にぶい黄橙)	

番号	遺構・土層名	種別	器種	特徴・調整	色調	備考
82	包含層	弥生土器	甕	口縁部	外：2.5YR7/3 (浅黄) 内：2.5YR7/3 (浅黄)	
83	包含層	弥生土器	鉢	口縁～胴部	外：10YR7/6 (明黄褐) 内：10YR7/6 (明黄褐)	胎土に2～3mm以上の石粒多く含む
84	包含層	弥生土器	壺	底部	外：7.5YR7/6 (橙) 内：7.5YR7/6 (橙)	
85	包含層	弥生土器	壺	底部	外：5YR6/6 (橙) 内：7.5YR6/6 (橙)	
86	包含層	弥生土器	甕	底部	外：10YR7/4 (にぶい黄橙) 内：10YR7/6 (明黄褐)	胎土に赤褐色粒多く含む
87	包含層	弥生土器	高坏	脚附部 沈線文	外：7.5YR7/6 (橙) 内：7.5YR7/6 (橙)	
88	包含層	弥生土器	高坏	脚附部	外：5YR6/4 (にぶい赤褐) 内：5YR6/4 (にぶい赤褐)	
89	包含層	弥生土器	台付鉢	台部	外：5YR6/6 (橙) 内：5YR6/6 (橙)	
90	包含層	須恵器	坏身	口縁部	外：5GY6/1 (オリーブ灰) 内：5BG 6/1 (青灰)	
91	包含層	土師器	甕	口縁部	外：10YR7/4 (にぶい黄橙) 内：10YR7/4 (にぶい黄橙)	
92	包含層	土師器	甕	口縁部	外：10YR7/4 (にぶい黄橙) 内：10YR7/4 (にぶい黄橙)	
93	包含層	土師器	甕	口縁部	外：10YR7/4 (にぶい黄橙) 内：10YR7/4 (にぶい黄橙)	
94	包含層	土師器	甕	口縁部	外：10YR7/4 (にぶい黄橙) 内：10YR7/4 (にぶい黄橙)	
95	包含層	土師器	把手		7.5YR7/6 (橙)	
96	包含層	土師器	皿		外：7.5YR7/3 (にぶい橙) 内：10YR6/3 (にぶい黄橙)	
97	包含層	中世土器	羽釜		外：5Y7/1 (灰白) 内：5Y7/1 (灰白)	
98	包含層	中世土器	土鍋		外：2.5Y5/3 (黄褐) 内：2.5Y6/3 (にぶい黄)	
99	包含層	中世土器	甌	底部 円形の孔	外：5Y7/1 (灰白) 内：5Y7/1 (灰白)	

石器・石製品観察表

番号	遺構名	器種	計測値 (mm)			重量 (g)	石材
			最大長	最大幅	最大厚		
S 1	住居址1	石鏃	26.0	17.5	2.5	1.4	サヌカイト
S 2	住居址1	石砲丁	84.0	44.0	12.0	60.2	粘板岩?
S 3	住居址1	石砲丁未製品	90.0	41.0	9.5	52.7	粘板岩?
S 4	住居址1	敲石	88.0	41.0	22.0	124.6	赤色頁岩
S 5	住居址1	敲石	100.5	84.0	37.0	460.3	閃緑岩
S 6	住居址1	角礫	118.0+	82.0	84.0	1138.2	花崗閃緑岩
S 7	住居址1	角礫	100.0	80.0	64.0	641.9	石英斑岩
S 8	住居址1	角礫	161.0	141.0	99.0	2780.0	花崗閃緑岩
S 9	住居址1	小形砥石?	62.0	38.5	6.0	25.7	粘板岩
S10	住居址1	小形砥石?	68.0	36.5	6.0	28.6	粘板岩
S11	住居址1	砥石	230.0	99.5	29.5	1253.3	粘板岩
S12	住居址2	敲石	126.0+	71.0	41.0	477.7	花崗岩質
S13	住居址3	石砲丁	96.0	51.0	11.0	72.0	サヌカイト
S14	住居址3	つぶて?	36.2	32.0	23.5	37.5	砂岩
S15	住居址3 覆土	敲石	47.5	41.0	42.5	119.8	砂岩
S16	土壕5	石砲丁	81.0	44.5	12.5	49.8	粘板岩?
S17	土壕墓1	敲石	113.5	52.0	29.0	216.8	花崗岩質
S18	土壕墓2 南西部	砥石	49.5	30.0+	17.0+	24.6	頁岩
S19	土壕墓2	双孔円盤	径: 28.0	—	4.0	5.4	滑石
S20	土壕墓2	双孔円盤	径: 30.0	—	4.0	6.6	滑石
S21	土壕墓3	礫	124.0	76.5+	22+	409.0	花崗岩
S22	4号墳主体部	双孔円盤	径: 20.0	—	3.0	1.9	滑石
S23	包含層	スクレイパー?	38.5	29.0	7.5	10.9	粘板岩?
S24	包含層	砥石	108.5+	48.5	29.0	202.9	グレーチャート?
S25	P- 9	水晶 (自然石)	34.5	31.0	30.0	37.7	水晶

金屬製品觀察表

遺構名	番 号	器 種	残存長 (cm)	残存幅 (cm)	厚さ (cm)	備 考
住居址 2	M 1	不明鉄製品	(2.3)	1.0	0.2	
	M 2	不明鉄製品	4.5	2.1	(0.6)	
	M 3	不明鉄製品	4.6	1.9	1.0	
	M 4	不明鉄製品	5.8	0.8	0.5	
土壌墓 2	M 5	平根鎌	6.3	2.6	0.8	
	M 6	U字鋸齒先	15.0	14.8	0.9	
	M 7	不明鉄製品	11.7	0.7	(0.5)	木質残存
土壌墓 4	M 8	不明鉄製品	5.5	0.9	(0.3)	
	M 9	不明鉄製品	7.1	3.0	0.7	
1号墳 第1主体部	M10	鋸齒先	8.2	9.8	(0.6)	
	M11	不明鉄製品	8.4	2.6	(0.4)	一部欠損
	M12	不明鉄製品	6.1	0.8	0.2	
	M13	不明鉄製品	2.5	1.2	0.5	
	M14	銅鐙				青銅製
	M15	鈴				青銅製
1号墳 第2主体部	M16	鈴				青銅製
	M17	曲刀鎌	15.0	3.8	(0.4)	
2号墳 主体部	M18	平根鎌	4.2	3.6	0.3	根扶み残存(尖頭)
	M19	平根鎌	4.8	3.2	(0.4)	根扶み残存(尖頭)
	M20	不明鉄製品	4.6	2.2	(0.4)	曲刀鎌か
	M21	不明鉄製品	7.2	1.4	0.4	刀子基部か
3号墳 第1主体部	M22	短頸鎌	12.0	(1.6)	(0.6)	完存
	M23	短頸鎌	(10.6)	(1.0)	(0.4)	ほぼ完存
	M24	短頸鎌	8.0	1.7	(0.4)	基部欠損
	M25	平根鎌	9.6	2.9	0.4	
	M26	平根鎌	14.4	3.3	(0.5)	
	M27	平根鎌	14.7	3.2	(0.5)	
	M28	短刀	25.2	2.8	(1.2)	鞘・把残存
	M29	長剣	63.2	3.5	(0.6)	鞘・把残存
	M30	袋伏鉄斧	10.5	4.3	1.3	
	M31	U字鋸齒先	12.3	10.8	0.4	
	M32	曲刀鎌	12.2	2.5	0.2	鋒欠損
	M33	鑿	16.3	(1.1)	0.5	
	M34	不明鉄製品	16.3	0.4	0.5	木質残存, 先端欠損, 工具か?
	M35	不明鉄製品	2.9	4.3	0.3	
	M36	不明鉄製品	5.6	2.0	0.4	
	M37	不明鉄製品	3.1	3.5	0.5	
	M38	銃具	4.8	5.3	0.6	出土時玉付着
	M39	小環付耳環	(径) 2.0~2.2	—	0.4	銅芯金板張りか? 小管の径約9.5, 厚さ0.2
	M40	小環付耳環	(径) 2.0~2.2	—	0.4	銅芯金板張りか? 小管の径約9.5, 厚さ0.2
	3号墳 第2主体部	M41	U字鋸齒先	(10.0)	13.1	0.8
M42		刀子	(8.7)	1.2	0.4	鋒欠損, 木質・布目残存
M44		不明鉄製品	3.2	0.8	0.2	木質残存
M43		不明鉄製品	4.8	1.0	0.2	
M45		不明鉄製品	1.8	1.4	0.5	
4号墳 主体部	M46	刀子	(9.3)	1.4	(0.3)	木質残存
	M47	不明鉄製品	2.1	0.4	(0.2)	白玉付着
包含層	M48	U字鋸齒先	11.0	11.7	1.1	刃部一部残存
	M49	不明鉄製品	3.6	2.6	0.2	
	M50	不明鉄製品	2.6	3.1	0.9	

玉類観察表

土壌基 4

番号	玉種	材質	色調	径 mm	長 mm	孔径 mm	質量 g	穿孔面	孔表面	備考
1	碧玉	ガラス	濃緑青色	4.5-5.5	14.0	1.5-1.7	0.91			巻きつけ技法で製作か

1号墳第1主体部

番号	玉種	材質	色調	径 mm	長 mm	孔径 mm	質量 g	穿孔面	孔表面	備考
1	碧玉	緑色凝灰岩	濃緑色	9.1-9.5	25.5	2.3と2.6	3.97	2.8	2.5	両面穿孔 7 ヲラエ
2	白玉	滑石	灰緑色	4.2	3.2-3.8	1.8	0.09	研磨面	打削面	孔内凹削痕
3	白玉	滑石	灰緑色	4.3	2.3-3.3	1.6	0.08	研磨面	打削面	孔内凹削痕
4	白玉	滑石	(白) 灰緑色	4	2.8-3.3	1.7	0.07	研磨面	打削面	孔内凹削痕
5	白玉	滑石	灰(緑)色	4.1	2.0-2.6	1.6	0.05	研磨面	打削面	孔内凹削痕
6	白玉	滑石	灰緑色	3.8	2.6-2.9	1.6	0.05	打削面	研磨面	孔内凹削痕
7	白玉	滑石	灰(緑)色	4	3.2-3.5	1.8	0.07	研磨面	打削面	孔内凹削痕
8	白玉	滑石	(白) 灰緑色	3.9	1.7-2.1	1.5	0.04	研磨面	打削面	孔内凹削痕
9	白玉	滑石	濃灰緑色	3.9	1.6-2.0	1.5	0.04	研磨面	研磨面	孔内凹削痕
10	白玉	滑石	濃灰緑色	4	2.6-3.0	1.6	0.06	研磨面	研磨面	孔内凹削痕
11	白玉	滑石	濃灰緑色	4.2	2.0-2.6	1.7	0.06	研磨面	打削面	孔内凹削痕
12	白玉	滑石	(白) 灰色	4.1-4.2	2.3-2.6	1.7	0.06	研磨面	研磨面	孔内凹削痕
13	白玉	滑石	淡灰色	4	2.7-3.3	1.7	0.07	研磨面	研磨面	孔内凹削痕
14	白玉	滑石	(白) 灰色	4.5-4.6	2.0-2.5	1.7	0.07	研磨面	研磨面	孔内凹削痕
15	白玉	滑石	(白) 灰色	4.5	3.1-3.5	1.7	0.11	研磨面	研磨面	孔内凹削痕
16	白玉	滑石	(白) 灰色	4.5	2.8-3.1	1.7	0.09	研磨面	軽い研磨	孔内凹削痕
17	白玉	滑石	淡灰色	3.8	2	1.7	0.03	研磨面	軽い研磨	孔内凹削痕
18	白玉	滑石	(白) 灰色	4.4	1.7-2.3	1.7	0.06	研磨面	打削面	孔内凹削痕
19	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.4	1.9-2.0	1.5	0.06	研磨面	打削面	孔内凹削痕
20	白玉	滑石	(白) 灰(緑)色	4.8	0.6-2.3	1.7	0.05	研磨面	研磨面	孔内凹削痕 掘け直しの孔痕跡
21	白玉	滑石	(白) 灰色	3.1	2.0-3.2	1.6	0.11	打削面	研磨面	孔内凹削痕
22	白玉	滑石	(白) 灰色	3.6	2.3-2.9	1.7	0.04	研磨面	打削面	孔内凹削痕
23	白玉	滑石	淡灰(緑)色	3.8-3.9	2.4-2.8	1.7	0.05	研磨面	打削面	孔内凹削痕
24	白玉	滑石	淡灰(緑)色	3.9	3.3	1.6	0.07	研磨面	軽い研磨	孔内凹削痕
25	白玉	滑石	淡灰色	4.15-4.2	2.4-2.7	1.6	0.07	打削面	研磨面	孔内凹削痕
26	白玉	滑石	淡灰色	4.2-4.4	3.5-3.9	1.6	0.11	研磨面	打削面	孔内凹削痕
27	白玉	滑石	淡灰色	4.9	3.1	1.6	0.08	研磨面	打削面	孔内凹削痕
28	白玉	滑石	淡灰色	4.9	2.2-2.5	1.7	0.09	研磨面	打削面	孔内凹削痕
29	白玉	滑石	淡灰色	3.8-4.0	3.4	1.6	0.08	研磨面	打削面	孔内凹削痕
30	白玉	滑石	淡灰色	4.9	2.0-2.4	1.7	0.08	軽い研磨	軽い研磨	孔内凹削痕
31	白玉	滑石	(白) 灰緑色	4.9	2.7	1.6	0.09	研磨面	研磨面	孔内凹削痕
32	白玉	滑石	(白) 灰緑色	4.4	2.6	1.7	0.07	打削面	研磨面	孔内凹削痕
33	白玉	滑石	淡灰(緑)色	4.5	3.1	1.7	0.09	打削面	研磨面	孔内凹削痕
34	白玉	滑石	(白) 灰色	4.2	2.8	1.7	0.07	打削面	打削面	孔内わずかに凹削痕 掘け直しの孔痕跡
35	白玉	滑石	(白) 灰色	4.4	4.2	1.6	0.12	研磨面	研磨面	孔内に鉄分付着
36	白玉	滑石	(白) 灰色	4.4	2.1	1.6	0.06	研磨面	打削面	孔内に鉄分付着
37	白玉	滑石	(白) 灰色	4.4	2.8	1.7	0.07	研磨面	打削面	孔内凹削痕
38	白玉	滑石	淡灰色	4.5	3.1	1.6	0.09	研磨面	打削面	孔内凹削痕
39	白玉	滑石	淡灰色	4.6	3.3	1.8	0.11	打削面	打削面	孔内凹削痕
40	白玉	滑石	淡灰色	4.6	2.5	1.5	0.09	研磨面	研磨面	孔内凹削痕 孔末に溝口
41	白玉	滑石	淡灰色	4.5	2.5	1.5	0.07	研磨面	研磨面	孔内凹削痕

42	白玉	滑石	淡灰色	4.6	2.8	1.5	0.1	研磨面	打割面	孔内回転板
43	白玉	滑石	淡灰色	4.5	3.2	1.6	0.11	研磨面	打割面	孔内回転板
44	白玉	滑石	淡灰色	4.5	3.2	1.6	0.1	研磨面	打割面	孔内嵌分沈着
45	白玉	滑石	淡灰(緑)色	4.5	2.5~2.9	1.5	0.09	研磨面	打割面	孔内回転板
46	白玉	滑石	淡灰色	4.5	3	1.5	0.1	研磨面	研磨面	孔内回転板
47	白玉	滑石	淡灰色	4.5	2.6	1.6	0.08	研磨面	研磨面	孔内回転板
48	丸玉	赤燐嘴	淡橙黄(白)色	4.8~5.7	3.8	1.3	0.17			孔内回転板と筒 孔サラスカ? 孔末に開口 開口内も研磨
49	丸玉	赤燐嘴	淡橙黄色	5.6	4.3	1.8	0.18			孔内回転板と筒 孔サラスカ?
50	丸玉	赤燐嘴	淡橙白色	6	4.2	1.4	0.22			孔内回転板と筒 孔サラスカ? 孔末に開口 開口内も研磨
51	白玉	滑石	淡灰(緑)色	4.4	3.1	1.6	0.08	打割面	打割面	孔内回転板
52	白玉	滑石	淡灰色	4.3	3	1.6	0.07	打割面	打割面	孔内回転板
53	白玉	滑石	淡灰色	4.5	3.4	1.7	0.1	研磨面	打割面	孔内回転板
54	白玉	滑石	淡灰色	4.6	2.5~3.2	1.7	0.09	研磨面	研磨面	孔内回転板
55	白玉	滑石	淡灰色	3.95	2.2~3.5	1.7	0.06	打割面	打割面	孔内回転板
56	白玉	滑石	淡灰色	4.75	2.5~3.2	1.7	0.1	研磨面	打割面	孔内回転板
57	白玉	滑石	(調) 灰色	4.7	3.1	1.7	0.12	研磨面	研磨面	孔内回転板
58	白玉	滑石	(調) 灰色	4.1	2.8~3.1	1.6	0.07	研磨面	研磨面	孔内回転板 胴部中央付近に深い縦線
59	白玉	滑石	(調) 灰色	4.9	1.8~2.8	1.7	0.08	研磨面	研磨面	孔内回転板
60	白玉	滑石	(調) 灰色	4.8	1.6~1.8	1.6	0.06	研磨面	打割面	孔内回転板
61	白玉	滑石	(調) 灰色	4.7~4.9	2.0~3.3	1.7	0.09	研磨面	打割面	孔内回転板
62	白玉	滑石	(調) 灰色	4.3~4.4	2.5~3.0	1.7	0.08	打割面	打割面	孔内回転板 筒け直しの孔痕跡
63	白玉	滑石	(調) 灰色	4.9	2.0~2.3	1.6	0.08	軽い研磨	打割面	孔内回転板
64	白玉	滑石	(調) 灰色	4.1~4.3	2.5~3.0	1.6	0.07	研磨面	打割面	孔内回転板
65	白玉	滑石	(調) 灰色	4.4	4.0~4.2	1.7	0.12	研磨面	打割面	孔内回転板
66	白玉	滑石	(調) 灰色	4.2~4.4	2.0~2.6	1.7	0.06	研磨面	打割面	孔内回転板
67	白玉	滑石	(調) 灰色	4.1~4.3	1.8~2.3	1.6	0.05	打割面	打割面	孔内回転板
68	白玉	滑石	(調) 灰色	4.2~4.5	3.3~3.8	1.5	0.09	研磨面	打割面	孔内回転板
69	白玉	滑石	(調) 灰色	4.5	3.2~3.5	1.7	0.1	打割面	軽い研磨	孔内回転板
70	白玉	滑石	(調) 灰色	4.4	1.4~2.1	1.8	0.04	自然面	打割面	孔内回転板 使用時と想定される欠損あり
71	白玉	滑石	(調) 灰色	4.4	2.7~3.1	1.7	0.09	打割面	打割面	孔内回転板 筒け直しの孔痕跡 孔末に細かい開口
72	白玉	滑石	(調) 灰色	4.5	3.1~3.8	1.6	0.1	(研磨面)	(研磨面)	孔内回転板 両面穿孔 く字に曲がって合致 孔筒け直しの痕跡あり
73	白玉	滑石	(調) 灰色	4.3	2.9~3.1	1.6	0.08	軽い研磨	打割面	孔内回転板
74	白玉	滑石	(調) 灰色	4.4	2.9~3.1	1.7	0.08	研磨面	打割面	孔内回転板 孔末に大きな開口
75	白玉	滑石	(調) 灰色	4.3~4.4	3.0~3.3	1.7	0.09	軽い研磨	打割面	孔内回転板 孔末に細かい開口
76	白玉	滑石	(調) 灰色	4.5~4.6	2.3~2.9	1.5	0.08	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転板 孔末に細かい開口 使用時と想定される欠損あり
77	白玉	滑石	(調) 灰色	3.8	3.7~3.8	1.7	0.03	打割面	打割面	孔内回転板 孔末に開口
78	白玉	滑石	暗灰緑色	4.8~4.9	2.5~2.8	1.5	0.1	研磨面	打割面	孔内回転板 孔末に細かい開口
79	白玉	滑石	暗灰緑色	4.5	3.0~3.6	1.6	0.11	軽い研磨	打割面	孔内回転板 筒筒け直しの痕跡 孔末に細かい開口
80	白玉	滑石	灰(緑)色	4.5~4.6	2.1~2.5	1.6	0.07	打割面	打割面	孔内回転板 孔末に細かい開口
81	白玉	滑石	暗灰色	4.3~4.5	2.1~2.5	1.7	0.1	軽い研磨	打割面	孔内回転板 孔末に細かい開口
82	白玉	滑石	(調) 灰色	4.3	1.9~2.7	1.7	0.06	研磨面	打割面	孔内回転板 孔末に細かい開口
83	白玉	滑石	(調) 灰色	4.4~4.5	2.4~3.0	1.7	0.08	研磨面	軽い研磨	孔内回転板 孔末に細かい開口
84	白玉	滑石	(調) 灰色	4.3	2.4~3.0	1.6	0.07	研磨面	研磨面	孔内回転板 孔末に細かい開口 筒口に欠損
85	白玉	滑石	(調) 灰色	4.3	2.2~2.5	1.5	0.07	研磨面	打割面	孔内回転板 孔末に細かい開口
86	白玉	滑石	灰(緑)色	4.2	2.3~2.7	1.6	0.06	研磨面	打割面	孔内回転板 孔末に細かい開口 筒口に碎けるような欠損
87	白玉	滑石	(調) 灰色	4.7	2.4~2.6	1.5	0.09	研磨面	打割面	孔内回転板 孔末に細かい開口
88	白玉	滑石	灰(緑)色	4.3	2.3~2.4	1.5	0.07	研磨面	打割面	孔内回転板 孔末に細かい開口

89	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.7	2.4~2.8	1.5	0.08	研磨面	打割面	孔内凹輪痕	孔末に大きな開口痕	孔 明け直しの微跡
90	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.3~4.4	2.3~2.5	1.5	0.08	研磨面	打割面	孔内凹輪痕	孔末に細かい開口	
91	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.2~4.4	2.5	1.5	0.05	研磨面	打割面	孔内凹輪痕		
92	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.2~4.3	2.5~2.6	1.5	0.07	研磨面	打割面	孔内凹輪痕		
93	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.3~4.4	1.8~2.3	1.5	0.05	研磨面	打割面	孔内凹輪痕	小口に開口の磨き残りあり	
94	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.5~4.6	2.0~2.4	1.5	0.08	軽い研磨	打割面	孔内凹輪痕		
95	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.6	2.2~2.4	1.5	0.08	研磨面	打割面	孔内凹輪痕		
96	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.2~4.3	2.5~2.7	1.5	0.07	研磨面	打割面	孔内凹輪痕		
97	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.2~4.3	1.5~1.7	1.5	0.04	研磨面	打割面	孔内凹輪痕		
98	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.6~4.7	1.9~2.3	1.5	0.07	研磨面	打割面	孔内凹輪痕		
99	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.3	1.8~2.6	1.5	0.06	研磨面	打割面	孔内凹輪痕	孔末に大きな開口	
100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
101	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.4	1.9~2.5	1.5	0.06	研磨面	研磨面	孔内凹輪痕		
102	白玉	滑石	灰緑色	4.4	1.8	1.5	0.05	打割面	不明	孔内凹輪痕		
103	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.9	1.2~2.0	1.5	0.06	研磨面	打割面	孔内凹輪痕		
104	白玉	滑石	(焼) 灰色	4	2.0~3.2	1.5	0.06	打割面	打割面	孔内凹輪痕		
105	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.8	1.5	1.5	0.03	打割面	打割面	孔内凹輪痕		
106	白玉	滑石	灰色	4.7	2.6	1.5	0.1	研磨面	研磨面	孔内凹輪痕		
107	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.0~4.1	2.0~2.7	1.5	0.06	軽い研磨	打割面	孔内凹輪痕		
108	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.8	2.2~2.4	1.6	0.09	軽い研磨	打割面	孔内凹輪痕		
109	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
110	小玉	ガラス	燐味色	6.2~6.6	3.8~4.9	2.0~2.3	0.38			両小口研磨		
111	小玉	ガラス	燐味色	5.5~5.8	4.4~4.8	2	0.21			両小口研磨		
112	小玉	ガラス	燐味色	6.9~7.3	4.4~4.8	1.8~2.5	0.35			両小口研磨		
113	小玉	ガラス	燐味色	6.8~7.3	5.4	2.0~2.3	0.38			両小口研磨		
114	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.5	2.3~3.4	1.5	0.09	研磨面	打割面	孔内凹輪痕		
115	白玉	滑石	灰色	4.5	1.7~2.2	1.5	0.06	打割面	打割面	孔内凹輪痕		
116	白玉	滑石	灰色	4.5	2.7~3.3	1.6	0.1	研磨面	打割面	孔内凹輪痕	開口に小開口	
117	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.6	2.0~2.8	1.6	0.08	研磨面	打割面	孔内凹輪痕	孔末に小開口	
118	白玉	滑石	灰色	4.5~4.7	3.0~3.5	1.6	0.11	打割面	軽い研磨	孔内凹輪痕	孔末に小開口	
119	小玉	ガラス	燐味色	6.5~7.0	4.8~5.4	2.1	0.35			小口磨き		
120	曹玉	赤瑪瑙	暗赤褐色 半透明	7.4~7.6	22.5	2.7~3.4	2.01			幅目あり 孔内は凹輪痕跡と幾あり 片面穿孔 微成藍色少		片 面穿孔
121	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.5	3.0~3.4	1.5	0.1	軽い研磨	打割面	孔内凹輪痕	孔末に小開口	
122	白玉	滑石	淡灰(緑)色	4.5	3	1.6	0.07	軽い研磨	打割面	孔末面に大きめの開口		
123	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.3	3.3	1.6	0.08	軽い研磨	打割面	孔末面に開口		
124	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.3	2.4~2.5	1.8	0.07	軽い研磨	軽い研磨	孔末面に小さめの開口		
125	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.3~4.5	2.9~3.4	1.7	0.09	打割面	打割面	孔末面に開口		
126	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.3~4.4	3.5	1.8	0.1	打割面	軽い研磨	孔末面に小さめの開口		
127	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.4	3.2~3.3	1.6	0.1	軽い研磨	軽い研磨	孔末面に小さな割傷		
128	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.2	2.7~3.1	1.7	0.07	軽い研磨	打割面	孔末面に小さめの開口		
129	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.6~4.8	2.0~2.3	1.6	0.07	打割面	打割面	孔末面に小さめのフツン状の開口		
130	曹玉	緑色縹灰岩	清緑白色	9.5~9.8	30.8	4.2~4.5	2.8			両面穿孔 石質軟質		
131	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.2	2.3~3.2	1.6	0.07	軽い研磨	打割面	孔末面に小さめのフツン状の開口		
132	白玉	滑石	(焼) 灰色	5	1.6~1.9	1.9	0.07	打割面	打割面	孔内凹輪痕 割部中央付近に弱い輪痕		
133	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.6	1.9~2.1	1.6	0.05	打割面	打割面	孔内凹輪痕 割部中央付近に弱い輪痕		
134	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.3~4.6	3.3~3.7	1.6	0.1	打割面	打割面	孔内凹輪痕 両面穿孔		
135	白玉	滑石	淡灰色	4.3~4.7	2.0~3.2	2.0	0.07	軽い研磨	打割面	孔末に大きな開口		
136	小玉	ガラス	(焼) 青色	4.0~4.3	2.1~2.9	1.4~1.7	0.07			両小口磨き		

137	小玉	ガラス	(淡) 青色	5.2	3.7	2.5	0.1			両小口磨き 縦溝
138	小玉	ガラス	淡青色	4.8~5.3	4.0~4.7	2.3	0.16			両小口磨き
139	小玉	ガラス	淡青色	6.2~6.5	3.2~3.4	1.6~2.1	0.18			両小口磨き 全体にクラック
140	小玉	ガラス	淡青色半スキ	4.6~4.9	3.5~3.7	1.5~2.1	0.12			両小口磨き
141	小玉	ガラス	淡青色半スキ	3.7~3.9	3.2~3.7	1.3~1.8	0.07			両小口磨き 白色の石英粒様の不純物あり
142	小玉	ガラス	燐青色	4.1~4.3	2.5~2.7	1.4~1.6	0.06			両小口磨き
143	小玉	ガラス	淡青色半スキ	4.4~4.8	4.0~4.3	1.4~1.7	0.05			両小口磨き
144	小玉	ガラス	青色半スキ	4.9~5.3	2.8	1.8~2.7	0.1			両小口磨き
145	小玉	ガラス	淡青色半スキ	3.2~3.4	3.1~3.4	2.0~2.4	0.16			両小口磨き
146	小玉	ガラス	暗青色半スキ	4.7~5.0	4.1	1.7~1.9	0.12			両小口磨き
147	小玉	ガラス	淡青色半スキ	4.1~4.5	3.9~4.2	1.5~1.7	0.1			片方の小口磨き
148	小玉	ガラス	淡青色半スキ	4.1~4.5	3.9~4.2	1.3~1.7	0.09			両小口磨き
149	小玉	ガラス	暗青色半スキ	—	—	—	—			縦溝
150	短玉	ガラス	淡青白色と淡青緑色の縞状	9.2	23.8	2	2.98			気泡が玉の長軸を貫く
151	短玉	石英	白色	7.2	2.24	2.2	1.32			白色の不透明材
152	小玉	ガラス	燐青色	5.2~5.4	3.0~3.2	1.4~1.7	0.12			両小口磨き
153	小玉	ガラス	燐青色	5.0~5.1	3.8~3.9	1.4~1.7	0.15			両小口磨き
154	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.3~4.4	2.3~2.9	1.7	0.07	打磨面	打磨面	孔内回転面 孔両面から開けられていて中央付近で合致
155	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.5	3.0~3.6	1.6	0.1	打磨面	打磨面	孔内回転面 孔末に小さな開口
156	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.0~4.1	2.4~3.1	1.6	0.07	打磨面	打磨面	孔内回転面 孔末に小さな開口
157	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.7~4.8	3.0~3.2	1.5	0.11	打磨面	軽い研磨	孔内回転面 孔末に小さな開口
158	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.8	2.6~3.0	1.7~1.9	0.08	軽い研磨	打磨面	孔内回転面 孔末に開口
159	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.7	2.2~2.8	1.6	0.09	軽い研磨	打磨面	孔内回転面 孔末に開口
160	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.2~4.4	1.7~2.8	1.6	0.06	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転面 孔末に開口
161	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.7~4.8	2.8~3.0	1.7	0.11	研磨面	打磨面	孔内回転面 孔末に開口
162	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.7~4.8	1.4~2.9	1.5	0.08	軽い研磨	打磨面	孔内回転面 孔末に大きな開口
163	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.8	3.1~3.4	1.7	0.12	軽い研磨	打磨面	孔内回転面 孔末に小さな開口 胴部中央付近に深い縦溝
164	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.8~4.9	3.5~4.1	1.7	0.13	軽い研磨	打磨面	孔は両面から開けられ、くの字に曲がって合致している
165	小玉	ガラス	燐青色	6.2~6.4	4.8~5.3	2.5	0.3			両小口磨き
166	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.3	2.3~3.1	1.7	0.07	打磨面	打磨面 (胴部面?)	孔内回転面 孔末に小さな開口 胴部中央付近に深い縦溝
167	小玉	ガラス	燐青色	6.2~7.2	5.1~5.5	2.0~2.2	0.37			両小口磨き
168	小玉	ガラス	燐青色	5.9~6.5	5.2~5.5	2.0~2.6	0.31			両小口磨き
169	白玉	滑石	淡灰色	4.6~4.7	2.1~2.4	1.5	0.08	研磨面	打磨面	孔内回転面 孔末に細かい開口多数
170	白玉	滑石	灰 (黄) 色	4.5	1.9~2.1	1.7	0.07	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転面 孔末に細かい開口
171	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.6~4.7	1.8~2.1	1.5	0.07	研磨面	打磨面	孔内回転面 孔両側直しの収溝 孔末に細かい開口多数
172	白玉	滑石	淡灰色	4.9	1.0~1.6	1.5	0.05	研磨面	打磨面	孔内回転面
173	白玉	滑石	(暗) 灰色	4.5	1.9~2.5	1.5	0.07	研磨面	打磨面	孔内回転面 孔末に細かい開口多数 一部欠損有使用時のものか?
174	白玉	滑石	灰 (緑) 色	4.5	2.2~2.5	1.6	0.08	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転面 孔末に細かい開口
175	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.2	2.1~2.2	1.5	0.05	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転面 孔末に細かい開口 使用時と推定される欠損あり
176	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.2	1.6~2.0	1.5	0.05	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転面 孔末に細かい開口 使用時と推定される欠損あり
177	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.6	1.8~2.0	1.5	0.06	研磨面	軽い研磨	孔内回転面 孔末に細かい開口
178	白玉	滑石	(暗) 灰色	4.6	1.5~2.4	1.5	0.07	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転面 孔末に小さい開口
179	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.4	1.9~2.1	1.6	0.06	研磨面	打磨面	孔内回転面 使用時と推定される欠損あり
180	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.0~4.1	2.6~3.4	1.5	0.08	打磨面	研磨面	孔内回転面 孔末に細かい開口
181	白玉	滑石	灰 (緑) 色	4.2~4.3	2.4~3.4	1.5	0.06	研磨面	打磨面	孔内回転面 孔末に開口 上面の開口に欠損

182	白玉	滑石	(白) 灰色	4.2	2.2-2.8	1.5	0.07	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に開口 上面の開口に欠損 下面に凹削
183	白玉	滑石	(白) 灰色	4.6	2.3	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口
184	白玉	滑石	(白) 灰色	4.3	1.9-2.2	1.5	0.06	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口
185	白玉	滑石	(白) 灰色	4.8	2.0-2.5	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口 玉の研削に小さい欠損
186	白玉	滑石	(白) 灰色	4.1-4.2	1.8-2.1	1.5	0.05	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口
187	白玉	滑石	(白) 灰色	4.4	2.3-3.0	1.5	0.07	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口 側面に欠損
188	白玉	滑石	(白) 灰色	4.4-4.5	2.1-2.5	1.5	0.06	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口 研削に欠損
189	白玉	滑石	(白) 灰色	4.1-4.2	2.1-2.6	1.5	0.06	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に開口
190	白玉	滑石	(白) 灰色	4.6	2.5-2.8	1.5	0.09	研磨面	軽い研磨	孔内凹削面	孔末に開口 研削に欠損
191	白玉	滑石	(白) 灰色	4.6-4.7	2.6-2.8	1.5	0.1	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口
192	白玉	滑石	(白) 灰色	4.6-4.7	2.9-3.0	1.6	0.09	打削面	研磨面	孔内凹削面	孔末に小さい開口 研磨面から削けた欠陥の孔がある (2孔あり)
193	白玉	滑石	(白) 灰色	4.5-4.6	2.9-3.0	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口 玉の研削に小さい欠損
194	白玉	滑石	(白) 灰色	4.5-4.6	2.1-2.3	1.5	0.06	打削面	研磨面	孔内凹削面	孔末に開口 研削に大きな欠損
195	白玉	滑石	(白) 灰色	4.9	1.2-1.7	1.5	0.05	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口
196	白玉	滑石	(白) 灰色	4.1-4.4	1.4-2.1	1.5	0.05	研磨面	打削面	孔内凹削面	上下面の孔の縁に小さい開口 細かい欠損多
197	白玉	滑石	淡灰色	4.7	2.5-2.8	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口 孔表面から大きな凹削
198	白玉	滑石	淡灰色	4.5	1.1-2.0	1.5	0.05	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口 小口部に開口
199	白玉	滑石	淡灰色	4.5	1.2-2.0	1.5	0.05	打削面	研磨面	孔内凹削面	孔末に開口
200	白玉	滑石	(白) 灰色	4.6	2.2-2.9	1.5	0.08	打削面	研磨面	孔内凹削面	孔末に開口 約1/4欠損
201	白玉	滑石	(白) 灰色	4.6	2.1-2.5	1.5	0.08	打削面	研磨面	孔内凹削面	孔末に開口
202	白玉	滑石	(白) 灰色	4.7	1.6-2.1	1.5	0.06	打削面	研磨面	孔内凹削面	孔末に小さい開口
203	白玉	滑石	(白) 灰色	4.5	1.7-2.6	1.5	0.07	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口
204	白玉	滑石	(白) 灰色	4.3	1.7-2.6	1.5	0.05	打削面	研磨面	孔内凹削面	小口部に凹削 大きな開口
205	白玉	滑石	(白) 灰色	4.5	2.0-2.4	1.5	0.07	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口
206	白玉	滑石	(白) 灰色	4.5	1.5-2.1	1.5	0.06	打削面	自然面?	孔内凹削面	孔末に小さい開口
207	白玉	滑石	(白) 灰色	4.4	1.8-2.3	1.5	0.06	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口
208	白玉	滑石	灰色	5	2.1-2.3	1.5	0.09	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口 約1/5欠損
209	白玉	滑石	(白) 灰色	4.9-5.0	1.7-2.1	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内凹削面	孔末に小さい開口
210	白玉	滑石	灰色	4.9	1.9-2.5	1.5	0.08	研磨面	研磨面	孔内凹削面	孔末に小さい開口
211	白玉	滑石	灰(緑)色	4.6-4.7	1.8-2.3	1.6	0.08	研磨面	打削面	孔内凹削面	
212	白玉	滑石	灰(緑)色	4.3-4.5	3.1-4.5	1.8	0.12	打削面	打削面	孔内凹削面	
213	白玉	滑石	(白) 灰色	4.4-4.7	2.0-3.2	1.7	0.08	打削面	打削面	側面に深い溝	
214	白玉	滑石	淡灰色	4.5-4.6	1.8-3.7	1.7	0.08	打削面	打削面	孔内凹削面	
215	白玉	滑石	灰黒色	4.6-4.8	2.7-3.0	1.6	0.1	研磨面	研磨面	孔内凹削面	
216	白玉	滑石	灰(青)色	4.8-4.9	2.0-2.1	1.5	0.08	研磨面	研磨面	孔内凹削面	孔内凹削面 孔末に小さい開口
217	白玉	滑石	灰(青)色	4.6-4.7	2.2-2.6	1.6	0.08	研磨面	研磨面	孔内凹削面	
218	白玉	滑石	灰(青)色	4.5-4.6	2.5-2.7	1.6	0.08	研磨面	研磨面	孔内凹削面	
219	白玉	滑石	灰色	4.5-4.7	1.3-2.4	1.5	0.06	研磨面	研磨面	孔内凹削面	孔末に小さい開口
220	白玉	滑石	灰色	4.5-4.7	2.5-2.7	1.6	0.09	研磨面	研磨面	孔内凹削面	孔末に小さい開口
221	白玉	滑石	灰色	3.8	1.5	1.5	0.01	研磨面	打削面	孔内凹削面	
222	白玉	滑石	灰色	4.7	3.0-3.2	1.5	0.12	研磨面	研磨面	孔内凹削面	孔末に小さい開口
223	白玉	滑石	灰黒色	4.6-4.7	1.9-2.2	1.5	0.08	研磨面	研磨面	孔内凹削面	
224	白玉	滑石	淡灰色	4.7	2.0-2.7	1.5	0.08	研磨面	研磨面	孔内凹削面	
225	白玉	滑石	灰色	4.7	1.2-2.6	1.6	0.07	研磨面	打削面	孔内凹削面	
226	白玉	滑石	(白) 灰色	4.8	2.4-2.7	1.5	0.1	研磨面	打削面	孔内凹削面	
227	白玉	滑石	(白) 灰色	4.8	2.4-3.0	1.5	0.11	研磨面	打削面?	孔内凹削面	
228	白玉	滑石	(白) 灰色	4.4	1.6-1.8	1.6	0.05	研磨面	打削面	孔内凹削面	

229	白玉	滑石	灰色	4.5	1.8~2.3	1.5	0.07	研磨面	研磨面	孔内同軸度
230	白玉	滑石	灰色	4.2	3.2~3.9	1.8	0.09	研磨面	研磨面	孔内同軸度
231	白玉	滑石	淡灰色	4.7	3.0~3.5	1.6	0.11	研磨面?	打削面	孔内同軸度
232	白玉	滑石	灰色	4.5	2.8~3.0	1.7	0.09	研磨面	自然面?	孔内同軸度
233	白玉	滑石	灰(緑)色	4.3	2.3~2.6	1.7	0.07	研磨面	自然面?	孔内同軸度
234	白玉	滑石	灰色	4.4	2.9~3.3	1.7	0.09	打削面	研磨面	孔内同軸度
235	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.4	3.2~3.9	1.7	0.1	打削面?	打削面?	孔内同軸度
236	白玉	滑石	淡灰色	4.4	2.9~3.2	1.7	0.08	研磨面?	研磨面?	孔内同軸度
237	白玉	滑石	灰色	4.6	3.1~3.5	1.7	0.11	研磨面	打削面	孔内同軸度
238	白玉	滑石	淡灰色	4.5	2.9~3.3	1.7	0.1	研磨面	打削面	孔内同軸度
239	白玉	滑石	(淡)灰色	4.1	3.1~3.3	1.9	0.08	研磨面	打削面	孔内同軸度
240	白玉	滑石	灰色	4.3	3.0~3.4	1.7	0.09	研磨面	打削面	孔内同軸度
241	白玉	滑石	(淡)灰色	4.5	2.1~3.5	1.6	0.09	研磨面	打削面	孔内同軸度
242	白玉	滑石	灰色	4.2~4.3	1.8~2.5	1.6	0.06	研磨面	打削面	孔内同軸度
243	白玉	滑石	(淡)灰色	4.6~4.7	2.9~3.2	1.7	0.1	打削面	打削面	孔内同軸度
244	白玉	滑石	淡灰色	4.3~4.4	2.4~2.5	1.6	0.07	研磨面	打削面	孔内同軸度
245	白玉	滑石	灰色	3.9~4.0	1.8~2.4	1.6	0.04	研磨面	打削面	孔内同軸度
246	白玉	滑石	灰色	4.3	3.0~3.1	1.7	0.09	研磨面	研磨面	孔内同軸度
247	白玉	滑石	(淡)灰色	4.2~4.3	1.8~2.4	1.7	0.06	研磨面	打削面	孔内同軸度
248	白玉	滑石	(淡)灰色	4.3	2.0~2.4	1.7	0.06	研磨面	打削面	孔内同軸度
249	白玉	滑石	暗灰緑色	4.2~4.5	3.2~4.5	1.8	0.12	研磨面	打削面	孔内同軸度 小口の一部に自然面が残る
250	白玉	滑石	(淡)灰色	4.3~4.5	2.9~3.3	1.7	0.09	研磨面	研磨面	孔内同軸度
251	白玉	滑石	(淡)灰色	4.7	2.9~3.2	1.7	0.1	研磨面	打削面	孔内同軸度
252	白玉	滑石	(淡)灰色	4.1	3.2~3.4	1.7	0.08	打削面	研磨面	孔内同軸度
253	白玉	滑石	(淡)灰色	4.4	2.5	1.7	0.07	打削面	打削面	孔内同軸度
254	白玉	滑石	(淡)灰色	4.2	2.1~3.3	1.7	0.06	研磨面	研磨面	孔内同軸度
255	白玉	滑石	(淡)灰色	3.9	1.9~2.4	1.7	0.05	研磨面	打削面	孔内同軸度
256	白玉	滑石	(淡)灰色	4.5	3.3	1.7	0.1	研磨面	打削面	孔内同軸度
257	白玉	滑石	(淡)灰色	4.3	4.1	1.7	0.11	研磨面	研磨面	孔内同軸度 両面穿孔 玉内部で少し行き違って孔がある
258	白玉	滑石	(淡)灰色	4.5	1.8~2.4	1.6	0.06	研磨面	打削面	孔内同軸度
259	白玉	滑石	(淡)灰色	4.8	2.3~2.7	1.5	0.09	研磨面	打削面	孔内同軸度
260	白玉	滑石	(淡)灰色	4.8	2.5~2.8	1.5	0.09	打削面	研磨面	孔内同軸度
261	白玉	滑石	(淡)灰色	4.7	3.5	1.6	0.12	研磨面	研磨面	孔内同軸度
262	白玉	滑石	灰色	4.6	1.0~1.7	1.5	0.04	研磨面	研磨面	孔内同軸度
263	白玉	滑石	(淡)灰色	4	3	1.6	0.07	研磨面	打削面	孔内同軸度
264	白玉	滑石	(淡)灰色	4.6	1.9~2.8	1.6	0.07	研磨面	打削面	開け直し? 溝ブレ? 段差あり 孔内同軸度
265	白玉	滑石	(淡)灰色	4.6	2.6	1.6	0.07	研磨面	研磨面	孔内同軸度 孔末に大きめの開口
266	白玉	滑石	(淡)灰色	4.6	2.7~3.2	1.7	0.1	打削面	研磨面	孔内同軸度 孔末に開口
267	白玉	滑石	灰(緑)色	4.4~4.7	1.9~3.3	1.6	0.07	研磨面	研磨面	孔内同軸度 胴部に強い種
268	小玉	ガラス	(淡)青色 手スキ	4.9~5.1	2.2~2.7	2.1~2.3	0.08			両小口研磨
269	小玉	ガラス	(淡)青色 手スキ	3.2~3.5	2.9	1.3~1.9	0.04			両小口研磨
270	白玉	滑石	(淡)灰色	4.5~4.6	2.0~2.7	1.7	0.07	打削面	研磨面	孔内同軸度
271	白玉	滑石	(淡)灰色	4.3	2.9~3.2	1.7	0.08	軽い研磨	打削面	孔末に開口
272	白玉	滑石	(淡)灰色	4.1~4.2	1.6~2.9	1.7	0.05	軽い研磨	打削面	孔内同軸度 孔末に開口 胴部に強い種
273	白玉	滑石	灰色	5.1	1.6~2.9	1.8	0.08	軽い研磨	打削面	孔内同軸度 孔末に小さい開口 胴部に強い種
274	白玉	滑石	(淡)灰緑色	4.3~4.4	1.9~3.0	1.7	0.06	軽い研磨	打削面	孔内同軸度 孔末に小さい開口 高きに差
275	白玉	滑石	(淡)灰色	4.9	4.0~5.0	1.8	0.16	打削面	軽い研磨	孔内同軸度 孔末に開口 胴部に強い種

276	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.4	2.6-3.1	1.7	0.09	研磨面	打削面	孔内回転面 孔末に開口
277	白玉	滑石	(濁) 灰色	4.6	2.2-2.8	1.5	0.09	研磨面	打削面	孔内回転面 孔末に開口 小口に磨き残しの開口あり
278	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.7	2.2-2.5	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面 孔末に開口
279	白玉	滑石	(濁) 灰色	4.5	0.5-1.8	1.5	0.04	研磨面	打削面	孔内回転面 孔末に大きな開口があり、部分的にごく深い
280	丸玉	赤瑪瑙	半透明淡橙黄色	5.0-5.2	4.6-4.7	1.7	0.17			縞目あり 孔内は回転面跡と幾あり まっすぐ片面穿孔
281	白玉	滑石	灰色	4.7	2.2-2.7	1.6	0.10	打削面	打削面	孔内回転面 孔末に開口 穿孔面に線の当りをつけた痕跡
282	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.3-4.5	1.7-2.4	1.5	0.06	軽い研磨	打削面	孔内回転面 孔末に開口 欠失と推定される小さい開口多
283	白玉	滑石	灰緑色	4.5	3.3-4.2	1.7	0.11	研磨面	打削面	孔内回転面 孔末付近で打削面側からも穿孔 断面中央付近に強い線
284	白玉	滑石	灰 (緑) 色	4.5	2.6-3.2	1.7	0.09	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転面 孔末付近で反対側からも穿孔
285	小玉	ガラス	不透明黄色	4.9-5.7	3.9	1.8	0.18			管切断面加熱処理
286	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.4	2.5-2.6	1.7	0.07	打削面	軽い研磨	孔内回転面 孔末に小さな開口
287	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.5	2.1-2.3	1.6	0.07	軽い研磨	打削面	孔内回転面 孔末に小さな開口 断面中央に近い線
288	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
289	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
290	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
291	白玉	滑石	淡灰 (緑) 色	4.4	2.1-2.4	1.6	0.05	研磨面	打削面	孔内回転面 欠損後も使用
292	白玉	滑石	淡灰色	4.8-4.9	4.8-4.9	1.6	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面
293	白玉	滑石	淡灰緑色	4.3-4.4	2.3-2.9	1.7	0.07	研磨面	打削面	孔内回転面
294	丸玉	赤瑪瑙	淡橙白色	5.9-6.0	4.3-4.5	1.8	0.23			孔内と側面に溝付着
295	白玉	滑石	淡灰緑色	4.7-4.8	2.4-3.0	1.7	0.09	研磨面	打削面	孔内回転面
296	白玉	滑石	淡灰色	4.4-4.5	2.5-3.0	1.7	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面
297	白玉	滑石	淡灰色	4.5-4.6	2.3-2.7	1.6	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面
298	白玉	滑石	灰緑色	4.3-4.4	2.5-2.7	1.6	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面
299	白玉	滑石	灰 (緑) 色	4.5-4.7	3.2-3.7	1.6	0.11	打削面	打削面	孔内回転面
300	白玉	滑石	淡灰色	4.3-4.4	3.0-3.4	1.7	0.09	研磨面	研磨面	孔内回転面
301	白玉	滑石	淡灰緑色	3.8-4.2	3.1	1.6	0.05	研磨面	研磨面	孔内回転面
302	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.4-4.6	2.3-2.8	1.6	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面
303	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.6-4.7	2.2-2.5	1.5	0.09	研磨面	研磨面	孔内回転面
304	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.2-4.3	2.3	1.5	0.07	研磨面	研磨面	孔内回転面 孔末に小さな開口
305	白玉	滑石	(淡) 灰 (青) 色	4.2	2.5	1.6	0.06	研磨面	打削面	孔内回転面
306	白玉	滑石	暗灰色	4.2	1.5-2.1	1.5	0.05	研磨面	打削面	孔内回転面
307	白玉	滑石	暗灰 (茶) 色	4.4	1.6-2.0	1.5	0.05	研磨面	打削面	孔内回転面
308	白玉	滑石	(濁) 灰色	4.3	2.4	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面
309	白玉	滑石	(濁) 灰色	4.4	2.2-2.4	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面 孔末に小さな開口
310	白玉	滑石	(濁) 灰色	4.5	2.9	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面 孔末に開口
311	白玉	滑石	(濁) 灰色	4.5	1.5-2.2	1.5	0.07	研磨面	研磨面	孔内回転面 孔末に開口
312	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.6	2.2	1.5	0.07	研磨面	打削面	孔内回転面 孔末に開口
313	白玉	滑石	灰色	4.6	4.1	1.6	0.15	研磨面	打削面	孔内回転面
314	小玉	ガラス	暗褐色	2	1.6	1		計測不可		管切新 切断面加熱処理・研磨 孔のフチがエッジしている
315	小玉	ガラス	暗褐色	1.8	1.4	0.8		計測不可		管切新 小口磨き
316	小玉	ガラス	濃青紫色手スキ	1.7	1.2	0.7		計測不可		管切新 小口磨き 孔のフチがエッジしている
317	小玉	ガラス	暗褐色	1.7-1.9	1.6	0.6-1.0		計測不可		管切新 小口磨き 孔のフチがエッジしている
318	小玉	ガラス	暗褐色	1.9	1.5	0.7		計測不可		管切新 小口磨き
319	小玉	ガラス	暗褐色	1.9-2.0	1.5	1		計測不可		管切新 切断面加熱処理・研磨
320	小玉	ガラス	半透明暗青紫色	2	0.9-1.0	1		計測不可		管切新 切断面加熱処理・片小口研磨
321	白玉	滑石	(濁) 灰色	4.6	2.3	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面 孔末に小さな開口
322	白玉	滑石	灰色	4.7	2.0-2.3	1.5	0.08	研磨面	研磨面	孔内回転面 孔末に小さな開口

323	白玉	滑石	灰色	4.6	2.3~2.4	1.7	0.09	研磨面	打削面	孔内回転面	
324	白玉	滑石	灰色	4.6	2.6	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面	孔先に開口
摩豆置から遊離した玉・土質によって検出された玉											
325	白玉	滑石	(淡) 灰緑色	4.8~5.2	2.3~2.6	1.6	0.09	研磨面	打削面	孔内回転面	
326	白玉	滑石	灰緑色	4.9	2.1~2.5	1.6	0.09	研磨面	打削面	孔内回転面	
327	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.4~4.5	1.8~2.1	1.6	0.05	打削面	打削面	孔内回転面	胴部中央付近に深い溝線
328	白玉	滑石	灰(緑)色	4.4~4.6	2.4~3.1	1.7	0.10	打削面	打削面	孔内回転面	小口部に成形時の欠け
329	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.1	2.9~3.4	1.7	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面	
330	白玉	滑石	(明) 灰緑色	4.5~4.6	3.4~5.2	1.9	0.13	打削面	打削面	孔内回転面	孔が大きく欠け、小口が鈍めになっている
331	白玉	滑石	(明) 灰色	4.8~4.9	3.3~3.5	1.8	0.13	打削面	打削面	孔内回転面	
332	白玉	滑石	灰色	4.4~4.5	3.0~3.3	1.7	0.09	研磨面	打削面	孔内回転面	孔末付近で両面からあけられる
333	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.6~4.8	2.9~3.1	1.7	0.11	研磨面	研磨面	孔内回転面	胴部中央付近に深い溝線
334	白玉	滑石	灰色	4.5~4.7	2.4~2.7	1.6	0.08	打削面	打削面	孔内回転面	小口部は成形時から鋭め
335	白玉	滑石	灰色	4.3~4.4	3.2~3.5	1.6	0.10	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転面	
336	白玉	滑石	灰色	4.1	2.8~3.2	1.7	0.07	打削面	打削面	孔内回転面	表面荒れている
337	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.4	2.6	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面	口部に磨き残しの開口
338	白玉	滑石	灰色	4.2~4.3	2.8~3.2	1.7	0.08	研磨面	研磨面	孔内回転面	
339	白玉	滑石	灰色	4.5	3.0~3.2	1.7	0.10	研磨面	打削面	孔内回転面	口部に磨き残しの開口
340	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.4	2.4~2.5	1.6	0.07	打削面	軽い研磨	孔内回転面	
341	白玉	滑石	灰色	4.5	2.8~3.7	1.6	0.12	軽い研磨	打削面	孔内回転面	
342	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.4	3.1~3.5	1.6	0.09	打削面	軽い研磨	孔内回転面	
343	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.2~4.3	3.0~3.5	1.6	0.09	打削面	軽い研磨	孔内回転面	
344	白玉	滑石	(明) 灰色	4.2	1.8~2.2	1.6	0.05	研磨面	研磨面	孔内回転面	
345	白玉	滑石	(明) 灰色	5	2.4~2.6	1.5	0.11	研磨面	研磨面	孔内回転面	小口に磨き残しの開口
346	白玉	滑石	(明) 灰色	4.5~4.8	2.6~3.6	1.6	0.11	研磨面	打削面	孔内回転面	小口が鈍くなる
347	白玉	滑石	(明) 灰色	4.2~4.3	3.3~3.5	1.7	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面	胴部上半に深い溝線
348	白玉	滑石	(明) 灰色	4.4~4.5	2.9~3.4	1.6	0.09	研磨面	打削面	孔内回転面	打削面ヒンジ
349	白玉	滑石	(淡) 灰色	4	2.2~2.8	1.5	0.04	打削面	打削面	孔内回転面	胴部に深い溝線
350	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.3~4.4	2.0~2.4	1.6	0.07	研磨面	研磨面	孔内回転面	
351	白玉	滑石	(明) 灰色	4.5	1.9~2.4	1.4	0.08	打削面	研磨面	孔内回転面	側面の一部に磨き残しの開口
352	白玉	滑石	(明) 灰色	4.7	2.2~2.4	1.5	0.09	打削面	研磨面	孔内回転面	
353	白玉	滑石	(明) 灰色	4.8	2.7	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面	約1/3欠損
354	白玉	滑石	(明) 灰色	4.5	2.1~3.3	1.7	0.09	軽い研磨	打削面	孔内回転面	
355	白玉	滑石	灰色	4.4	1.8	1.5	0.04	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転面	約1/3欠損
356	小玉	ガラス	増味色	2	1.3	0.7	計測不能				
357	白玉	滑石	淡灰緑色	4.3	2.1~2.4	1.6	0.06	研磨面	打削面	孔内に鉄分付着	孔末にごく小さな開口
358	白玉	滑石	暗灰緑色	4.3~4.7	2.2~2.5	1.7	0.07	打削面	打削面	孔内回転面	胴部中央にかすかな溝線
359	白玉	滑石	暗灰(緑)色	4.4~4.5	2.5~2.7	1.7	0.08	打削面	打削面	孔内回転面	胴部中央にかすかな溝線
360	白玉	滑石	暗灰(緑)色	4.7~4.8	3.6~3.9	1.8	0.11	打削面	打削面	孔内回転面	胴部中央にかすかな溝線
361	白玉	滑石	(明) 灰色	4.6	2.5~2.6	1.5	0.09	研磨面	研磨面	孔内回転面	
362	白玉	滑石	(明) 灰色	4.3	2.2~2.5	1.7	0.07	研磨面	研磨面	孔内回転面	
363	白玉	滑石	灰色	4.5~4.6	2.7~2.9	1.6	0.09	軽い加工 打削面	研磨面	孔内回転面	
364	白玉	滑石	暗灰(緑)色	4.1~4.4	1.7~3.1	1.7	0.06	打削面	打削面	孔内回転面	
365	小玉	ガラス	増味色	3.1~3.4	1.5~2.0	1.1~1.3	0.02			管切断	小口磨き
366	小玉	ガラス	増味色	2.0	1.9~2.1	1.0	0.01			管切断	小口磨き
367	小玉	ガラス	(明) 青色 半スキ	4.4~4.7	3.3~3.7	1.5	0.1			管切断	切断面加熱処理
368	小玉	ガラス	(淡) 青色 半スキ	4.2~4.7	2.0~2.5	1.8	0.05			管切断	切断面加熱処理

369	小玉	ガラス	(陶) 青色 平スキ	4.4	2.9~3.4	1.9	0.07			管切断 小口磨き 練磨
370	白玉	磨石	淡灰色	4.9~5.0	2.9~3.2	1.6	0.12	研磨面	打削面	孔内回転面
371	白玉	磨石	淡灰色	4.2~4.4	3.1~3.8	1.7	0.11	打削面	打削面	孔内回転面
372	白玉	磨石	(灰) 灰緑色	4.5~4.8	2.2~2.3	1.8	0.08	打削面	打削面	孔内回転面
373	白玉	磨石	(灰) 灰緑色	4.2~4.3	2.4~2.5	1.7	0.07	研磨面	打削面	孔内回転面
374	白玉	磨石	淡灰色	3.9~4.0	2.5~2.7	1.8	0.06	研磨面	打削面	孔内回転面
375	白玉	磨石	淡灰色	4.1~4.3	2.2~2.5	1.7	0.06	研磨面	打削面	孔内回転面
376	白玉	磨石	淡灰色	4.2~4.4	1.9~2.9	1.8	0.07	研磨面	打削面	孔内回転面
377	白玉	磨石	淡灰色	4.2~4.3	2.2~2.9	1.8	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面
378	白玉	磨石	淡灰色	4.3~4.4	2.8~3.1	1.7	0.09	研磨面	打削面	孔内回転面
379	白玉	磨石	淡灰色	4.0~4.1	1.5~2.1	1.6	0.04	打削面	打削面	孔内回転面
380	白玉	磨石	淡灰色	4.3	2.6~2.8	1.6	0.07	研磨面	打削面	孔内回転面
381	白玉	磨石	淡灰色	4.0~4.1	2.4~2.7	1.6	0.06	研磨面	打削面	孔内回転面
382	白玉	磨石	淡灰色	4.0~4.1	2.2~2.5	1.7	0.06	打削面	研磨面	孔内回転面
383	白玉	磨石	淡灰色	4.1~4.4	2.4~3.0	1.6	0.08	研磨面	打削面	孔内回転面
384	白玉	磨石	淡灰色	4.3~4.4	2.1~2.8	1.7	0.07	打削面	打削面	孔内回転面 胴部中央に深い線
385	白玉	磨石	灰(緑)色	4.5~4.6	2.6~2.7	1.5	0.08	研磨面	研磨面?	孔内回転面
386	白玉	磨石	(灰) 灰色	4.3~4.5	1.9~2.7	1.6	0.07	研磨面	打削面	孔内回転面
387	白玉	磨石	(灰) 灰色	4.5	3.0~3.5	1.6	0.11	研磨面	打削面	孔内回転面
388	白玉	磨石	(灰) 灰色	4.3~4.4	2.9~3.3	1.6	0.09	研磨面	研磨面?	孔内回転面
389	白玉	磨石	(陶) 灰色	4.3	2.3~2.7	1.5	0.07	研磨面	研磨面	孔内回転面
390	白玉	磨石	(灰) 灰色	4.3	2.4~2.7	1.6	0.07	研磨面	打削面	孔内回転面
391	白玉	磨石	(灰) 灰色	4.3~4.4	1.5~1.9	1.5	0.05	研磨面	打削面	孔内回転面
392	白玉	磨石	(灰) 灰色	4.6	2.1~3.3	1.8	0.07	研磨面	打削面	孔内回転面 胴部中央に深い線
393	白玉	磨石	(灰) 灰色	4.8	2.8	1.7	0.06	研磨面	打削面	孔内回転面 約半分欠損
394	小玉	ガラス	暗青色平スキ	2.4	1.5	1		計測不能		管切断 小口磨き
395	小玉	ガラス	暗青色平スキ	1.7	0.8	0.7		計測不能		管切断 小口磨き
396	小玉	ガラス	暗青色平スキ	1.9	1.9	0.75	0.01			熱処理で切断面加工
397	小玉	ガラス	暗青色平スキ	2.2	1.3	1	0.01			管切断 小口磨き
398	小玉	ガラス	暗青色平スキ	1.9	1.9	1		計測不能		管切断 小口磨き
399	小玉	ガラス	暗青色平スキ	2	0.9	1.1		計測不能		熱処理で切断面加工
400	小玉	ガラス	暗青色平スキ	2	1	0.9		計測不能		熱処理で切断面加工
401	小玉	ガラス	暗青色平スキ	1.8	1.8	0.8		計測不能		管切断 小口磨き 孔の緑サラスエている
402	小玉	ガラス	暗青色平スキ	1.9	1.1	0.9		計測不能		管切断 小口磨き 孔の緑サラスエている
403	小玉	ガラス	暗青色平スキ	1.9~2.0	1.2	1		計測不能		管切断 小口磨き 孔の緑サラスエている
404	小玉	ガラス	暗青色平スキ	2	1.3	0.8		計測不能		管切断 小口磨き
405	小玉	ガラス	暗青色平スキ	1.95	1.0~1.2	0.8		計測不能		管切断 小口磨き
406	小玉	ガラス	暗青色平スキ	2.0~2.2	1.1~1.2	0.9		計測不能		管切断 小口磨き
407	小玉	ガラス	暗青色平スキ	1.3	2	0.9		計測不能		管切断 小口磨き
408	小玉	ガラス	暗青色平スキ	2	1.4~1.6	1		計測不能		管切断 熱処理で切断面加工
409	小玉	ガラス	暗青色平スキ	2	1.0~1.2	0.9		計測不能		管切断 熱処理で切断面加工
410	小玉	ガラス	暗青色平スキ	6.8~7.1	4.5~4.7	1.9	0.25			管切断 小口磨き
411	白玉	磨石	(灰) 灰色	4.6~4.8	2.8~3.4	1.9	0.10	打削面	打削面	孔内回転面 孔内跌分付着 胴部中央に 磨かぬ線
412	白玉	磨石	(灰) 灰色	4.5	2.4~3.5	1.7	0.10	軽い研磨	打削面	孔内回転面
413	白玉	磨石	(陶) 灰色	4.4~4.8	2.8~3.5	2	0.10	軽い研磨	打削面	孔内回転面
414	白玉	磨石	(灰) 灰色	4.5	1.9~2.1	1.5	0.07	研磨面	打削面	孔内回転面
415	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
416	白玉	磨石	(陶) 灰色	4.3~4.7	3.0~4.5	1.7	0.12	軽い研磨	打削面	孔内回転面

417	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.4~4.5	1.7~2.5	1.6	0.06	軽い研磨	打削面	孔内回転削
418	白玉	滑石	灰色	4.3	1.2~2.2	1.7	0.04	研磨面	打削面	孔内回転削
419	白玉	滑石	灰色	4.5~4.7	2.1~2.4	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内回転削
420	白玉	滑石	灰色	4.4~4.6	2.7~3.3	1.5	0.08	軽い研磨	打削面	孔内回転削
421	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.4~4.5	3.2~3.6	1.5	0.10	研磨面	打削面	孔内回転削
422	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.5~4.6	2.9~3.5	1.6	0.09	研磨面	打削面	孔内回転削
423	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.2	2.1~2.8	1.7	0.07	研磨面	打削面	孔内回転削
424	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.4	2.0~2.2	1.6	0.07	研磨面	打削面	孔内回転削
425	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.3	2.1~2.4	1.5	0.07	研磨面	軽い研磨	孔内回転削
426	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.3	2.3~2.5	1.5	0.06	研磨面	軽い研磨	孔内回転削 胴部に磨き残し
427	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.2	1.9~2.4	1.6	0.06	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転削
428	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.6	2.1	1.5	0.06	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転削
429	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.6	1.6~2.2	1.7	0.06	打削面	軽い研磨	孔内回転削 全体に鉄分付着
430	白玉	滑石	(淡) 灰色	3.9~4.1	2.0~2.5	1.5	0.06	研磨面	打削面	孔内回転削
431	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.3	2.1~2.3	1.5	0.06	研磨面	軽い研磨	孔内回転削 孔末に開口
432	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.6	1.7~3.1	1.8	0.07	打削面	軽い研磨	孔内回転削 胴部中央に深い溝線
433	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.5~4.7	1.7~2.2	1.5	0.07	打削面	研磨面	孔内回転削 孔末に小さな開口
434	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.5~4.6	1.8~2.1	1.5	0.07	軽い研磨	研磨面	孔内回転削 孔末に小さな開口
435	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.3	2.0~2.3	1.6	0.07	研磨面	軽い研磨	孔内回転削 孔末に小さな開口
436	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.7~4.9	1.5~2.5	1.5	0.07	研磨面	打削面	孔内回転削 孔末に小さな開口 平面部は不整形な円形 製作時の開口の磨き残しあり
437	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.5~4.7	2.2~2.3	1.5	0.08	軽い研磨	研磨面	孔内回転削 孔末に小さな開口
438	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.6~4.7	1.7~2.6	1.6	0.08	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転削 孔末に開口
439	白玉	滑石	暗灰色	4.1~4.4	3.8~4.2	1.8	0.09	(打削面)	(打削面)	孔内回転削 両小口に縦溝か 菱形か
440	白玉	滑石	灰緑色	4.3~4.8	2.6~3.6	1.8	0.09	軽い研磨	打削面	孔内回転削 胴部に磨き残しの開口 孔末に大きな開口
441	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.6	2.3~2.6	1.7	0.09	研磨面	打削面	孔内回転削 孔末に小さな開口
442	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.3~4.6	2.3~2.5	1.6	0.09	研磨面	軽い研磨	孔内回転削 孔末に開口 胴部に磨き残しの開口あり
443	白玉	滑石	(淡) 灰色	2.5~4.0	2.5~4.0	1.8	0.11	軽い研磨	打削面	孔内回転削 孔末に小さな開口 胴部に深い溝線
444	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.6~4.7	3.5~4.0	1.8	0.12	研磨面	軽い研磨	孔内回転削 孔末に小さな開口 胴部に深い溝線
445	小玉	ガラス	暗褐色	1.8~1.9	1.60	0.9	計測不能			小口磨き
446	小玉	ガラス	暗褐色	1.9~2.0	1.2~1.3	0.8	計測不能			小口磨き
447	小玉	ガラス	暗褐色	1.5	1.1~1.2	0.8	計測不能			小口磨き
448	小玉	ガラス	暗褐色	1.8	1.40	0.7	計測不能			小口磨き
449	小玉	ガラス	暗褐色	2	1.20	0.7	0.01			小口磨き
450	白玉	滑石	淡灰 (緑) 色	4.2~4.3	1.90	1.5	0.04	研磨面	打削面	孔内回転削
451	白玉	滑石	淡灰 (緑) 色	4.5~4.8	2.30	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内鉄分付着
452	白玉	滑石	淡灰 (緑) 色	4.5~4.6	1.90	1.8	0.05	軽い研磨	打削面	孔内鉄分付着
453	白玉	滑石	淡灰色	4.3~4.6	2.6~2.9	1.5	0.08	研磨面	打削面	孔内回転削
454	白玉	滑石	灰色	4.6~4.7	2.50	1.5	0.09	研磨面	打削面	孔内回転削
455	白玉	滑石	淡灰色	4.3	2.0~2.3	1.6	0.06	研磨面	打削面	孔内回転削 孔末に細かい開口
456	白玉	滑石	淡灰色	4.2	1.3~1.6	1.5	0.04	軽い研磨	打削面	孔内回転削 ・ ツヤ
457	小玉	ガラス	暗褐色	1.9~2.0	0.60	0.9	計測不能			管切断後加熱処理
458	小玉	ガラス	暗褐色	1.8	1.20	0.7	計測不能			両小口磨き
459	白玉	滑石	淡灰色	4.4	2.4~3.1	1.9	0.08	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転削 孔末に細かい開口 胴面に溝線 全や製強り
460	白玉	滑石	淡灰色	3.8~3.9	2.1~3.0	1.7	0.05	軽い研磨	軽い研磨	孔内回転削 孔末に開口 胴面に溝線やや製強り 胴部に開口
461	白玉	滑石	淡灰色	4.2~4.3	3.1~3.3	1.7	0.08	研磨面	研磨面	孔内回転削 孔末に開口 胴面に溝線やや製強り 胴部に開口
462	白玉	滑石	淡灰色	3.8~3.9	2.8~3.2	1.7	0.06	研磨面	打削面	孔内回転削 孔末に開口 胴面に溝線やや製強り

463	白玉	滑石	淡灰色	4.4	3.0-3.4	1.8	0.09	研磨面	打削面	孔内凹削面 孔末に大きな開口 側面に微かに押痕 やや割れり
464	白玉	滑石	淡灰色	4.2	3.8-3.2	1.8	0.08	打削面	研磨面	孔内凹削面 孔末に開口 側面に押痕 やや割れり
465	白玉	滑石	淡灰色	4.0-4.2	1.5-3.5	1.8	0.05	研磨面	(打削面)	孔内凹削面 孔末に大きな開口を研磨 側面に微かな押痕 やや割れり
466	白玉	滑石	淡灰色	4.2-4.3	2.0-2.8	1.6	0.06	研磨面	軽い研磨	孔内凹削面 孔末に開口 側面に押痕 やや割れり 小口目に開口
467	白玉	滑石	淡灰色	4.3	2.2-2.5	1.7	0.06	軽い研磨	軽い研磨	孔内凹削面 孔末に微かな開口 側面に微かな押痕 やや割れり
468	白玉	滑石	灰青色	4.9	2.6-3.2	1.8	0.10	打削面	打削面	孔内凹削面 孔末に微かな開口 側面に微かな押痕 胴部中央付近に割線

3号増第1主体部

番号	玉種	材質	色調	径mm	長mm	質量g	孔径mm	穿孔面	孔端面	備考
1	白玉	滑石	灰青色	5.1	2.5-2.7	0.12	1.5	研磨面	研磨面	側面に押痕残らず
2	白玉	滑石	(陶) 灰色	5.1	2.7	0.12	1.4	研磨面	研磨面	側面に押痕残らず
3	小玉	ガラス	暗青色半スキ	8.7	3.2-3.8	0.33	4.1	-	-	巻き付け法で製作
4	白玉	滑石	(陶) 灰色	5	2.7-2.8	0.12	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな押痕
5	白玉	滑石	(陶) 灰色	5	2.5	0.12	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな押痕 孔末に小さな開口
6	白玉	滑石	(陶) 灰色	5.3	2.5	0.13	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな押痕
7	白玉	滑石	(陶) 灰色	5.3	2.3-2.5	0.12	1.4	研磨面	研磨面	側面に押痕残らず
8	白玉	滑石	(陶) 灰色	4.9	2.1	0.09	1.4	研磨面	研磨面	側面に押痕残らず 一部に使用時の欠損あり
9	白玉	滑石	(陶) 灰色	4.5-4.6	3	0.1	1.5	研磨面	研削面	側面に微かな押痕
10	白玉	滑石	(陶) 灰色	5	1.7-1.8	0.07	1.4	研磨面	研削面	側面に押痕残らず
11	白玉	滑石	灰色	4.8-5.0	3.0-3.4	0.13	1.5	研磨面	軽い研磨	側面に押痕残らず 側面に磨き残しの開口
12	白玉	滑石	灰色	5.2	2.8	0.13	1.6	研磨面	研削面	側面に微かな押痕
13	白玉	滑石	灰色	5.0-5.1	1.3-1.4	0.06	1.4	研磨面	研磨面	側面に押痕残らず
14	白玉	滑石	灰色	4.7	0.9-1.8	0.05	1.6	研磨面	研削面	側面に微かな押痕
15	白玉	滑石	(陶) 灰色	5.3	1.8-2.2	0.1	1.4	研磨面	研削面	側面に微かな押痕
16	白玉	滑石	灰色	5.3	2.2-2.5	0.12	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな押痕
17	白玉	滑石	(陶) 灰色	5.4	2.5	0.13	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな押痕
18	白玉	滑石	灰色	5	3.3	0.14	1.7	研磨面	研削面	側面に微かな押痕
19	白玉	滑石	灰色	5.2	2.1	0.1	1.5	研磨面	研削面	側面に微かな押痕
20	白玉	滑石	灰色	5.1-5.2	2.1-2.2	0.1	1.6	研磨面	研削面	側面に微かな押痕
21	白玉	滑石	灰色	4.9-5.0	2.4-2.6	0.11	1.5	研磨面	研削面	側面に微かな押痕
22	白玉	滑石	(陶) 灰色	5.2	2.5	0.13	1.5	研磨面	研削面	側面に微かな押痕
23	白玉	滑石	灰色	5.2-5.3	2.6-2.7	0.1	1.6	研磨面	研削面	側面に微かな押痕
24	白玉	滑石	灰色	5.1	1.3-1.7	0.07	1.5	研磨面	研磨面	側面に押痕残らず
25	白玉	滑石	灰色	5.1-5.2	2.5-2.7	0.12	1.5	研磨面	研削面	側面に微かな押痕
26	白玉	滑石	灰色	5.1-5.2	1.8	0.08	1.5	研磨面	研磨面	側面に押痕残らず
27	白玉	滑石	灰色	5	2.6	0.11	1.5	研磨面	研削面	側面に押痕残らず
28	白玉	滑石	(研) 灰色	5.1-5.2	2.7	0.12	1.5	研磨面	研削面	側面に押痕残らず 胴部中央付近に微い割線
29	白玉	滑石	灰色	5.2	2	0.09	1.5	研磨面	研磨面	側面に押痕残らず
30	白玉	滑石	灰色	5.2	1.9-2.1	0.09	1.5	研磨面	研磨面	側面に押痕残らず 側面に使用時の欠損あり
31	白玉	滑石	(陶) 灰色	5.2	2.4	0.11	1.6	研磨面	研磨面	側面に押痕残らず 胴部中央付近に微い割線
32	白玉	滑石	(陶) 灰色	5.1	2.5	0.11	1.6	研磨面	軽い研磨	側面に押痕残らず 研削面に磨き残しの開口
33	白玉	滑石	灰色	5	2	0.08	1.5	研磨面	研磨面	側面に押痕残らず 研削面に磨き残しの開口
34	白玉	滑石	(研) 灰色	4.9-5.0	2.2-2.3	0.1	1.6	研磨面	研削面	側面に押痕残らず
35	白玉	滑石	灰色	4.9	1.4-1.7	0.06	1.4	研磨面	研磨面	側面に押痕残らず 使用時の欠損あり
36	白玉	滑石	(研) 灰色	4.9	3.0-3.2	0.13	1.6	研磨面	研削面	側面に押痕残らず
37-1	白玉	滑石	灰色	4.9	2.1-2.2	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面に押痕残らず

27-2	白玉	滑石	灰色	4.8	1.4~1.6	0.07	1.5	研磨面	新口面	側面に擦痕残らず
38	白玉	滑石	灰色	4.9~5.0	2.7~2.9	0.11	1.6	研磨面	新口面	側面に擦痕残らず
39	白玉	滑石	灰色	4.6	2.1~2.2	0.08	1.6	研磨面	研磨面	側面に擦痕残らず
40	白玉	滑石	灰色	5.5	2.1~2.3	0.11	1.6	研磨面	新口面	側面に擦痕残らず 使用時の欠損あり
41	白玉	滑石	(砲) 灰色	4.9	3.6~3.8	0.15	1.7	研磨面	新口面	側面に擦かな擦痕
42	白玉	滑石	灰色	4.8	1.2~1.8	0.06	1.5	研磨面	新口面	側面に擦かな擦痕
43	白玉	滑石	灰色	5.7	2.3~2.4	0.13	1.6	研磨面	研磨面	側面に擦痕残らず
44	白玉	滑石	灰色	5.4~5.5	2.3~2.4	0.13	1.5	研磨面	研磨面	側面に擦かな擦痕
45	白玉	滑石	灰色	5.5	2.7~3.3	0.17	1.6	研磨面	新口面	側面に擦痕残らず 研磨面の小口の約半分剥離
46	白玉	滑石	灰色	5.1~5.2	2	0.1	1.5	研磨面	新口面	側面に擦痕残らず
47	白玉	滑石	灰色	4.8	1.7~1.9	0.06	1.5	研磨面	研磨面	側面に擦痕残らず 側面の一部欠損
48	白玉	滑石	灰色	4.8	1.8	0.07	1.5	研磨面	新口面	側面に擦痕残らず
49-1	白玉	滑石	灰色	4.8	1.8~2.0	0.07	1.6	研磨面	研磨面	側面に擦かな擦痕 孔先に大きな新口
49-2	白玉	滑石	(砲) 灰色	4.9	2.3~2.4	0.09	1.5	研磨面	研磨面	側面に擦痕残らず
50	白玉	滑石	灰色	4.3	2.0~3.2	0.07	1.7	研磨面	新口面	側面に擦かな擦痕 胴部中央付近に擦かな擦痕
51	白玉	滑石	灰色	5	2.2	0.1	1.6	研磨面	新口面	側面に擦痕残らず
52	白玉	滑石	灰色	4.8	2.0~2.1	0.08	1.6	研磨面	研磨面	側面に擦痕残らず
53	白玉	滑石	灰色	5.1	3.5~4.3	0.18	1.8	新口面	新口面	側面に擦痕残らず
54	白玉	滑石	(砲) 灰色	4.8	2.4	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面に擦痕残らず
55	白玉	滑石	灰(白)色	5.4~5.5	2.9~3.1	0.15	1.6	研磨面	新口面	側面に擦かな擦痕 白色の石基が多い
56	白玉	滑石	灰(緑)色	5.2	1.9~2.0	0.09	1.5	研磨面	研磨面	側面に擦痕残らず
57	白玉	滑石	灰色	5.3	2.2~2.5	0.12	1.5	研磨面	新口面	側面に擦痕残らず 小口の肩口を一部欠損
58	白玉	滑石	灰色	5.1	2.4~2.8	0.1	1.6	研磨面	新口面	側面に擦かな擦痕 約1/4欠損
59	白玉	滑石	灰色	4.2~5.1	2.4~2.6	0.1	1.5	研磨面	新口面	側面に擦かな擦痕 両面に磨き残しの新口が残る
60	白玉	滑石	灰(白)色	5.3~5.1	2.7	0.12	1.4	研磨面	研磨面	側面に擦かな擦痕 胴部中央付近に擦かな擦痕 白色の石基が多い 小口の肩口に磨き残しの新口
61	白玉	滑石	(砲) 灰色	5.2	2.6~2.7	0.13	1.6	研磨面	新口面	側面に擦かな擦痕 胴部中央付近に擦かな擦痕
62-1	白玉	滑石	灰色	5.2	2.4~2.5	0.11	1.6	研磨面	研磨面	側面に擦かな擦痕
62-2	白玉	滑石	(砲) 灰色	5.2	2.6~2.7	0.13	1.6	研磨面	新口面	側面に擦かな擦痕 胴部中央付近に擦かな擦痕
63	白玉	滑石	灰(緑)色	5.5~5.6	2.0~2.3	0.11	1.6	研磨面	研磨面	側面に擦かな擦痕
64	白玉	滑石	(砲) 灰色	5.2	2.4	0.11	1.6	研磨面	新口面	側面に一部小さな欠損
65	白玉	滑石	(砲) 灰色	5.1~5.2	2.6	0.12	1.6	研磨面	新口面	側面に擦かな擦痕
66	白玉	滑石	灰色	4.7	2.1	0.08	1.6	研磨面	研磨面	側面に擦かな擦痕
67	白玉	滑石	灰白色	4.4~4.5	2.1~2.2	0.06	1.7	新口面	新口面	多孔質で、側面に細かい孔が多く密く
68	白玉	滑石	灰色	5	2	0.09	1.6	研磨面	新口面	側面に擦痕残らず
69	白玉	滑石	(砲) 灰色	4.8~5.0	2.0~2.1	0.09	1.5	研磨面	研磨面	側面に擦かな擦痕
70	白玉	滑石	(砲) 灰(緑)色	5.1~5.3	1.9	0.08	1.5	研磨面	新口面	側面に擦かな擦痕 孔先面は多孔質
71	白玉	滑石	(砲) 灰色	5.4	2.4	0.12	1.5	研磨面	研磨面	側面に擦かな擦痕 胴部中央付近に粒線
72	白玉	滑石	(砲) 灰色	5.4	2.0~2.1	0.1	1.5	研磨面	研磨面	側面に擦かな擦痕 胴部中央付近に細かい粒線
73	白玉	滑石	灰色	5.4	1.5~1.7	0.08	1.5	研磨面	新口面	側面に擦かな擦痕 胴部中央付近に細かい粒線
74	白玉	滑石	灰色	5.5	2.0~2.2	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面に擦かな擦痕 胴部中央付近に擦かな擦痕 約1/4欠損
75	白玉	滑石	灰色	5	1.9	0.08	1.6	研磨面	新口面	側面に擦かな擦痕 小口に小さな新口・整合時の磨き残しか？
76	白玉	滑石	灰色	4.8	2.5~2.6	0.1	1.5	研磨面	研磨面	側面に擦かな擦痕 側面に小さな新口(3)の磨き残し
77	白玉	滑石	(砲) 灰色	5.0~5.2	2.5	0.12	1.5	研磨面	研磨面	側面に擦かな擦痕 側面と小口に小さな新口の磨き残し
78	白玉	滑石	灰色	4.9	2.5~2.8	0.1	1.6	研磨面	研磨面	側面に擦かな擦痕 胴部中央付近に細かい粒線
79	白玉	滑石	(砲) 灰色	5.1~5.2	1.5	0.07	1.6	研磨面	研磨面	側面に擦かな擦痕 小口に僅かの磨き残し

80	白玉	滑石	(焼) 灰色	5.2	2.4	0.12	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕
81	白玉	滑石	灰色	5.2	3	0.15	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 側面に小さな割口の磨き残し
82	白玉	滑石	灰色	5.0-5.1	2.4-2.5	0.11	1.7	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕
83	白玉	滑石	灰色	5.0-5.1	2	0.09	1.5	研磨面	新口面	側面に極微かな擦痕
84	白玉	滑石	灰色	5.2	2.6-2.7	0.12	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 側部中央付近に微い粒線と欠陥の割口
85	白玉	滑石	灰色	5.2	2.2-2.3	0.11	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕
86	白玉	滑石	(焼) 灰色	5.1	2.3	0.1	1.5	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 側部中央付近に微かな粒線
87	白玉	滑石	灰色	5.1	2.5-2.6	0.12	1.6	研磨面	新口面	側面に極微かな擦痕
88	白玉	滑石	(注) 灰色	5.3	2.6-2.7	0.12	1.6	研磨面	軽い研磨	側面に微かな擦痕 側部中央付近に微かな粒線
89	白玉	滑石	(焼) 灰色	5	3.3-3.4	0.15	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕
90	白玉	滑石	灰色	4.6-4.8	2.4-2.6	0.1	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕
91	白玉	滑石	灰色	5.2	2.4-2.5	0.12	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 側面に鉄線付着
92	白玉	滑石	灰色	5.1	1.8	0.08	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 側部中央付近に微かな粒線
93	白玉	滑石	灰色	5.1	2.7	0.12	1.6	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 側面と小口に小さな割口の磨き残し
94	白玉	滑石	(注) 灰色	5.1	2.2-2.4	0.11	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕
95	白玉	滑石	(焼) 灰色	5.2	2.6-2.9	0.13	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕
96	白玉	滑石	(焼) 灰色	5.1	2.5	0.12	1.7	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕
97	白玉	滑石	灰色	5.0-5.1	3.3-3.8	0.15	1.8	軽い研磨	新口面	側面に微かな擦痕 側部中央付近に粒線
98-1	白玉	滑石	灰色	5.6	2.1	0.1	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 小口にやや大きな割口の磨き残しか？
98-2	白玉	滑石	灰色	5.6	2.4	0.14	1.6	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕
99	白玉	滑石	(注) 灰色	4.3	2.0-3.0	0.06	1.8	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 側部に微い粒線
100	白玉	滑石	灰色	5	2.9-3.0	0.12	1.6	研磨面	軽い研磨	側面に微かな擦痕 白色の石基多い 側面に欠陥
101	白玉	滑石	灰色	5	2.1	0.08	1.3	軽い研磨	新口面	側面に微かな擦痕 側面に新口の磨き残しor欠陥
102	白玉	滑石	灰色	5.3	2.0-2.1	0.1	1.6	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 側部中央付近にごく微い粒線
103	白玉	滑石	灰色	4.8-4.9	2.2-2.7	0.1	1.6	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 側面に新口の磨き残し
104	白玉	滑石	灰色	4.7-4.8	1.8-2.0	0.08	1.6	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕
105	白玉	滑石	(焼) 灰色	5	3.2-3.3	0.14	1.7	新口面	研磨面	側面に微かな擦痕
106	白玉	滑石	(焼) 灰色	5	2.0-2.1	0.09	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕
107	白玉	滑石	(注) 灰色	4.8	2.8-3.0	0.11	1.6	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕
108	白玉	滑石	(注) 灰白色	—	—	—	—	—	—	1/8以下の小片
109	白玉	滑石	(注) 灰色	4	2.1-2.5	0.05	1.9	軽い研磨	新口面	側面に微かな擦痕
109下	白玉	滑石	(焼) 灰色	5.1	2.8	0.12	1.5	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕
110	白玉	滑石	灰色	4.8	1.8-1.9	0.08	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕
111	白玉	滑石	灰色	4.6	2.2-2.3	0.09	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 小口割口に一部磨き残し
112	白玉	滑石	(焼) 灰色	5.3-5.4	2.5-2.6	0.14	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 小口割口に一部磨き残し
113	白玉	滑石	灰色	5.4	2.1-2.2	0.11	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 小口割口に一部磨き残し
114	白玉	滑石	灰色	5.3	2.4-2.6	0.12	1.6	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 小口割口に一部磨き残し
115	白玉	滑石	灰色	5.1	1.7-1.9	0.09	1.5	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 小口割口に一部磨き残し 側部に微い粒線
116-1	白玉	滑石	灰色	4.9	1.6-1.7	0.07	1.5	新口面	研磨面	側面に微かな擦痕 小口割口に一部磨き残し
116-2	白玉	滑石	灰色	4.9	2.1	0.08	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 小口割口に一部磨き残し
117	白玉	滑石	灰色	5	2.1-2.2	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕
118	白玉	滑石	(焼) 灰色	5	2.6-2.7	0.12	1.5	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕
119	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.9-5.0	2.1-2.4	0.1	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕
120	白玉	滑石	(注) 灰色	4.5	2.5-3.2	0.1	1.8	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕
121	白玉	滑石	(注) 灰色	4.9-5.0	1.2-1.8	0.06	1.6	研磨面	新口面	孔内倒転面直したず

122	白玉	滑石	灰色	5	1.9-2.0	0.06	1.6	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 2片に分割
123	白玉	滑石	(例) 灰色	5.1-5.2	2.4-2.5	0.12	1.6	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕
124	白玉	滑石	(例) 灰色	5	2.3-2.7	0.11	1.5	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕
125	白玉	滑石	灰色	5	2.3-2.4	0.1	1.6	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 一部に鉄線付着
126	白玉	滑石	灰色	4.9	2.2	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 一部に鉄線付着
127	白玉	滑石	灰色	5.2	2.7-2.9	0.13	1.6	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 小口開口に一部磨き残しと欠損
128	白玉	滑石	(例) 灰色	4.0-4.1	2.8-3.2	0.07	1.7	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 孔末に開口
129	白玉	滑石	灰色	4.9	2.0-2.1	0.09	1.5	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 小口開口に一部磨き残し
130	白玉	滑石	灰色	4.9	2.8-2.9	0.12	1.6	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 孔末に小さな開口
131	白玉	滑石	(例) 灰色	5	2.2-2.3	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕
132	白玉	滑石	(例) 灰色	4.6-4.7	2.4-2.6	0.08	1.9	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近にごく細かい微痕
133	白玉	滑石	暗灰色	5.1	2.7-2.9	0.13	1.6	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕
134	白玉	滑石	灰色		2.4	0.01		研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 小破片
135	白玉	滑石	灰白色	4.0-4.1	2.3-2.5	0.04	1.7	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に明確な微痕 孔末に小さな開口 孔内回転痕
136	白玉	滑石	淡灰色	4.2	2.2-2.5	0.05	1.6	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に明確な微痕
137	白玉	滑石	灰白色	4	2.0-2.4	0.04	1.8	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に明確な微痕
138	白玉	滑石	淡灰色	3.8	1.8-2.6	0.04	1.8	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 側面観なめ
139	白玉	滑石	灰白色	3.9	1.7-2.3	0.04	1.7	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 側面観なめ
140	白玉	滑石	淡灰色	4.2	1.5-2.0	0.04	1.8	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に明確な微痕
141	白玉	滑石	灰白色	4.2	1.7-2.1	0.05	1.8	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に明確な微痕 孔末に小さな開口 孔内回転痕
142	白玉	滑石	淡灰色	4	2.4-2.5	0.05	1.8	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に明確な微痕 孔末に小さな開口 孔内回転痕
143	白玉	滑石	淡灰色	4	2.1-2.4	0.04	1.8	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に明確な微痕 孔末に小さな開口 孔内回転痕
144	白玉	滑石	淡灰色	—	—	—	—	—	—	研磨して粉末状態
145	白玉	滑石	淡灰色	4.2	2.2-2.5	0.06	1.8	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に明確な微痕 孔内回転痕 小口開口に一部磨き残し
146	白玉	滑石	淡灰白色	3.9-4.0	2.1-2.5	0.05	1.9	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に明確な微痕
147	白玉	滑石	淡灰色	4.0-4.1	0.8-1.6	0.01	1.7	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に微痕
148	白玉	滑石	淡灰色	4.0-4.1	2.3-2.9	0.05	1.7	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に微痕
149	白玉	滑石	淡灰白色	4.0-4.1	1.5-2.2	0.03	1.6	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に微痕
150	白玉	滑石	淡灰色	4.3	3.9	0.04	1.8	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に細かい微痕
151	白玉	滑石	淡灰白色	3.5	1.0-1.8	0.01	1.8	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近にごく細かい微痕 孔内回転痕
152	白玉	滑石	淡灰色	4.2-4.3	2.3-2.6	0.05	1.8	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 孔内回転痕 多孔質
153	白玉	滑石	淡灰白色	—	—	—	—	—	—	粉末化
154	白玉	滑石	淡灰色	4.1-4.3	1.7-2.1	0.05	1.8	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に微痕
155	白玉	滑石	淡灰色	3.8	0.9-1.3	0.01	1.7	研磨面	研磨面	側面にごく細い微痕
156	白玉	滑石	淡灰色	3.9	1.0-1.5	0.01	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく細い微痕
157	白玉	滑石	淡灰白色	4	1.1-1.8	0.01	1.7	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に細かい微痕 側面に一部欠損 孔内回転痕
158	白玉	滑石	淡灰白色	3.9	1.5-2.0	0.03	1.6	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近に微痕 孔内回転痕
159	白玉	滑石	淡灰白色	4	1.8-2.7	0.04	1.7	研磨面	研磨面	側面にごく細い微痕 胴部中央付近に微痕 孔内回転痕 多孔質
160	白玉	滑石	淡灰白色	4	2.4-3.0	0.05	1.7	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近にごく細かい微痕 孔内回転痕
161	白玉	滑石	淡灰白色		2.3	0.01		研磨面	研磨面	小破片 側面に散かな微痕 胴部中央付近にごく細かい微痕 孔内回転痕
162	白玉	滑石	淡灰白色	4.1-4.2	2.5-2.8	0.06	1.8	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近にごく細かい微痕 孔内回転痕
163	白玉	滑石	淡灰白色	4	1.8-2.6	0.05	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく細い微痕 孔内回転痕
164	白玉	滑石	淡灰白色	4.2	1.4-2.2	0.04	1.8	研磨面	研磨面	側面に散かな微痕 胴部中央付近にごく細かい微痕 孔内回転痕
165	白玉	滑石	淡灰色	4.1-4.2	2.2-2.7	0.05	1.7	研磨面	研磨面	側面にごく細い微痕 胴部中央付近にごく細かい微痕 孔内回転痕 形状の亀裂

166	白玉	滑石	淡灰白色	3.8	1.2~1.6	0.01	1.7	研磨面	新口面	表面に微かな凹痕 胴部中央付近に深い 浅線 孔内凹痕
167	白玉	滑石	淡灰白色	4.2~4.3	2.1~2.7	0.06	1.8	新口面	軽い研磨	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕
168	白玉	滑石	淡灰白色	3.9~4.1	1.6~2.2	0.04	1.6	研磨面	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕
169	白玉	滑石	淡灰白色	3.7~3.8	1.3~2.1	0.03	1.6	研磨面	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕 穿孔面小口に深口(欠損?)
170	白玉	滑石	淡灰色	3.7	1.6~2.2	0.03	1.7	研磨面	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕
171	白玉	滑石	灰色	3.9	1.6~2.2	0.04	1.7	研磨面	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に浅線 孔内 凹痕
172	白玉	滑石	淡灰白色	4.1	1.0~1.7	0.01	1.9	軽い研磨	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕
173	白玉	滑石	淡灰白色	3.8~4.0	1.8~2.4	0.04	1.7	軽い研磨	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕
174	白玉	滑石	淡灰白色	3.9	2.2~2.9	0.05	1.8	軽い研磨	新口面	表面に深い凹痕 胴部に深い浅線 孔内 凹痕 多孔質
175	白玉	滑石	(黄) 灰色	4.1	2.2~2.6	0.05	2	軽い研磨	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕 孔の開けはじめに開け直しの 痕跡あり
176	白玉	滑石	淡灰白色	3.9~4.0	1.5~1.7	0.03	1.7	軽い研磨	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕
177	白玉	滑石	淡灰白色	3.5~3.7	1.2~1.6	0.01	1.7	軽い研磨	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕
178	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.1	1.8~2.3	0.04	1.7	軽い研磨	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕
179	白玉	滑石	(白) 灰色	4	1.5~1.9	0.03	1.8	軽い研磨	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕 孔末に深口
180	白玉	滑石	淡灰白色	4	1.7~2.1	0.04	1.7	軽い研磨	軽い研磨	表面に微かな凹痕 胴部端よりに深い浅 線 孔内凹痕
181	白玉	滑石	(黄) 灰色 (4.2)	1.2	(0.01)	(1.7)	軽い研磨	軽い研磨	表面に微かな凹痕 胴部に浅線 孔内 凹痕 約半分残存	
182	白玉	滑石	(白) 灰色	3.9~4.4	1.4~1.7	0.04	1.7	軽い研磨	軽い研磨	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕
183	白玉	滑石	淡灰白色	3.8~3.9	1.6~2.1	0.05	1.8	軽い研磨	軽い研磨	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕 孔末に深口
184	白玉	滑石	(白) 灰色	4.0~4.1	1.5~1.8	0.04	1.8	軽い研磨	軽い研磨	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕 孔末に深口
185	白玉	滑石	(白) 灰色	—	—	(0.01)	—	—	—	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕 小破片
186	白玉	滑石	淡灰白色	3.7~3.8	2.4~3.0	0.05	1.8	軽い研磨	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕 孔末に深口
187	白玉	滑石	淡灰白色	3.7	2.4~3.1	0.04	1.8	軽い研磨	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕 孔末に深口
188	白玉	滑石	(白) 灰色	4	1.3~1.9	0.03	1.8	軽い研磨	軽い研磨	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕
189	白玉	滑石	(白) 灰色	4.1	1.6~2.0	0.04	1.7	軽い研磨	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に深い浅線 孔 内凹痕 孔末に深口
190	白玉	滑石	(白) 灰色	3.8~3.9	1.2~2.2	0.03	1.8	軽い研磨	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に浅線 孔内 凹痕 孔末に深口
191	白玉	滑石	(白) 灰色	4	2.4~2.7	0.05	1.8	研磨面	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に浅線 孔内 凹痕 孔末に深口
192	白玉	滑石	淡灰白色	4	1.8~2.1	0.04	1.7	軽い研磨	軽い研磨	表面に微かな凹痕 胴部に浅線 孔内 凹痕 孔末に深口に数面まで及ぶ
193	白玉	滑石	(白) 灰色 (3.6)	2.6	(0.03)	1.7	軽い研磨	軽い研磨	表面に微かな凹痕 胴部に浅線 孔内 凹痕	
194	白玉	滑石	(白) 灰色	4.0~4.1	1.1~1.8	0.03	1.7	軽い研磨	軽い研磨	表面に微かな凹痕 胴部に浅線 孔内 凹痕 孔末に大きな深口
195	白玉	滑石	(白) 灰色	4	1.8~2.3	0.04	1.7	新口面	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に浅線 孔内 凹痕 孔末に深口
196	白玉	滑石	(白) 灰白色 (3.8)	—	—	(0.03)	1.8	—	—	表面に微かな凹痕 孔内凹痕 破片
197	白玉	滑石	(白) 灰色	—	—	—	—	—	—	破片
198	白玉	滑石	(白) 灰色	4.0~4.1	1.7~1.9	0.04	1.8	軽い研磨	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に浅線 孔内 凹痕 孔末に深口
199	白玉	滑石	(白) 灰色	4	(2.1)	(0.01)	1.7	研磨面	新口面	表面に微かな凹痕 胴部に浅線 孔内 凹痕 孔末に深口 多孔質で一部欠損
200	白玉	滑石	(白) 灰白色	3.9	2.1~3.0	0.05	1.8	研磨面	研磨面	表面に微かな凹痕 胴部に浅線 孔内 凹痕 孔末に深口
201	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
202	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
203	白玉	滑石	淡灰色	4.2	1.9~2.5	0.04	1.5	研磨面	新口面	表面に微かな凹痕 胴部中央付近に深い 浅線 磨き残しの深口
204	白玉	滑石	(白) 灰色	4	1.7~2.3	0.04	1.7	新口面	新口面	表面に微かな凹痕 胴部中央付近に深い 浅線
205	白玉	滑石	(白) 灰色	—	—	0.01	—	—	—	表面に微かな凹痕 小破片
206	白玉	滑石	暗灰色	5	2.2~2.3	0.09	1.5	研磨面	新口面	表面に微かな凹痕 磨かずに製型り

207	白玉	滑石	暗灰色	4.7~4.8	2.7~2.9	0.09	1.8	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 胴部中央付近に強い擦痕
208	白玉	滑石	暗灰色	5.1~5.2	2.7~2.8	0.12	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 小口と胴部に新口の磨き残し
209	白玉	滑石	(細) 灰色	5.2	2.5~2.7	0.13	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 胴部中央付近にごく強い擦痕
210	白玉	滑石	(細) 灰色	5.1	2.2	0.1	1.6	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 胴部に小さい新口
211	白玉	滑石	(細) 灰色	5	1.4~1.6	0.06	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕
212	白玉	滑石	暗灰色	5.3	2.8~3.0	0.12	1.6	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 側面・新口に欠損
213	白玉	滑石	灰色	4.8	2.3~3.7	0.11	1.7	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 僅かに新張り
214	白玉	滑石	(細) 灰色	5.2	2.8~3.0	0.13	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 僅かに新張り 石基に白濁多く混じる
215	白玉	滑石	(細) 灰色	5.1	2.5~2.6	0.12	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 僅かに新張り
216	白玉	滑石	(細) 灰色	5.2	1.9~2.0	0.09	1.4	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 僅かに新張り 石基に白濁多く混じる 小口新口に磨き残し
217	白玉	滑石	(細) 灰色	4.7~4.8	3.7~4.2	0.14	1.9	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 僅かに新張り 孔東面に丸の磨け始めの痕跡が残る
218	白玉	滑石	(細) 灰色	5.0~5.1	0.9~2.1	0.06	1.4	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 小口面の中央部側に約半分の大きな新口がある 使用感中か
219	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
220	白玉	滑石	(細) 灰色	5.0~5.1	2.2~2.3	0.1	1.5	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕
221	白玉	滑石	(細) 灰色	5.1	2.6~2.7	0.11	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕が僅かに残る 側面にやや大きな新口磨き残し
222	白玉	滑石	灰白色	4.7	2.4~3.0	0.09	1.8	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 新張り
223	白玉	滑石	(細) 灰色	5.3	2.6~2.7	0.12	1.6	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕が僅かに残る 僅かに新張り
224	白玉	滑石	(細) 灰色	5.2	2.4~2.5	0.11	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕が僅かに残る 僅かに新張り
225	白玉	滑石	(細) 灰色	4.6~4.7	2.3~2.4	0.08	1.5	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕が僅かに残る 僅かに新張り 一部に鉄錆付着
226	白玉	滑石	(細) 灰色	4.7	2.1~2.3	0.08	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕が僅かに残る 僅かに新張り
227	白玉	滑石	(細) 灰色	5.7~5.8	2.7~2.8	0.07	1.4	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕が僅かに残る 僅かに新張り 小口新口に2箇所新口 石基に白濁多く混じる
228	白玉	滑石	(細) 灰色	5.7~5.9	2.5~2.6	0.15	1.5	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕が僅かに残る 僅かに新張り 石基に白濁多く混じる 小口新口に一部新口の磨き残し
229	白玉	滑石	(細) 灰色	4.7	2.1~2.2	0.08	1.7	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕が僅かに残る 僅かに新張り
230	白玉	滑石	(細) 灰色	4.9~5.0	2.4~2.7	0.11	1.7	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕が僅かに残る 僅かに新張り
231	白玉	滑石	(細) 灰色	4.8~4.9	2.2~2.7	0.08	1.7	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕が僅かに残る 僅かに新張り 小口新口に小さな新口
232	白玉	滑石	(細) 灰色	4.6~4.8	2.0~3.3	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕が僅かに残る 僅かに新張り 側面鉄錆の痕跡
233	—	—	—	—	—	—	—	—	—	粉末
234	—	—	—	—	—	—	—	—	—	粉末
235	白玉	滑石	灰白色	4.0~4.1	1.7~1.9	0.03	1.7	新口面	研磨面	側面に微かな擦痕が僅かに残る 僅かに新張り 側面に新口
236	白玉	滑石	灰白色	3.8	2.5	0.03	1.7	不明	不明	玉の長軸に沿って薄く亀裂が入る 小口面は新張り
237	白玉	滑石	灰白色	3.8~3.9	2.0~2.8	0.05	1.8	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 僅かに新張り
238	白玉	滑石	灰白色	3.8~3.9	1.0~1.8	0.01	1.7	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 僅かに新張り 胴部中央に強い擦痕
239	白玉	滑石	灰白色	4.1	—	0.03	1.7	不明	不明	玉の長軸に沿って薄く亀裂が入る 小口面は新張りか 2面に新張り
240	白玉	滑石	灰白色	4.0~4.1	1.8~2.5	0.04	1.8	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕が見る 僅かに新張り 胴部中央に強い擦痕
241	白玉	滑石	(細) 灰色	4.0~4.1	1.3~2.3	0.04	1.7	研磨面	新口面	側面に細かい擦痕と不要な擦痕 孔の磨け底しの痕跡が残る
242	白玉	滑石	(細) 灰色	4.2	0.5~1.3	0.01	1.7	研磨面	新口面	側面に細かい擦痕と擦痕 厚くて不整形
243	白玉	滑石	灰(白)色	3.9~4.3	1.5~2.0	0.03	1.8	研磨面	新口面	側面に細かい擦痕と擦痕 側面に使用時と想定される新口2箇所
244	白玉	滑石	灰白色	3.7~3.8	2.2~2.8	0.04	1.7	研磨面	新口面	側面に微かに強い擦痕が残る 僅かに新張り
245	白玉	滑石	(細) 灰色	4.0~4.1	1.7~2.1	0.04	1.8	新口面	新口面	側面に細かい擦痕と微かな擦痕
246	粉本	—	—	—	—	—	—	—	—	粉末
247	白玉	滑石	暗灰色	3.9~4.0	2.2~2.7	0.05	1.8	新口面	新口面	側面に細かい擦痕と強い擦痕
248	白玉	滑石	灰白色	4	1.0~1.2	0.01	1.7	新口面	新口面	側面に強い擦痕 僅かに新張り
249	白玉	滑石	灰白色	3.6	2.0~2.5	0.04	1.8	新口面	研磨面	側面にうすい擦痕 孔内に大きな新口新張り

250	白玉	滑石	灰白色	4	2.4-3.1	0.05	1.8	開口面	開口面	側面に細かい凹痕 側部中央付近に深い凹痕
251	白玉	滑石	灰色	3.9-4.0	1.8-2.8	0.04	1.8	研磨面	研磨面	側面にごく深い凹痕 側部中央付近に深い凹痕
252	白玉	滑石	灰白色	4.0-4.1	1.0-1.5	0.01	1.8	開口面	開口面	側面に細かい凹痕 薄くて不整形
253	白玉	滑石	灰白色	3.8-3.9	1.8-2.4	0.04	1.9	開口面	開口面	側面に細かい凹痕と深い凹痕
254	白玉	滑石	灰白色	4.1	1.9-2.4	0.04	1.8	開口面	開口面	側面に細かい凹痕と深い凹痕
255	白玉	滑石	灰白色	4.2	1.6-1.8	0.04	1.7	粗い研磨	開口面	側面に細かい凹痕と凹痕
256	白玉	滑石	灰白色	4	1.1-1.7	0.01	1.7	開口面	開口面	側面に細かい凹痕と深い凹痕
257	白玉	滑石	(灰) 白色	3.8-4.4	1.9-2.9	0.05	1.8	研磨面	開口面	側面に細かい凹痕とごく深い凹痕
258	白玉	滑石	灰白色	3.9	2.1-2.8	0.05	1.8	開口面	開口面	側面に細かい凹痕と深い凹痕 開口に小さな欠損
259	白玉	滑石	灰白色	3.9	1.9-2.3	0.04	1.7	研磨面	開口面	側面に細かい凹痕と深い凹痕 開口に小さな欠損
260	白玉	滑石	灰色	—	2.2	0.01	—	—	—	破片 側面に細かい凹痕と深い凹痕
261	白玉	滑石	(灰) 灰色	3.5-3.7	2.1-2.3	0.01	1.7	開口面	開口面	多孔質 側面に細かい凹痕 割裂り
262	白玉	滑石	灰白色	4.3	1.5-2.0	0.05	1.8	開口面	開口面	側面に細かい凹痕と深い凹痕
263	白玉	滑石	灰黒色	5.1-5.2	2.5	0.11	1.6	研磨面	研磨面	全面よく研磨されている 小口部に欠損の後軽く研磨
264	白玉	滑石	灰白色	3.8	2.4-2.7	0.04	2	開口面	開口面	側面に細かい凹痕と深い凹痕
265	白玉	滑石	灰白色	4	1.6-2.1	0.03	1.8	開口面	開口面	側面に細かい凹痕と深い凹痕
266	白玉	滑石	(灰) 灰色	3.9-4.0	1.7-2.6	0.04	1.7	開口面	開口面	側面に細かい凹痕と深い凹痕
267	白玉	滑石	灰色	3.9	1.6-2.3	0.04	1.6	開口面	開口面	側面に細かい凹痕と深い凹痕
268	白玉	滑石	灰色	4.8	1.9-2.0	0.07	1.6	研磨面	研磨面	全面よく研磨され側面にごく細かい凹痕 約1/10欠損の後軽く研磨 やや割裂り
269	白玉	滑石	灰白色	3.7	1.2-1.8	0.01	1.8	研磨面	開口面	全面よく研磨され側面にごく細かい凹痕 やや割裂り
270	白玉	滑石	(灰) 灰色	4.3-4.4	1.2-2.3	0.04	1.8	研磨面	開口面	側面に細かい凹痕と深い凹痕
271	白玉	滑石	灰白色	4.4	2.2-2.8	0.07	1.8	研磨面	開口面	側面に微かな凹痕 やや割裂り
272	白玉	滑石	灰黒色	4.7	1.4-2.9	0.07	1.7	開口面	開口面	側面に微かな凹痕 やや割裂り
273	白玉	滑石	(黄) 灰色	4.8	2.6	0.1	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな凹痕
274	白玉	滑石	(黄) 灰色	5	2.4-2.6	0.11	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな凹痕
275	白玉	滑石	灰色	5	2.2	0.1	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな凹痕
276	白玉	滑石	灰色	4.8-4.9	2.7-2.9	0.11	1.7	研磨面	研磨面	側面に微かな凹痕 やや割裂り 小口開口に一部つぶれ状の使用痕
277	白玉	滑石	灰色	5.1	2.1-2.2	0.1	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな凹痕
278	白玉	滑石	灰色	4.8-4.9	2.0-2.2	0.08	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな凹痕が僅かに残る
279	白玉	滑石	(黄) 灰色	5	2.1-2.2	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな凹痕が僅かに残る 小口に一部割き残しあり
280	白玉	滑石	灰色	5.1	2.6-2.7	0.12	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな凹痕が僅かに残る やや割裂り
281	白玉	滑石	灰 (青) 色	4.5-4.6	2.3-2.6	0.09	1.6	研磨面	開口面	側面に微かな凹痕がごく僅かに残る
282	白玉	滑石	(黄) 灰色	5	2.2-2.3	0.1	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな凹痕が僅かに残る やや割裂り
283	白玉	滑石	(黄) 灰色	5.0-5.1	2.0-2.1	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな凹痕が僅かに残る やや割裂り 側面に2箇所ツブれ状の割傷
284	白玉	滑石	灰色	5.1	2.2-2.3	0.1	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな凹痕がごく僅かに残る やや割裂り 側面にツブれ状の割傷
285	白玉	滑石	(黄) 灰色	5.1	2.3-2.4	0.11	1.5	研磨面	研磨面	側面にごく微かな凹痕が僅かに残る やや割裂り
286	白玉	滑石	(黄) 灰色	5.1-5.2	1.9	0.09	1.5	研磨面	研磨面	側面にごく微かな凹痕が僅かに残る やや割裂り
287	白玉	滑石	(黄) 灰色	5	2.0-2.1	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな凹痕が僅かに残る やや割裂り
288	白玉	滑石	(黄) 灰色	4.8	1.7-2.0	0.06	1.6	研磨面	研磨面	側面に凹痕ほとんど残っていない 開口に小さな欠損
289	白玉	滑石	灰色	4.6	2.3	0.08	1.5	研磨面	研磨面	側面にごく微かな凹痕が僅かに残る やや割裂り 側面に鉄粉付着
290	白玉	滑石	灰色	5.1	2.3-2.4	0.1	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな凹痕が僅かに残る やや割裂り 側面に打痕状の割傷
291	白玉	滑石	(黄) 灰色	5.0-5.1	2.8-2.9	0.12	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな凹痕が僅かに残る やや割裂り
292	白玉	滑石	灰色	4.9	2.3-2.4	0.1	1.7	研磨面	研磨面	側面にごく微かな凹痕が僅かに残る やや割裂り
293	白玉	滑石	(灰) 灰色	4.7-4.8	2.2-3.3	0.08	1.9	開口面	開口面	側面にごく微かな凹痕が僅かに残る 側部中央に深い凹痕
294	白玉	滑石	灰色	5	2.2	0.09	1.5	研磨面	研磨面	側面にごく微かな凹痕が僅かに残る 側面に2箇所ツブれ状の割傷

295	白玉	滑石	(陶) 灰色	5.1	3.0-3.2	0.13	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕が僅かに残る やや割裂り
296	白玉	滑石	(淡) 灰色	5.0-5.1	1.4-1.6	0.07	1.5	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕が僅かに残る 穿孔孔の反対側の面に黒け痕じの孔痕跡
297	白玉	滑石	(淡) 灰色	—	—	0.01	—	—	—	295底下 磨片
298	白玉	滑石	(淡) 灰白色	3.9	1.5-1.9	0.04	1.8	新口面	新口面	側面にごく微かな擦痕が僅かに残る 胴部中央に強い擦痕
299	白玉	滑石	淡灰白色	4.2	1.1-2.4	0.03	1.7	研磨面	新口面	側面にごく微かな擦痕が僅かに残る 胴部中央に強い擦痕 側面観察のみ
300	白玉	滑石	(淡) 灰色	3.9	1.7-2.1	0.03	1.7	新口面	新口面	側面にごく微かな擦痕が僅かに残る 胴部中央に強い擦痕
301	白玉	滑石	淡灰白色	4.1	1.6-2.4	0.04	1.8	新口面	新口面	側面に微かな擦痕 胴部中央に強い擦痕
302	白玉	滑石	淡灰白色	3.9	2.8-3.2	0.06	1.7	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 割裂り
303	白玉	滑石	淡灰白色	3.8-3.9	1.8-2.2	0.04	1.9	研磨面	新口面	側面に強い擦痕 胴部中央に強い擦痕
304	白玉	滑石	灰色	3.9-4.0	2.0-2.3	0.05	1.9	新口面	新口面	側面に微かな擦痕 胴部中央に強い擦痕
305	白玉	滑石	淡灰白色	4.1	1.3-1.7	0.04	1.7	新口面	新口面	側面に微かな擦痕 胴部中央に強い擦痕
306	白玉	滑石	淡灰白色	3.6-3.7	1.9-2.8	0.04	1.7	新口面	新口面	側面に微かな擦痕 割裂り
307	白玉	滑石	(淡) 灰白色	3.6-3.7	1.5-2.3	0.04	1.8	新口面	新口面	側面に強い擦痕 割裂り
308	白玉	滑石	淡灰白色	4.3	1.3-2.1	0.05	1.8	新口面	新口面	側面に細かい擦痕
309	白玉	滑石	淡灰色	4.1-4.2	2.2-2.9	0.06	1.8	新口面	新口面	側面に細かい擦痕 胴部中央に強い擦痕
310	白玉	滑石	淡灰白色	4	1.6-2.3	0.04	1.8	研磨面	新口面	側面に強い擦痕 胴部中央に強い擦痕
311	白玉	滑石	淡灰色	4	2.3	0.04	1.8	新口面	新口面	側面に細かい擦痕 3片に毀損
312	白玉	滑石	淡灰白色	4	1.2-1.7	0.01	1.6	研磨面	新口面	側面に細かい擦痕
313	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.3-4.4	2.3-2.5	0.06	1.8	研磨面	新口面	側面に細かい擦痕
314	白玉	滑石	淡灰白色	3.9-4.0	1.6-1.8	0.01	1.8	新口面	新口面	側面に微かな擦痕 やや割裂り 胴部中央付近に強い擦痕 小口部に欠損あり
315	白玉	滑石	淡灰白色	3.9	0.8-1.6	0.01	1.9	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 やや割裂り
316	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.1-4.2	1.6-2.3	0.04	1.7	研磨面	新口面	側面に細かい擦痕 胴部中央に明確な擦痕
317	白玉	滑石	淡灰白色	4	1.1-1.7	0.01	1.7	新口面	新口面	側面に細かい擦痕 胴部中央付近に強い擦痕
318	白玉	滑石	(淡) 灰色	3.8-4.0	1.3-2.4	0.01	1.9	研磨面	新口面	側面に細かい擦痕 胴部中央付近に強い擦痕 約1/4程度毀損
319	白玉	滑石	(淡) 灰色	3.8	0.8-1.8	0.01	1.9	新口面	新口面	側面に中央に近い擦痕 胴部中央付近に強い擦痕
320	白玉	滑石	淡灰白色	3.9	1.0-2.2	0.01	1.8	新口面	新口面	側面に細かい擦痕 胴部中央付近に擦痕 写本に差
321	白玉	滑石	淡灰色	4.2	1.3-1.9	0.03	1.7	新口面	新口面	側面に細かい擦痕 胴部中央付近に擦痕 写本に差
322	白玉	滑石	灰白色	4	1.1	0.01	1.6	—	—	薄く層状に亀裂が入る 上下が割かれて中央部分が残存したものか?
323	白玉	滑石	淡灰色	4.0-4.1	1.4	0.01	1.9	新口面	新口面	側面に細かい擦痕 胴部中央付近に強い擦痕 一部割裂
324	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.5	1.8-2.2	0.06	1.8	新口面	新口面	側面に微かな擦痕と強い擦痕
325	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磨片のため不明
326	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.1-4.2	1.6-2.2	0.03	1.8	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕と強い擦痕
327	白玉	滑石	(淡) 灰色	3.8-3.9	2.2-2.7	0.04	1.8	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕と強い擦痕 多孔質
328	白玉	滑石	暗灰色	4.4-4.7	2.9-4.0	0.11	1.9	新口面	研磨面	側面に微かな擦痕
329	白玉	滑石	灰色	4.8-4.9	2.2	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕
330	白玉	滑石	(陶) 灰色	5	2.4-2.5	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面擦痕ほとんど見られず 約1/5程度2箇所欠損使用時か?
331	白玉	滑石	(陶) 灰色	5.1	2.4	0.1	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕
332	白玉	滑石	(陶) 灰色	5	2.1-2.2	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕
333	白玉	滑石	(陶) 灰色	4.9	2.8-2.9	0.11	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕と打痕状の欠損3ヶ所
334	白玉	滑石	灰色	5	1.2	0.05	1.4	研磨面	研磨面	擦痕ほとんど認められず 層薄だが変形
335	白玉	滑石	(陶) 灰色	5.1	3.2-3.3	0.14	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕 やや割裂り 一部鉄錆付着
336	白玉	滑石	灰色	4.8-4.9	2.0-2.5	0.08	1.8	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 やや割裂り 一部鉄錆付着
337	白玉	滑石	(陶) 灰色	4.8	2.6-3.8	0.11	1.8	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 やや割裂り 一部鉄錆付着
338	白玉	滑石	灰色	4.9	2.0-2.3	0.09	1.5	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕 新口に打痕状の欠損1ヶ所
339	白玉	滑石	灰色	4.9	2	0.08	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕 新口に小さな打痕状の欠損1ヶ所

340	白玉	滑石	灰色	4.9	2.2~2.5	0.1	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな凹痕	僅かに割傷あり
341	白玉	滑石	(白) 灰色	4.1~4.2	1.5~3.5	0.06	1.8	研磨面	研磨面	側面に微かな凹痕	僅かに割傷あり 側面 微斜め込
342	白玉	滑石	(白) 灰色	3.8~3.9	1.9~2.4	0.04	1.8	研磨面	研磨面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に線傷
343	白玉	滑石	(白) 灰色	—	—	0.04	—	—	—	—	—
344	白玉	滑石	(白) 灰色	—	—	—	—	—	—	—	—
345	白玉	滑石	(白) 灰色	4.2	2.4~2.7	0.04	1.7	新口面	新口面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に線傷 約1/5程度
346	白玉	滑石	(白) 灰色	—	—	0.01	—	—	—	—	—
347	白玉	滑石	(白) 灰色	3.8~3.9	1.5~2.0	0.03	1.8	研磨面	研磨面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に線傷
348	白玉	滑石	(白) 灰白色	3.8~3.9	2.4~2.7	0.05	1.8	研磨面?	研磨面?	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に微い 線傷
349	白玉	滑石	(白) 灰色	4.0~4.1	2.0~2.2	0.04	1.7	新口面	新口面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に線傷 孔末に小新口
350	白玉	滑石	(白) 灰白色	—	—	—	—	—	—	—	—
351	白玉	滑石	(白) 灰色	4	(2.4)	0.03	1.8	研磨面	欠損	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に微い 線傷 約1/5欠損
352	白玉	滑石	灰色	3.9~4.0	2.5~2.9	0.05	1.8	新口面	新口面	側面にごく微かい凹痕	やや割傷あり
353	白玉	滑石	(白) 灰色	4.2~4.3	3	0.07	1.7	新口面	研磨面?	側面にごく微かな凹痕	やや割傷あり 孔 末に大きな新口
354	白玉	滑石	(白) 灰色	4.0~4.1	2.6~2.7	0.06	1.9	研磨面	新口面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に微い 線傷
355	白玉	滑石	淡灰色	4.0~4.1	1.7~2.3	0.05	1.9	研磨面?	新口面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に微い 線傷 孔末に新口
356	白玉	滑石	(白) 灰白色	3.9~4.0	2.1~2.7	0.05	1.9	研磨面	新口面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近にごく 微い線傷
357	白玉	滑石	淡灰色	4	2.4~3.1	0.05	1.7	研磨面	新口面	側面にごく微かい凹痕	割傷あり
358	白玉	滑石	(白) 灰色	4.1	2.0~2.6	0.05	1.8	新口面	新口面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に微い 線傷 孔末に新口
359	白玉	滑石	淡灰色	4	1.9~2.4	0.04	1.8	新口面	新口面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に微い 線傷 孔末に新口
360	白玉	滑石	淡灰色	4.0~4.1	1.3~2.1	0.03	1.8	研磨面	新口面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近にごく 微い線傷 一部使用中の欠損か?
361	白玉	滑石	(白) 灰色	3.9~4.1	1.6~2.0	0.04	1.7	新口面	新口面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に微い 線傷 孔末に新口
362	白玉	滑石	淡灰色	4.0~4.1	1.5~2.8	0.05	1.8	研磨面	研磨面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に微い 線傷 孔末に大きな新口
363	白玉	滑石	淡灰色	3.9~4.0	1.2~2.0	0.03	1.7	新口面	新口面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に微い 線傷
364	白玉	滑石	(白) 灰白色	4.0~4.1	1.3~1.6	0.03	1.5	新口面	研磨面?	側面に微かい凹痕	胴部中央付近にごく 微い線傷
365	白玉	滑石	(白) 灰白色	4.0~4.1	1.7~2.3	0.04	1.7	研磨面	新口面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近にごく 微い線傷
366	白玉	滑石	淡灰色	4.4	1.0~1.5	0.03	1.8	研磨面	研磨面	側面に微かい凹痕	孔末に新口
367	白玉	滑石	淡灰色	約3.8	不明	(0.01)	1.7	新口面	?	側面に微かな凹痕	約1/3残存
368	白玉	滑石	(白) 灰白色	3.8	3	(0.01)	1.7	新口面	新口面	側面に微かい凹痕	約2/3残存
369	白玉	滑石	(白) 灰色	4.2~4.3	2.1	0.03	1.7	新口面	研磨面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に微い 線傷 約1/5欠損
370	白玉	滑石	(白) 灰白色	—	—	—	—	—	—	—	—
371	白玉	滑石	(白) 灰白色	4.0~4.2	2.0~2.5	0.04	1.7	新口面	新口面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に微い 線傷 孔に塗して未流通の孔跡あり
372	白玉	滑石	(白) 灰白色	4	2.5	0.05	1.8	研磨面	新口面	側面にごく微かい凹痕	胴部中央付近に 線傷 孔末に微かい新口
373	白玉	滑石	灰白色	4	2.0~2.5	0.05	1.8	研磨面	研磨面	側面にごく微かい凹痕	胴部中央付近に ごく微い線傷 孔末に微かい新口
374	白玉	滑石	(白) 灰白色	4.1	2.1~2.7	0.04	1.6	研磨面	新口面	側面に微かい凹痕	約2/3残存
375	白玉	滑石	淡灰色	4.1~4.3	1.2~1.6	0.03	1.8	新口面	新口面	側面に微かな凹痕	孔末に小さな新口
376	白玉	滑石	淡灰色	4.2	0.9~1.8	0.03	1.7	新口面	新口面	側面に微かな凹痕	孔末に小さな新口 胴部中央付近に微い 線傷
377	白玉	滑石	淡灰色	4.2~4.4	1.2~1.8	0.04	1.8	新口面	新口面	側面に微かな凹痕	孔末に小さな新口 胴部中央付近にごく 微い線傷
378	白玉	滑石	(白) 灰白色	3.9	2.6~2.8	0.05	1.8	研磨面	新口面	側面に微かい凹痕	胴部中央付近に微い 線傷 孔末に微かい新口
379	白玉	滑石	(白) 灰色	4	1.0~2.2	0.03	1.6	研磨面	新口面	側面に微かな凹痕	胴部中央付近にごく 微い線傷
380	白玉	滑石	(白) 灰白色	3.8~4.1	1.5~2.2	0.04	1.8	研磨面	新口面	側面に微かな凹痕	胴部中央付近にごく 微い線傷 孔末に微かい新口
381	白玉	滑石	(白) 灰白色	3.9~4.1	2.0~2.4	0.05	1.8	研磨面	研磨面	側面に微かな凹痕	胴部中央付近に微い 線傷 孔末に微かい新口
382	白玉	滑石	灰白色	4.1	1.6~2.4	0.03	1.8	研磨面	研磨面	側面に微かな凹痕	胴部中央付近におす かな線傷 胴部で使用痕跡の欠損

単位置から選別した玉・土壌しによって抽出された玉

383	白玉	滑石	(明) 灰色	5.1	2.9-3.0	0.13	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 全体丁寧に研磨されている 約半分に鉄削付着
384	白玉	滑石	灰色	5.2	2.7	0.13	1.7	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 全体丁寧に研磨されている やや割れり
385	白玉	滑石	(明) 灰色	5.1	2.5-2.6	0.11	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 全体丁寧に研磨されている やや割れり
386	白玉	滑石	灰色	5.2	2.4-2.5	0.12	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 全体丁寧に研磨されている 孔末に小さな新口
387	白玉	滑石	灰色	5.0-5.1	2.9	0.12	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 全体丁寧に研磨されている 孔末に小さな新口 小口割口に小さな新口の磨き残し
388	白玉	滑石	(明) 灰色	5.0-5.1	2.5-2.6	0.12	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 全体丁寧に研磨されている 小口割口に使用時のやや大きな欠損
389	白玉	滑石	灰色	5.3	2.6	0.12	1.6	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 孔末に小さな新口
390	白玉	滑石	灰色	5.1	2.6-2.7	0.12	1.6	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 孔末に小さな新口
391	白玉	滑石	灰色	5.5	2.5	0.13	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 孔末に小さな新口 側面・小口に使用時と推定される欠損があり、欠損面に厚膜が認められる
392	白玉	滑石	灰色	4.8	1.8-3.7	0.09	1.8	新口面	新口面	側面に微かな擦痕 孔末に新口 側面鏡割めで差
393	白玉	滑石	灰色	4.8-4.9	1.7	0.07	1.5	研磨面	新口面	側面にごく微かな擦痕 孔末に小さな新口
394	白玉	滑石	灰色	5.3-5.4	2.9	0.15	1.6	研磨面	新口面	側面に微かな擦痕 孔末に小さな新口 やや割れり 小口部に小さな欠け
395	白玉	滑石	灰色	4.9-5.0	2.2	0.1	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 孔末に小さな新口
396	白玉	滑石	灰色	4.5-4.6	2.1-2.3	0.07	1.8	新口面	新口面	側面に微かな擦痕 孔末に新口認められず わずかに割れり
397	白玉	滑石	白灰色	4	2.0-2.6	0.05	1.8	新口面	新口面	側面に微かな擦痕 孔末に小さな新口 わずかに割れり 側面中央付近に強い線 側面鏡割めの芯 孔内面転痕よく残る
398	白玉	滑石	(明) 灰色	5.0-5.1	1.5-1.8	0.07	1.6	研磨面	研磨面	全面半周に磨かれている 約1/10程度の欠けがあるが、新口内も厚膜が認められる
399	白玉	滑石	白灰色	4.4-4.5	2.0-2.6	0.06	1.8	研磨面	新口面	側面にごく微かな擦痕 孔末面は剥落か、側面中央付近に強い線
400	白玉	滑石	灰白色	4.0-4.1	1.8-3.1	0.05	1.8	新口面	新口面	側面に微かな擦痕 わずかに割れり 側面中央付近に強い線 上下小口欠け
401	白玉	滑石	灰黒色	5.3-5.4	2.5-2.6	0.13	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕 孔末に小さな新口 やや割れり
402	白玉	滑石	灰色	5.2-5.3	2.9-3.0	0.14	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 孔末に細く小さな新口 一部鉄削付着 やや割れり
403	白玉	滑石	(明) 灰色	4.8	2.5-2.6	0.1	1.7	研磨面	新口面	側面にごく微かな擦痕 孔末に小さな新口 やや割れり
404	白玉	滑石	(明) 灰色	5.2-5.3	2.5-2.6	0.13	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕 孔末に小さな新口 やや割れり
405	白玉	滑石	灰色	5.2	2.5-2.6	0.12	1.6	新口面	研磨面	側面にごく微かな擦痕 孔末に小さな新口 かすかに割れり 小口割口に欠損
406	白玉	滑石	(明) 灰色	5	2.4-2.5	0.1	1.7	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕 孔末に小さな新口 やや割れり
407	白玉	滑石	(明) 灰色	5.3	2.1	0.1	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕 やや割れり 側面に鉄削付着
408	白玉	滑石	灰色	5.1	2.1	0.1	1.6	研磨面	新口面	側面にごく微かな擦痕 孔末に小さな新口 磨かずに割れり
409	白玉	滑石	(明) 灰色	5.2	2.1-2.3	0.09	1.6	研磨面	新口面	側面にごく微かな擦痕 孔末に小さな新口 磨かずに割れり 側面に小さな欠損があり、使用中の破損か?
410	白玉	滑石	灰色	4.6-4.8	2.2-2.4	0.08	1.9	研磨面	新口面	側面にごく微かな擦痕 孔末に小さな新口 やや割れり
411	白玉	滑石	灰色	5.1-5.2	2.5	0.12	1.6	研磨面	新口面	側面にごく微かな擦痕 孔末に小さな新口 やや割れり 小口割口に小さな欠損の新口
412	白玉	滑石	淡灰色	5.3-5.4	2.1-2.2	0.1	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕 孔末にごく小さな新口 磨かずに割れり
413	白玉	滑石	灰色	5.1-5.2	1.6-1.9	0.08	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕 孔末にごく小さな新口 磨かずに割れり
414	白玉	滑石	灰色	4.8	2.2-2.3	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕 孔末に小さな新口 磨かずに割れり 小口に1箇所磨き残しで鏡が鈍くなっている
415	白玉	滑石	(明) 灰色	5.1	1.9-2.0	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕 孔末にごく小さな新口 磨かずに割れり
416	白玉	滑石	灰色	4.1-4.2	3.5-4.1	0.08	1.9	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 全体丁寧に研磨されている 割れり
417	白玉	滑石	(明) 灰色	4.8-4.9	2	0.08	1.6	研磨面	研磨面	側面にごく微かな擦痕 孔末に小さな新口 磨かずに割れり 割口に1箇所滑れ状の欠損
418	白玉	滑石	(明) 灰色	5.1	2.1	0.1	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな擦痕 全体丁寧に研磨されている 磨かずに割れり

419	白玉	滑石	灰色	4.7	1.8~2.1	0.07	1.5	研磨面	新口面	側面にごく微かな控痕 孔末にごく小さな新口 僅かに割張り
420	白玉	滑石	灰色	5.1~5.2	2.0~2.3	0.1	1.7	研磨面	研磨面	側面にごく微かな控痕 孔末にごく小さな新口 僅かに割張り
421	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.9	2.1~2.2	0.09	1.6	研磨面	研磨面	全面平滑に磨かれている 僅かに割張り 孔末にごく小さな新口
422	白玉	滑石	灰色	5.0~5.1	2.2	0.1	1.7	研磨面	新口面	側面に僅かに控痕のこり全面平滑に磨かれている 僅かに割張り 両面穿孔
423	白玉	滑石	灰色	5.1~5.2	2.0~2.3	0.1	1.7	研磨面	研磨面	側面にごく微かな控痕 孔末にごく小さな新口 僅かに割張り
424	白玉	滑石	淡灰色	4.1	1.8~2.5	0.04	1.8	研磨面	新口面	側面にごく微かな控痕 やや割張り 胴部中央付近に強い控痕
425	白玉	滑石	灰色	4.7	1.2~1.4	0.05	1.5	研磨面	研磨面	側面にごく微かな控痕 やや割張り 孔末にごく細かい新口
426	白玉	滑石	灰白色	3.8~3.9	1.7~2.4	0.04	1.8	新口面	新口面	側面にごく微かな控痕 やや割張り 歪に整形されている やや多孔質
427	白玉	滑石	淡灰色	4.2~4.3	1.6~2.2	0.04	1.8	研磨面	新口面	側面に微かな控痕 孔末にごく小さな新口 胴部中央付近に控痕 胴部にやや大きな欠損
428	白玉	滑石	淡灰色	3.8~3.9	1.9~2.4	0.04	1.7	軽い研磨	新口面	側面にごく微かな控痕 やや割張り 胴部中央付近に本程度な控痕
429	白玉	滑石	灰白色	4	1.2~2.5	0.04	1.9	新口面	軽い研磨	側面にごく微かな控痕 やや割張り 側面縦割れ
430	白玉	滑石	灰白色	3.8	2.1~2.7	0.04	1.9	研磨面	新口面	側面に微かな控痕 やや割張り 胴部中央付近に強い控痕
431	白玉	滑石	(灰) 灰色	4.1~4.2	2.3~2.8	0.05	1.7	研磨面	新口面	側面に微かな控痕 胴部中央付近に控痕 胴部に1/10程度の欠損 孔末にやや大きな新口
432	白玉	滑石	(灰) 灰色	4.2	1.6~2.3	0.04	1.7	研磨面	新口面	側面にごく微かい控痕 新口面平滑ではなく是 胴部中央に強い控痕
433	白玉	滑石	(灰) 灰白色	3.8	1.7~2.5	0.04	1.8	研磨面	研磨面	側面にやや微かな控痕 やや割張り 胴部中央付近にごく強い控痕
434	小玉	ガラス	濃紺色	9以上	2.7~3.0	0.31	4.5			ロット法 巻き付けにより製作 ガラス中の気泡が横方向に基づいている 時半残存
435	白玉	滑石	灰白色	4.2	1.7~2.1	0.04	1.8	研磨面	研磨面	側面にごく微かい控痕 胴部中央付近に強い控痕
436	白玉	滑石	(灰) 灰色	4.2	1.3~1.5	0.03	1.8	新口面	新口面	側面にごく微かい控痕 胴部中央付近に強い控痕
437	白玉	滑石	(灰) 灰色	3.7	1.2~1.7	0.02	1.9	新口面	新口面	側面にごく微かい控痕 胴部中央付近に強い控痕 一部使用後の欠損あり
438	白玉	滑石	(灰) 灰色	4.2~4.3	1.3~1.8	0.04	1.8	新口面	新口面	側面にごく微かい控痕 胴部中央付近に強い控痕
439	白玉	滑石	灰白色	4.1~4.2	1.3~1.5	0.03	1.8	新口面	新口面	側面にごく微かい控痕 胴部中央付近に強い控痕
440	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.8	1.5~1.6	0.07	1.5	研磨面	新口面	控痕ほとんど認められず 孔末にごく細かい新口 石基は暗灰色と灰白色の塊状
441	白玉	滑石	灰白色	3.9~4.0	1.2~1.5	0.03	1.7	新口面	研磨面	側面にごく微かい控痕 胴部中央付近に強い控痕
442	白玉	滑石	灰白色	4.1	1.0~1.7	0.04	1.8	研磨面	新口面	側面にごく微かい控痕 胴部中央付近に強い控痕 孔末に新口
443	白玉	滑石	灰白色	3.8	1.9~2.7	0.05	1.8	新口面	研磨面	側面にごく微かい控痕 側面縦割れ 孔末に小さな新口
444	白玉	滑石	白灰色	3.9~4.0	1.4~1.8	0.04	1.8	研磨面	研磨面	側面にごく微かい控痕 胴部中央付近に強い控痕 小口部に小さな新口
445	白玉	滑石	(灰) 灰色	4.0~4.2	1.8~2.4	0.04	1.8	研磨面	新口面	側面にごく微かい控痕 胴部中央付近にごく強い控痕 縦割れ多い
446	白玉	滑石	(灰) 灰色	4.0~4.1	1.2~1.7	0.03	1.7	研磨面	研磨面	側面にごく微かい控痕 胴部中央付近に控痕
447	白玉	滑石	(灰) 灰色	3.8~3.9	2.0~2.3	0.05	1.8	研磨面	新口面	側面にごく微かい控痕 胴部中央付近に控痕 孔末に細かい新口
448	白玉	滑石	(灰) 灰色	4.1	0.7~1.3	0.02	1.7	新口面	新口面	側面にごく微かい控痕 胴部中央付近に控痕 孔末に細かい新口
449	白玉	滑石	(灰) 灰色	—	—	0.15	—	—	—	縦片多数
450	白玉	滑石	(焼) 灰色	4.9~5.0	2.5~2.7	0.11	1.7	研磨面	研磨面	全面平滑によく磨かれている 孔内縦割れ 孔末にごく細かい新口
451	白玉	滑石	(灰) 灰色	4.8~4.9	2.8~4.2	0.13	1.9	新口面	新口面	側面にごく微かい控痕 側面縦割れ 孔末に小さな新口
452	白玉	滑石	(灰) 灰色	5.3	1.8	0.09	1.5	研磨面	研磨面	側面に微かな控痕 僅かに割張り
453	白玉	滑石	(焼) 灰色	5.2	2.1	0.09	1.6	研磨面	研磨面	全面よく磨かれている 僅かに割張り 石基に淡灰色粒が混じる 孔末に小さな新口
454	小玉	ガラス	紺色	—	(2.7~3.8)	0.31	—	—	—	巻き付けによる製作 パラパラに縦割
455	白玉	滑石	灰色	4.9~5.5	1.9~2.1	0.08	1.6	新口面	研磨面	側面調整があまりなされていない 孔末に細かい新口
456	白玉	滑石	暗灰色	5.2	2.5	0.12	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな控痕 僅かに割張り
457	白玉	滑石	灰色	5.2	1.9~2.1	0.09	1.6	研磨面	研磨面	側面に微かな控痕 小口部に欠損 一部鉄粉付着

458	白玉	滑石	淡灰色	3.9	2.1~2.2	0.04	1.7	研磨面	新口面	側面に微かな隆起 胴部中央に隆起 孔末に細かい新口
459	白玉	滑石	淡灰色	3.9	2.1~2.3	0.03	1.7	新口面	新口面	側面に微かな隆起 小口開口に大きな新口が突き出されている
460	白玉	滑石	淡灰色	4.1	2.1~3.0	0.05	1.8	新口面	新口面	側面に微かな隆起 胴部中央に深い隆起 孔末に大きな新口
461	白玉	滑石	淡灰色	—	—	0.02	—	—	—	破断片
細孔の数の下										
462	白玉	滑石	(淡) 灰色	5.1	2.1~2.3	0.1	1.7	研磨面	研磨面	側面に微かな隆起 側面の一部に鉄粉付着 やや割張り
463	白玉	滑石	灰色	5.2	2.8~2.9	0.14	不明	不明	不明	側面に隆起 全面に鉄粉付着 やや割張り
464	白玉	滑石	灰色	4.9	0.7~1.6	3つで0.4	1.6	不明	不明	側面の一部に鉄粉付着 側面被削め
465	白玉	滑石	(暗) 灰色	5.2	2.7	3つで0.4	不明	不明	不明	側面に微かな隆起 側面の一部に鉄粉付着 やや割張り 石基に淡灰色粒が混じる
466	白玉	滑石	暗灰色	5.1	2.2	3つで0.4	1.7	不明	不明	側面に微かな隆起 側面の一部に鉄粉付着 やや割張り
467	白玉	滑石	灰色	5.1	2.1	4つで0.5	1.8	不明	不明	側面にごく微かな隆起 側面の一部に鉄粉・脱片付着 わずかに割張り
468	白玉	滑石	灰色	5.1	2	4つで0.5	不明	不明	不明	側面にごく微かな隆起 側面の一部に鉄粉・脱片付着 わずかに割張り
469	白玉	滑石	灰色	5.1	2.1	4つで0.5	不明	不明	不明	側面にごく微かな隆起 側面の一部に鉄粉・脱片付着 わずかに割張り
470	白玉	滑石	灰色	5.1	2.1	4つで0.5	1.7	不明	不明	側面にごく微かな隆起 側面の一部に鉄粉・脱片付着 わずかに割張り
471	白玉	滑石	(暗) 灰色	5.2~5.3	2.2~2.4	0.11	1.7	研磨面	研磨面	側面に微かな隆起 わずかに割張り
472	白玉	滑石	(暗) 灰色	5.0~5.1	2.2~2.3	0.11	1.6	研磨面	新口面	側面にごく微かな隆起
473	白玉	滑石	灰色	5	2.4	0.05	—	研磨面	研磨面	破片 側面に微かな隆起
474	白玉	滑石	灰色	—	—	—	—	—	—	破断片
475	白玉	滑石	淡灰白色	4.3	1.2~2.4	0.05	1.8	新口面	新口面	側面に微かな隆起 胴部中央付近に深い隆起 両面穿孔
476	白玉	滑石	灰色	4.0~4.1	1.8~2.1	0.04	1.7	研磨面	新口面	側面に微かな隆起 胴部中央付近に深い隆起 孔末に細かい新口
477	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.3	1.9~2.7	0.05	1.7	新口面	研磨面	側面に微かな隆起 やや割張り 孔末に小さな新口
478	白玉	滑石	淡灰白色	3.9~4.0	2.7~3.1	0.06	1.8	新口面	研磨面	側面に微かな隆起 やや割張り 孔末に小さな新口
479	白玉	滑石	淡灰色	4.0~4.1	1.4~2.2	0.03	1.9	新口面	新口面	側面に微かな隆起 胴部中央付近に深い隆起
480	白玉	滑石	淡灰色	3.9~4.0	1.5~2.1	0.03	1.8	研磨面	新口面	側面に微かな隆起 胴部中央付近に深い隆起 孔内凹陥
481	白玉	滑石	(淡) 灰色	3.9~4.0	(2.0~3.0)	0.05	1.8	(新口面)	新口面	側面にごく微かな隆起 やや割張り 両孔内小口は剥落か
482	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.2	1.6~1.7	0.04	1.8	新口面	新口面	側面に微かな隆起 胴部中央付近に深い隆起 孔末に新口
483	白玉	滑石	淡灰色	4.1~4.2	1.1~2.0	0.03	1.8	新口面	新口面	側面に微かな隆起 胴部中央付近に深い隆起 孔内凹陥
484	白玉	滑石	淡灰色	3.9~4.1	1.3~1.8	0.03	1.8	新口面	新口面	側面に微かな隆起 やや割張り 孔末に小さな新口 胴部に小さな新口
485	白玉	滑石	淡灰色	3.9~4.0	1.1~1.8	0.03	1.7	新口面	新口面	側面に微かな隆起 やや割張り 胴部中央付近に深く深い隆起
486	白玉	滑石	淡灰色	4.2	(1.3)	(0.02)	1.7	新口面	不明	側面に微かな隆起
487	白玉	滑石	淡灰白色	3.9	1.8~1.9	0.04	1.9	新口面	新口面	側面にごく微かな隆起 やや割張り 孔内凹陥
488	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.1	1.2~1.8	0.04	1.8	新口面	新口面	側面にごく微かな隆起 やや割張り 胴部中央付近に深く深い隆起 成形時に割断になりきっておらずやや歪な平面系
489	白玉	滑石	(淡) 灰色			(0.01)				小破片
490	白玉	滑石	淡灰色			(0.03)				小破片
集中部確認?										
491	白玉	滑石	(淡) 灰色	3.8	1.6~2.0	0.03	1.7	研磨面	新口面	側面に微かな隆起 割張り 胴部中央付近に深く深い隆起 孔末に極小新口
492	白玉	滑石	(淡) 灰色			(0.04)				破片
493										破断小破片
494	白玉	滑石	淡灰白色	3.8~3.9	2.4~2.9	0.05	1.9	研磨面	新口面	側面に微かな隆起 割張り 孔内凹陥 側面部分新口
495	白玉	滑石	淡灰色	4.0~4.2	1.7~2.7	0.04	1.9	研磨面	新口面	側面に微かな隆起 割張り 孔内凹陥
496	白玉	滑石	淡灰色	4.0	1.6~2.3	0.04	1.7	軽い研磨	新口面	側面に微かな隆起 やや割張り 孔内凹陥
497	白玉	滑石	(淡) 灰色	3.8~4.2	1.4~2.3	0.03	1.8	新口面	研磨面	側面に微かな隆起 割張り 孔内凹陥 両口部に新口 側面に亀裂状の欠損

498	白玉	滑石	(淡) 灰色	3.9	不明	(0.02)	1.7	研磨面	不明	側面に微かな摺痕 孔内回転痕 大きく破損
499	白玉	滑石	(淡) 灰色	3.9	1.4~1.7	0.03	1.5	開口面	軽い研磨	側面に微かな摺痕 側部中央付近に微い線傷 孔内回転痕
500	白玉	滑石	(淡) 灰色	4.1	1.3~2.0	(0.02)	1.7	開口面	研磨面	側面に微かな摺痕 側部中央付近に微い線傷 孔内回転痕
501	白玉	滑石	(淡) 灰色			(0.07)				小破片

3号墳第2主体部

番号	玉種	材質	色調	径 mm	長 mm	質量 g	孔径 mm	穿孔面	孔表面	備考
1	小玉	ガラス	半透明暗青色	5.6~6.3	4.3~4.7	0.24	1.2~2.8			両小口面研磨 気泡長軸方向に引き伸ばされる 白色の異物少 白色の異物多し 打痕あり
2	小玉	ガラス	燐硝色	5.9~6.2	4.8~5.0	0.24	2			両小口面研磨 気泡長軸方向に引き伸ばされる 石英様の異物多し
3	小玉	ガラス	半透明暗青色	5.5~5.7	3.5~4.0	0.16	1.6~2.2			両小口面研磨 気泡長軸方向に引き伸ばされる 白色の異物多し 打痕あり
4	小玉	ガラス	半透明暗青色	5.7~6.3	4.2~4.4	0.24	2.0~2.6			両小口面研磨 気泡長軸方向に引き伸ばされる 白色の異物多し
5	小玉	ガラス	半透明暗青色	5.5~5.7	4.0~4.5	0.3	1.6			全面研磨 磨りガラスに仕上げられている
6	小玉	ガラス	燐硝色	5.3~5.9	4.3~4.7	0.2	1.9~2.1			両小口面研磨 気泡長軸方向に引き伸ばされる 白色の異物多し 打痕あり
7	小玉	ガラス	半透明暗青色	5.2~6.1	5.2~5.6	0.28	1.8~2.0			両小口面研磨 気泡長軸方向に引き伸ばされる 白色の異物多し
8	小玉	ガラス	燐硝色	6.0~6.4	3.2~3.9	0.17	2.2~2.5			両小口面研磨 気泡長軸方向に引き伸ばされる 白色の異物多し 亀裂多い
9	小玉	ガラス	燐硝色	5.6~5.8	5.1~5.3	0.21	2.5~2.6			両小口無加工 3段階の巻を付けによる製作 白色の異物少 孔内凹凸あり
10	小玉	ガラス	燐硝色	7.0~7.4	4.3~4.8	0.33	2.4~3.0			両小口面研磨 気泡長軸方向に引き伸ばされる 白色の異物多し
11	小玉	ガラス	燐硝色	7.3~7.5	3.0~4.3	0.25	1.6~2.5			片小口面研磨 巻を付けにより製作 白色の異物多 巻玉状 孔両面を大小
12	小玉	ガラス	半透明暗青色	5.8~6.3	3.7~4.8	0.21	2.3~2.9			両小口面研磨 気泡長軸方向に引き伸ばされる 白色の異物多し
13	小玉	ガラス	燐硝色	5.4~5.9	3.5~3.8	0.19	1.7~2.2			両小口面研磨 気泡長軸方向に引き伸ばされる 白色の異物多し
14	小玉	ガラス	燐硝色	5.8~6.1	3.6~3.9	0.18	1.4~2.1			両小口面研磨 気泡長軸方向に引き伸ばされる 白色の石英様の異物多し
15	小玉	ガラス	燐硝色	5.4~5.8	3.4~3.7	0.15	1.8~2.8			両小口面研磨 気泡長軸方向に引き伸ばされる 白色の異物少

4号墳主体部

番号	玉種	材質	色調	径 mm	長 mm	質量 g	孔径 mm	穿孔面	孔表面	備考
1	碧玉	碧玉	純白色地に鮮緑色が薄かに混じる	2.37	8.8	4.5	3.0~3.8			良質の碧玉製 丁寧に磨出しされている
2	小玉	ガラス	燐硝色	5.6~6.1	3.1~3.2	0.15	1.9			小口磨き 玉身に亀裂がある
3	小玉	ガラス	燐硝色	5.5~5.7	2.6~2.9	0.14	1.7~2.1			小口磨き
4	小玉	ガラス	燐硝色	4.3~4.7	3	0.1	1.5~2.0			小口磨き 白色の石英様の異物多し
5	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.8~3.0	2.5~2.7	0.03	1.3			小口磨き
6	小玉	ガラス	燐硝色	4.6~4.8	2.5~3.1	0.1	1.6~1.9			小口磨き
7	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.4~2.8	1.2	0.01	1			小口磨き
8	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.7~3.0	1.3	0.01	0.9~1.1			小口磨き
9	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.1~3.8	1.2	0.01	0.9~1.6			
10	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.0~3.4	1.5	0.01	1.1~1.6			小口磨き
11	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3	1.3~2.0	0.01	1.2			小口磨き
12	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.5~2.6	1.1~1.3	0.01	1			小口磨き
13	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.1~3.6	1.4~2.0	0.02	1.1~1.5			小口磨き
14	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.9	1.8	0.02	1.2~1.4			小口磨き
15	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.7	1.4~1.7	0.01	0.8~1.1			小口磨き
16	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.0~3.2	1.6	0.02	1.1~1.3			小口磨き
17	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.8~3.1	1.1	0.01	0.9~1.4			小口磨き
18	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.7~3.0	2.1~2.3	0.02	1.2			小口磨き
19	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.0~3.2	1.3	0.02	1.4			小口磨き
20	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.7	1.9~2.1	0.02	0.9~1.1			小口磨き

21	—	—	—	—	—	—	—			
22	小玉	ガラス	硝硝色	5.8~6.4	4.9~5.1	0.26	1.8~2.2		小口磨き 全体に打痕・輝	
23	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.5~2.7	1.5~1.7	0.02	1		小口磨き	
24	小玉	ガラス	硝硝色	4.9~5.3	3.2~3.4	0.13	2		小口磨き	
25	小玉	ガラス	硝硝色	5.0~5.5	4.2~5.1	0.18	1.7~2.2		小口磨き	
26	小玉	ガラス	硝硝色	5.5~5.8	4.3~4.6	0.21	1.6~2.2		小口磨き 全体に打痕・輝	
27	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.6~2.7	1.5~1.7	0.02	1.1		小口磨き	
28	小玉	ガラス	硝硝色	6.4~6.8	3.2~3.4	0.22	1.8~2.2		小口磨き	
29	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.6~2.8	0.6~1.3	0.01	0.9		小口磨き	
30	小玉	ガラス	硝硝色	5.4~5.8	3.1~3.5	0.16	1.5~2.0		小口磨き	
31	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.1~3.5	1.5~1.7	0.02	1.3		小口磨き	
32	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.9	1.4~1.6	0.02	1.2		小口磨き	
33	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.8~3.2	1.3~1.8	0.02	1.2~1.5		小口磨き	
34	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.0~3.1	1.9~2.0	0.03	0.9		小口磨き	
35	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.1	1.3~1.4	0.01	1.6			
36	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.7~3.0	2	0.02	1.2~1.5		小口磨き	
37	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.0~3.1	1.5~2.1	0.02	1.5		小口磨き	
38	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.0~3.1	2.1~2.3	0.03	1.0~1.2		小口磨き	
39	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.8~3.0	1.9~2.2	0.02	1.0~1.2		小口磨き	
40	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.7~2.8	1.8~2.0	0.02	1.2		小口磨き	
41	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.0	1.4~1.7	0.02	1.5		小口磨き	
42	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.7~3.0	1.7	0.02	1.2~1.5		小口磨き	
43	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.7~3.0	2.4~2.7	0.02	1.1		小口磨き	
44	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.4~2.6	1.6~1.7	0.01	1.0~1.3		小口磨き	
45	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.3~2.4	1.2~1.3	0.01	1		小口片面研磨・片面熟処理	
46	白玉	滑石	淡灰色	3.8	2.6~3.0	0.06	1.4	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き
47	白玉	滑石	淡灰色	4.2~4.3	2.2~3.0	0.06	2	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き 胴部中央付近に弱い粒痕
48	白玉	滑石	淡灰色	4.2~4.3	2.0~2.9	0.06	2	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き
49	白玉	滑石	淡灰色	4.4~4.6	2.4~2.9	0.08	1.8	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き 孔大きく粒痕
50	白玉	滑石	淡灰色	4.1	2.1~2.8	0.06	1.5	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き 胴部中央付近に弱い粒痕
51	白玉	滑石	淡灰色	4.3	2.1~2.8	0.05	1.7	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き
52	白玉	滑石	淡灰(青)色	4.3	3.5~4.0	0.09	1.9	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き 底かに割痕あり
53	白玉	滑石	(淡)灰色	4.1	1.5~2.4	0.05	1.7	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き
54	白玉	滑石	(淡)灰色	4.3~4.4	2.1~3.3	0.07	2	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き 底かに割痕あり
55	白玉	滑石	(淡)灰色	4.1	2.1~2.8	0.06	1.7	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き 胴部中央付近に弱い粒痕
56	白玉	滑石	(淡)灰色	4.1	2.5~2.8	0.06	1.6	軽い研ぎ	軽い研ぎ	側面に麻線かゝり磨き 胴部中央付近に弱い粒痕
57	白玉	滑石	灰色	4.1	2.6~3.0	0.06	1.7	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き 側面に鉄線付着
58	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.3	1.8~2.6	0.05	2	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き
59	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.7~4.8	2.3~2.5	0.08	2	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き 胴部中央付近に弱い粒痕
60	白玉	滑石	(淡)灰色	4.1	2.8~3.2	0.07	1.9	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き 胴部中央付近に弱い粒痕
61	白玉	滑石	(淡)灰色	4.2~4.3	3.0~3.2	0.08	1.9	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き 胴部中央付近に弱い粒痕
62	白玉	滑石	灰色	3.9~4.0	1.5~2.0	0.04	1.7	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き
63	白玉	滑石	(淡)灰色	4.0~4.1	1.4~2.3	0.04	1.7	軽い研ぎ	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き
64	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.2~4.3	2.1~2.9	0.06	1.9	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き
65	白玉	滑石	灰色	3.8~4.0	2.4~2.9	0.06	1.5	軽い研ぎ	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き
66	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.5	2.4~2.5	0.07	1.9	軽い研ぎ	軽い研ぎ	側面に麻線かゝり磨き 胴部中央付近に弱い粒痕
67	白玉	滑石	淡灰色	4.4~4.5	1.7~2.5	0.06	1.9	研ぎ面	研ぎ面	側面に麻線かゝり磨き 胴部中央付近に弱い粒痕

68	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.2~4.3	1.4~1.9	0.04	1.9	軽い研磨	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕
69	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.2~4.3	2.5~3.2	0.08	1.9	新口面	新口面	側面に縁線かい摺痕
70	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.3	2.9~3.6	0.09	1.8	軽い研磨	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕
71	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.2~4.3	1.5~2.0	0.04	1.8	軽い研磨	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕 割部中央付近に深い縁線
72	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.5~4.6	1.6~2.2	0.05	2	研磨面	新口面	側面に縁線かい摺痕
73	白玉	滑石	灰色	4.0~4.1	1.9~2.7	0.06	1.4	新口面	新口面	側面に縁線かい摺痕
74	小玉	ガラス	暗褐色	5.7~6.4	2.9~3.3	0.16	2.4~3.0			小口磨き
75	小玉	ガラス	暗褐色	4.6~5.8	4.1~4.4	0.17	2.2			小口磨き
76	小玉	ガラス	暗褐色	5.1~5.3	3.4~3.7	0.15	1.8~2.1			小口磨き
77	小玉	ガラス	暗褐色	5.1~5.5	5.1~5.8	0.23	2.0~2.3			小口磨き
78	小玉	ガラス	暗褐色	5.6~5.8	4.7~5.4	0.24	1.9			小口磨き
79	小玉	ガラス	暗褐色	5.2~5.5	3.9~4.0	0.16	1.4			小口磨き
80	小玉	ガラス	暗褐色	5.3~5.6	3.4~4.5	0.17	1.5~2.1			小口磨き
81	小玉	ガラス	暗褐色	5.0~5.4	3.4~3.8	0.13	2.2~2.4			小口磨き
82	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.5~2.6	1.5~1.8	0.02	1.2			小口磨き
83	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.0	1.7	0.02	1.2			小口磨き
84	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.2	1.2	0.02	1.3			小口片磨のみ磨き
85	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.1~3.2	1.4~1.5	0.02	1.3			小口片磨のみ磨き
86	—	—	—	—	—	—	—			
87	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.9	2.4~2.5	0.03	1.2			小口磨き
88	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.8~2.9	1.3~1.5	0.02	1.0~1.2			小口磨き
89	白玉	滑石	淡灰色	4.1~4.2	1.8~2.0	0.05	1.5	新口面	新口面	側面に縁線かい摺痕
90	白玉	滑石	(淡)灰色	4.2~4.4	3.6~3.8	0.1	2	研磨面	研磨面	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線
91	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.3	1.9~2.1	0.05	1.9	研磨面	研磨面	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線
92	白玉	滑石	(淡)灰色	4.1~4.2	2.5~3.0	0.06	1.6	研磨面	新口面	側面に縁線かい摺痕
93	白玉	滑石	(淡)灰色	4	3.0~3.5	0.07	1.9	新口面	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線
94	白玉	滑石	(淡)灰色	4.2~4.3	2.7~3.1	0.07	2	軽い研磨	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕
95	白玉	滑石	(淡)灰色	4	2.8~3.0	0.06	2	軽い研磨	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕
96	白玉	滑石	(淡)灰色	4.1~4.3	1.6~1.7	0.04	1.9	軽い研磨	新口面	側面に縁線かい摺痕
97	白玉	滑石	(淡)灰色	4.0~4.2	2.0~2.6	0.06	1.7	新口面	新口面	側面に縁線かい摺痕
98	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.5~4.6	2.8~3.2	0.08	1.8	軽い研磨	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線
99	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.5~4.7	2.7~3.3	0.08	2	軽い研磨	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線
100	白玉	滑石	淡灰(白)色	4	2.0~3.0	0.06	1.6	研磨面	新口面	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線
101	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.6~4.8	2.5~3.1	0.08	1.7	軽い研磨	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線
102	白玉	滑石	(淡)灰色	4.6~4.8	2.5~3.1	0.08	1.9	新口面	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線
103	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.4~4.5	2.3~3.3	0.07	1.8	軽い研磨	新口面	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線 磨き跡多い 唇口に小さな欠陥
104	白玉	滑石	淡灰白色	4.1~4.4	2.4~3.2	0.07	2	軽い研磨	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線
105	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.3	2.1~2.8	0.05	2.2	軽い研磨	新口面	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線 石基に白い部分と黒点母の多い所あり
106	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.3	3.2~3.9	0.09	2	軽い研磨	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線
107	白玉	滑石	淡灰白色	4.2~4.4	1.3~2.2	0.05	1.9	軽い研磨	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕 やや割部らふ
108	白玉	滑石	(淡)灰色	4.6~4.7	2.3~3.0	0.07	2.1	軽い研磨	新口面	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線
109	白玉	滑石	(淡)灰色	4.0~4.1	2.1~2.6	0.05	1.6	新口面	新口面	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線
110	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.5	1.8~2.7	0.07	1.9	軽い研磨	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線 孔末に大きな新口
111	白玉	滑石	(淡)灰色	4.6~4.8	2.6~2.9	0.08	2	研磨面	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線
112	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.1~4.2	2.5~2.7	0.06	1.8	軽い研磨	軽い研磨	側面に縁線かい摺痕 中央付近に深い縁線
113	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.0~4.1	3.1	0.06	1.2			小口磨き 孔のフタ取り
114	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.7~3.8	1.7~1.8	0.04	1.1~1.4			小口磨き
115	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.7	1.5~1.7	0.02	1			小口軽く磨き

116	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.2	2.1~2.3	0.04	1			小口磨き	
117	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.3~3.5	1.8~2.2	0.03	1.4~1.8			小口片面磨き	
118	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.2~3.5	1.6~2.0	0.03	1.1~1.3			小口磨き	
119	—	—	—	—	—	—	—				
120	碧玉	碧玉	濃緑色	6.2	18	1.07	3.4	3.0		少し白っぽい石基が埋戻しに入る両面穿孔	
121	碧玉	碧玉	(旧) 緑色	6.1~6.2	12.5~12.8	0.71	3.7	3.1		ほとんど片側からあけられている両面穿孔	
標位置から産出した玉・土流しによって検出された玉											
122	白玉	滑石	(旧) 灰色	4.2~4.3	2.6~3.2	0.08	1.7		新口面	新口面	やや割張り
123	白玉	滑石	(旧) 灰色	3.9~4.0	2.3~2.8	0.06	1.6		新口面	新口面	やや割張り
124	白玉	滑石	淡灰色	4.4~4.5	3.0~3.6	0.09	2		新口面	新口面	やや割張り
125	白玉	滑石	淡灰色	4.3	2.7~3.3	0.08	1.9		新口面	新口面	やや割張り
126	白玉	滑石	淡灰色	4.2~4.3	2.4~3.2	0.06	2.2		新口面	新口面	やや割張り
127	白玉	滑石	灰色	4.1~4.2	1.5~2.5	0.05	1.6		新口面	新口面	やや割張り
128	白玉	滑石	淡灰色	4.4~4.5	2.4~2.6	0.07	1.9		新口面	新口面	やや割張り
129	白玉	滑石	(旧) 灰色	4.0~4.2	2.6~2.7	0.06	2		新口面	新口面	やや割張り
130	白玉	滑石	灰白色	4.3~4.4	2.0~2.6	0.05	2		新口面	新口面	やや割張り
131	白玉	滑石	灰白色						新口面	新口面	小破片
132	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.6~2.9	2.2~2.3	0.01	1.0~1.2				両小口研磨
133	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.2~3.4	1.6	0.01	1.2				両小口研磨
134	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.5	1.7	0.01	0.9~1.0				両小口研磨
135	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.6~2.8	1.7~1.8	0.01	1.0~1.8				両小口研磨
136	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.1	1.5~1.8	0.01	1.2~1.3				両小口研磨
137	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.3	1.4~1.5	0.01	1.1				両小口研磨
138	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.2~2.7	2.1~2.3	0.01	0.9~1.4				両小口研磨
139	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.7	1.6~1.7	0.01	1.1				両小口研磨
140	白玉	滑石	(旧) 灰色	4.6~4.7	2.4~2.8	0.08	2.1		軽い研磨	軽い研磨	乳内研削面 胴部中央付近に種縁 小口開口に開口 使用中の破損か? 側面に擦痕 石材に僅かの透光性
141	白玉	滑石	(旧) 灰色	4.5	2.5~3.2	0.08	2		軽い研磨	打削面	乳内研削面 胴部中央付近に種縁 側面に擦痕と鉄線付着 石材に僅かの透光性
142	白玉	滑石	(旧) 灰色	4.1~4.2	2.3~2.6	0.05	1.9		研磨面	打削面	乳内研削面 胴部中央付近に強い種縁 側面に擦痕 石材に僅かの透光性
143	白玉	滑石	淡灰色	4.4~4.5	1.9~2.5	0.06	2.2		研磨面	研磨面	乳内研削面 胴部中央付近に種縁 側面に擦痕 石材に僅かの透光性
144	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.8	4.3~4.5	0.07	2		研磨面	軽い研磨	乳内研削面 割け直しの孔状跡 石材に僅かの透光性
145	白玉	滑石	淡灰色	4.1~4.2	3.1~4.1	0.08	2		軽い研磨	軽い研磨	乳内研削面 側面に細かい擦痕 石材に僅かの透光性
146	白玉	滑石	淡灰色	3.8	2.3~2.7	0.06	1.5		打削面	軽い研磨	乳内研削面 やや割張り 側面に種縁に近い擦痕 石材に僅かの透光性
147	白玉	滑石	(旧) 灰色	4.2	2.9~4.1	0.08	2.1		軽い研磨	軽い研磨	乳内研削面 胴部中央付近に強い種縁 側面に擦痕
148	白玉	滑石	(旧) 灰色	4.3	2.4~2.6	0.07	1.5		打削面	打削面	乳内研削面 胴部中央付近に強い種縁 側面に擦痕 石材に僅かの透光性
149	白玉	滑石	淡灰色	4.3~4.5	2.5~3.3	0.08	1.9		軽い研磨	軽い研磨	乳内研削面 胴部中央付近に強い種縁 側面に擦痕 石材に僅かの透光性
150	白玉	滑石	淡灰色	4.5	2.9~3.7	0.1	2		研磨面	打削面	乳内研削面 やや割張り 側面に細かい擦痕 石材に僅かの透光性
151	白玉	滑石	淡灰色	4.2~4.4	2.4~2.7	0.06	1.9		研磨面	軽い研磨	乳内研削面 やや割張り 側面に強い擦痕
152	白玉	滑石	(旧) 灰色	4.4~4.5	1.8~2.7	0.06	2		軽い研磨	打削面	胴部中央付近に強い種縁 側面に強い擦痕
153	白玉	滑石	(旧) 灰色	4.4	1.8~2.8	0.06	2		軽い研磨	打削面	やや割張り 側面に強い擦痕
154	白玉	滑石	(旧) 灰色	4.2~4.3	2.7~2.9	0.07	2.1		軽い研磨	軽い研磨	やや割張り 側面に擦痕
155	白玉	滑石	淡灰色	4.4~4.5	1.4~2.0	0.05	1.9		軽い研磨	側面に擦痕	側面に擦痕
156	白玉	滑石	(旧) 灰色	3.9~4.0	2.1~2.7	0.06	1.7		軽い研磨	軽い研磨	乳内研削面 側面に種縁に近い擦痕 全体に散出し 孔末に大きな新口 側面の一部に鉄線付着
157	白玉	滑石	(旧) 灰色	4.1	2.9~3.2	0.08	1.6		打削面	打削面	乳内研削面 側面に細かい擦痕
158	白玉	滑石	淡灰(白)色	4.3~4.4	1.2~1.9	0.04	2		軽い研磨	打削面	乳内研削面 側面に種縁に近い擦痕 石材に僅かの透光性
159	白玉	滑石	(旧) 灰色	4.4	2.8~4.0	0.09	2		軽い研磨	打削面	乳内研削面 側面に種縁に近い擦痕 僅かに割張り 石材に僅かの透光性

160	白玉	濃石	(淡) 灰色	4.4~4.5	1.8~2.8	0.06	1.9	打割面	打割面	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り 石材に僅かの透光性
161	白玉	濃石	(明) 灰色	4.1	1.5~2.4	0.04	1.6	打割面	打割面	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り
162	白玉	濃石	(明) 灰色	4.2~4.3	2.7~3.2	0.07	1.6	軽い研磨	打割面	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り
163	白玉	濃石	(明) 灰色	4.3	2.2~2.9	0.06	2	軽い研磨	打割面	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り 石材に僅かの透光性
164	白玉	濃石	淡灰(白)色	4.3~4.5	2.1~2.9	0.06	2	軽い研磨	軽い研磨	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り 石材に僅かの透光性
165	白玉	濃石	淡灰(白)色	4.1~4.4	2.5~2.9	0.07	2	軽い研磨	打割面	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り 石材に僅かの透光性
166	白玉	濃石	(淡) 灰色	4	2.7~3.2	0.07	1.7	軽い研磨	軽い研磨	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り 孔本側からも短く穿孔 一部に鉄錆付着
167	白玉	濃石	淡灰(白)色	4.3~4.5	1.0~1.9	0.04	1.9	軽い研磨	軽い研磨	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り 石材に僅かの透光性
168	白玉	濃石	淡灰(白)色	4.5~4.6	1.6~1.9	0.05	2	打割面	軽い研磨	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り 石材に僅かの透光性
169	白玉	濃石	茶灰色	4.3	2.2~3.0	0.07	2.2	軽い研磨	打割面	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り 全体が鉄錆で茶灰色に染色 一部に鉄錆付着
170	白玉	濃石	(明) 灰色	4.2~4.3	2.3~2.8	0.06	1.9	軽い研磨	打割面	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り 石材に僅かの透光性
171	白玉	濃石	(明) 灰色	4.4~4.5	2.9~3.5	0.09	2	軽い研磨	軽い研磨	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り 石材に僅かの透光性
172	白玉	濃石	灰色	4	1.0~1.2	0.02	1.5	軽い研磨	打割面	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕
173	白玉	濃石	灰白色	4.2	1.8~2.0	0.04	1.7	軽い研磨	打割面	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕
174	白玉	濃石	淡灰色	4.5	2.0~2.5	0.06	2.2	軽い研磨	軽い研磨	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り 石材に僅かの透光性
175	白玉	濃石	灰白色	4.3	2.0~3.3	0.06	2.2	軽い研磨	打割面	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り 石材に僅かの透光性
176	白玉	濃石	灰色	3.9	1.9~2.8	0.05	1.6	軽い研磨	打割面	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 石基に濃淡の色斑
177	白玉	濃石	(明) 灰色	4.2	2.4~3.0	0.07	1.7	軽い研磨	軽い研磨	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り
178	白玉	濃石	(明) 灰色	4.2	1.8~2.8	0.05	1.7	軽い研磨	軽い研磨	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り 孔末に小口口までの大きな新口
179	白玉	濃石	(明) 灰色	4.0~4.1	1.2~1.7	0.04	1.7	軽い研磨	打割面	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 僅かに削痕有り
180	白玉	濃石	淡灰色	4.5~4.6	2.5~3.3	0.08	2.1	軽い研磨	打割面	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 側部中央付近に強い線痕
181	白玉	濃石	(淡) 灰色	4.5~4.6	2.6~2.8	0.08	2	軽い研磨	軽い研磨	孔内凹削面 側面に麻線かい磨痕 側部中央付近に強い線痕
182	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.5~2.8	2.0~2.1	0.02	1.2		両小口研磨	
183	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.5~2.8	1.4~1.6	0.02	1.0~1.5		両小口研磨	
184	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.2~2.5	1.4~1.7	0.02	1.1		両小口研磨	
185	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.0~3.1	1.7~2.1	0.03	1.1		両小口研磨	
186	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.0	2	0.03	1.5		両小口研磨	
187	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.4~3.5	3.0~3.1	0.06	1.3		両小口研磨	
188	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.8~2.9	2.0~2.1	0.03	1.2		両小口研磨	
189	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.7~2.9	0.8~1.1	0.01	1.2~1.4		両小口研磨	
190	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.6~3.2	0.7~1.4	0.01	0.9~1.2		両小口研磨	歪に割れたまま加熱仕上げ
191	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.5~2.7	1.8~1.9	0.02	1.2		両小口研磨	
192	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.7	1.3~1.5	0.02	1.5		両小口研磨	
193	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.0	1.5	0.02	1.2		両小口研磨	
194	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.6~2.8	2.3~2.5	0.03	1.2		両小口研磨	
195	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.7~3.0	1.8~1.9	0.02	1.3~1.5		両小口研磨	
196	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.3	1.4~1.6	0.02	1.3~1.6		両小口研磨	
197	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.4~2.5	0.9	0.01	1.1~1.2		両小口研磨	
198	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.0	1.9~2.2	0.03	1.3		両小口研磨	
199	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.3	1.2~1.5	0.01	1.1		両小口研磨	
200	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.5	1.2~1.8	0.01	1		両小口研磨	
201	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	3.3~3.5	1.9~2.1	0.03	1.3~1.4		小口研磨	一面は加熱仕上げ?
202	ムティヤラ	ガラス	暗赤褐色	2.9	1.2	0.02	1.1		両小口研磨	

203	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.2	0.9~1.3	0.01	1.3			加熱仕上げ
204	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.1	3.3	0.05	1.5			両小口研磨 断面に亀裂があるがそのまま加熱仕上げ
205	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.0~3.1	1.6~1.8	0.02	1.1~1.2			両小口研磨
206	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.2	1.7~2.3	0.02	1.4			両小口研磨
207	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.2~3.3	2.5	0.04	1.2			両小口研磨
208	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.2	2.2~2.5	0.04	1.1~1.3			両小口研磨
209	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.0	1.2~2.2	0.02	1.3~1.4			片小口研磨 一面は斜めに割れたままの加熱仕上げ
210	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.6	1.3~1.6	0.02	1.1~1.2			両小口研磨
211	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.1~3.2	2.1~2.5	0.04	1.1			両小口研磨
212	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.8~2.9	1.6~1.8	0.02	1.4~1.5			両小口研磨
213	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7~2.9	2.0~3.3	0.03	1.1~1.2			両小口研磨
214	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.5~2.6	2.1~2.2	0.02	1.1~1.2			両小口研磨 小口開口に素材管切断時の小破口
215	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.8~3.1	1.5~1.6	0.02	0.9~1.2			両小口研磨
216	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.6~2.8	2.0~2.1	0.02	1.1~1.2			両小口研磨
217	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.6~2.7	2.5~2.8	0.03	1			両小口研磨
218	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7~2.8	1.3~1.4	0.02	0.9~1.1			両小口研磨
219	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.6~3.1	1.4~1.8	0.02	1.1~1.5			小口研磨 一面は加熱仕上げか？
220	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.8~3.0	1.7~2.1	0.03	1.3~1.4			両小口加熱仕上げか？
221	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7~2.8	1.4~1.7	0.02	1.3~1.4			両小口研磨
222	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.0~3.1	1.3~1.4	0.02	1.1~1.2			両小口研磨
223	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.1	1.7~1.8	0.02	1.2~1.3			小口研磨 一面は加熱仕上げか？
224	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.0	0.7~0.9	0.01	1.1~1.3			両小口加熱仕上げ
225	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.0~3.3	1.5~1.7	0.02	1.1			両小口研磨
226	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.8~2.9	1.9~2.0	0.02	1.1~1.3			両小口研磨
227	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.2~2.7	1.2~1.4	0.01	1			両小口研磨
228	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.8~3.0	1.5~1.6	0.02	1.1			両小口研磨
229	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.5~2.8	1.4	0.02	1.2			両小口研磨
230	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7~2.8	2.0~2.2	0.03	1.2~1.4			両小口研磨
231	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.8~3.0	1.7~1.8	0.02	1.0~1.1			両小口研磨
232	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7~2.8	1.8~1.9	0.02	1.2			両小口研磨
233	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.5~3.2	2.2~2.5	0.03	0.9~1.5			両小口研磨
234	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.1	1.3~1.5	0.02	1.0~1.2			両小口研磨
235	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.4~3.6	1.5	0.03	1.5			両小口研磨
236	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.6~2.8	0.9	0.01	1.0~1.2			両小口研磨
237	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.1	0.8~1.2	0.01	1.1~1.2			両小口研磨
238	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.2~3.5	1.7~2.3	0.03	1.5			両小口加熱処理か？
239	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.0	1.4~1.7	0.02	1.4~1.7			両小口研磨
240	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.5	1.3~1.8	0.02	1.3~1.5			両小口研磨
241	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.3~3.4	1.3~1.5	0.02	1.2~1.6			両小口研磨
242	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.3~3.5	1.8~2.1	0.04	1.2~1.3			両小口研磨
243	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.4	1.0~1.4	0.01	1.0~1.1			両小口研磨
244	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.9~3.0	1.6~1.8	0.02	1.2~1.3			両小口加熱処理か？
245	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.4~2.7	1.9	0.02	1.1~1.2			小口研磨 片面のみ
246	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.1~3.3	1.6~1.7	0.02	1.4			小口研磨 片面のみか？
247	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7~2.9	1.4~1.9	0.02	1.3~1.4			両小口研磨
248	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7~3.0	1.6~1.7	0.02	1.0~1.3			両小口研磨
249	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7~2.9	1.6~1.8	0.02	1.2			両小口研磨
250	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7~2.9	1.5	0.02	1			両小口研磨

251	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.8~2.9	2.4~2.5	0.03	1.3~1.4		両小口研磨 一部開口の磨き残し
252	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.8~2.9	2.1~2.5	0.03	1.3		両小口研磨
253	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.6	1.6~1.7	0.02	1		両小口研磨
254	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.8	2	0.02	1.2~1.3		両小口研磨 側面に泡切れの窪み
255	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.6~2.8	1.3	0.01	1.1~1.2		両小口研磨
256	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.7~2.8	1.9~2.0	0.02	1.2		両小口研磨
257	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.5~2.8	1.5	0.02	1.1		両小口研磨
258	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.8~3.3	1.4~1.8	0.02	1.1~1.4		両小口研磨
259	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.5~2.9	1.4~1.6	0.01	1.1~1.2		両小口研磨
260	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.5~2.8	1.0~1.4	0.01	1.2~1.3		両小口研磨
261	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.7~2.8	1.4~1.7	0.01	1.1~1.3		両小口研磨
262	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.7~2.9	1.7~2.2	0.02	1		両小口研磨
263	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.7~2.9	1.5~1.8	0.02	1.1		両小口研磨
264	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.7~2.8	1.6~2.1	0.02	1.3~1.5		小口研磨 一面は加熱処理のまま
265	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	3.0~3.1	1.5~1.8	0.02	1.1~1.2		両小口研磨
266	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.8~3.3	1.5~1.8	0.02	0.8~1.0		小口研磨 一面は加熱処理のまま
267	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.9~3.0	1.1~1.5	0.02	1.2~1.4		両小口研磨 小口面斜めに磨ける
268	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.7~2.9	1.3~2.1	0.02	0.9~1.0		両小口研磨 小口面斜めに磨ける
269	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.7~3.2	0.9~1.1	0.01	1.0~1.3		両小口研磨
270	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.9~3.2	2.1~2.3	0.03	1.1~1.3		両小口研磨
271	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.6~2.8	1.8~2.0	0.02	1.2~1.5		両小口研磨
272	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.8~2.9	1.5~1.7	0.02	1.2~1.4		両小口研磨
273	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.8	1.3~1.5	0.02	1.0~1.1		両小口研磨
274	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.9~3.2	1.1~1.6	0.02	1.0~1.3		両小口研磨 ガラス瓶内に大きな気泡
275	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.4 ~3.2	1.7~1.9	0.02	1.2~1.3		両小口研磨 縁部に大きな欠損
276	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.8	1.5~1.7	0.02	1.1		両小口研磨
277	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.5~2.9	1.5~1.9	0.02	1.3		両小口研磨
278	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.9~3.0	0.7~1.4	0.01	1.0~1.3		両小口研磨
279	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	3.1	1.4~1.7	0.02	1.1~1.4		両小口研磨
280	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.6~2.8	1.7~2.0	0.02	1.2~1.3		両小口研磨
281	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.8	1.3~1.4	0.01	1.2~1.3		両小口研磨
282	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.6~2.8	1.7~1.9	0.02	1.1~1.2		両小口研磨
283	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.7	1.7~2.4	0.02	1.2~1.4		両小口研磨
284	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.5	1.3	0.01	1.2		両小口研磨
285	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.8	1.6	0.02	1.1~1.2		両小口研磨
286	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.6~2.8	1.2~1.3	0.01	1.1~1.3		両小口研磨
287	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	3.0~3.2	0.7~1.5	0.01	1.0~1.2		両小口研磨
288	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	3	1.4	0.01	1.3~1.5		両小口研磨
289	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.9~3.0	1.2~1.6	0.01	1.1~1.4		両小口研磨
290	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.8~3.1	1.3~1.9	0.02	1.2		片小口研磨 一面は斜めに磨れたままの加熱仕上げ
291	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	3.3	1.3	0.02	1.5		両小口研磨
292	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.8~3.1	2.5~3.2	0.03	1.2~1.5		両小口研磨
293	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	3.2~3.3	1.8~2.0	0.03	1.2		両小口研磨
294	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	3.2~3.4	1.5~1.7	0.02	1.2		両小口研磨
295	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	3.0~3.2	2.0~2.5	0.03	1.4		両小口研磨
296	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.8~3.0	1.9~2.2	0.02	1.6		両小口研磨
297	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	3.0~3.2	1.8~1.9	0.02	1.3~1.7		両小口研磨
298	ムティヤウ	グラス	暗赤褐色	2.7~2.8	1.4~1.5	0.02	1.1~1.2		両小口研磨

299	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.5-2.8	0.9-1.2	0.01	0.8-1.5		両小口研磨
300	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.8	1.5-1.9	0.02	1.1		両小口研磨
301	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.5-2.7	2.1-2.2	0.02	1		両小口研磨
302	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.8-3.1	1.7-1.9	0.02	1.0-1.5		両小口研磨
303	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.8-3.4	2.2-2.4	0.03	0.9-1.5		両小口研磨
304	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.2-3.4	1.4-1.5	0.02	1.6-1.7		両小口加熱処理のままか？
305	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.0-3.2	0.9-1.4	0.02	1.2-1.4		両小口研磨
306	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.8-3.0	0.9-1.8	0.02	1.3-1.7		両小口研磨
307	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.1	1.6-1.3	0.02	1.1-1.2		両小口研磨
308	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.5-2.6	1.6	0.01	1.1		両小口研磨
309	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.0-3.2	1.7-2.1	0.02	1.3-1.4		両小口研磨
310	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7-2.9	1.4-2.0	0.02	1.1-1.2		両小口加熱処理のままか？
311	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7-3.1	2.1-2.2	0.03	1.0-1.3		両小口研磨
312	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.1-3.8	2.1-2.3	0.04	1.1-1.4		両小口研磨
313	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.3-2.6	1.4-1.7	0.01	1.0-1.2		両小口研磨
314	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.4-3.6	1.3-2.0	0.03	1.4-1.7		両小口研磨
315	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.0-3.1	1.6-1.8	0.02	1.1-1.4		両小口研磨
316	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.4-2.5	1.6-1.9	0.02	1		両小口研磨 小口扉割口に欠損
317	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.6-2.7	1.6-2.1	0.02	1.1		両小口研磨
318	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.8-3.0	0.9-1.4	0.01	1.5		両小口研磨
319	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7-3.0	0.9-1.3	0.02	1.5		両小口研磨
320	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7-2.9	2.0-2.1	0.02	1.0-1.2		両小口研磨
321	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.6-2.8	1.1-1.2	0.01	1		両小口研磨
322	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3	1.3-1.8	0.02	1.3-1.9		両小口加熱処理のままか？
323	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.3-2.5	2	0.02	1		両小口研磨
324	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.5-2.8	1.3-1.4	0.02	1.0-1.3		両小口研磨
325	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3	1.3-1.9	0.02	1.5		両小口研磨
326	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.9-3.2	1.9-2.2	0.02	1.0-1.4		両小口研磨
327	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3	1.4-1.5	0.01	1.0-1.1		両小口研磨 小口扉割口に小さな欠損 2ヶ所
328	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7-2.9	0.8-1.5	0.01	1.2		両小口研磨
329	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.5-2.8	0.5-1.2	0.01	1.0-1.1		両小口研磨
330	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.1-3.2	1.5-1.9	0.02	1.1		両小口研磨
331	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.6-4.4	1.5-2.1	0.04	1.5-1.8		両小口研磨
332	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7-2.9	1.3-1.7	0.01	1.2		両小口研磨
333	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.5-2.8	1.0-1.2	0.01	1.0-1.2		両小口研磨
334	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.8	1.1-1.5	0.01	1.1		両小口研磨
335	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.2-2.4	0.8-1.2	0.01	1.0-1.1		両小口研磨
336	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.5-2.7	1.8-1.9	0.01	1.0-1.2		両小口研磨
337	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	3.0-3.3	1.4-1.5	0.02	1.1-1.4		両小口研磨
338	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.9-3.0	1.3-1.5	0.01	1.3		両小口研磨
339	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.7-2.9	1.1-1.2	0.01	1.2		両小口研磨
340	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.8	1.3-1.4	0.01	1.3		両小口研磨
341	ムティヤウ	ガラス	暗赤褐色	2.4	1.5-1.6	0.01	1.0-1.1		両小口研磨

第1図版
調査地遠景（南から）



第2図版
調査前全景（南から）



第3図版
南端平坦部全景
（北東から）





第4図版
削平された平坦部と
北側の丘陵（南から）



第5図版
平坦部西側の遺構
完掘状況（北東から）



第6図版
住居址1完掘状況
（北から）

第7図版
住居址1壁溝内出土
石製品(S11)



第8図版
住居址1壁溝内出土
石製品(S9)

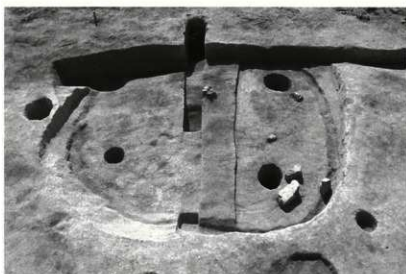


第9図版
住居址1壁溝内出土
石製品(S10)





第10図版
住居址2完掘状況
(東南から)

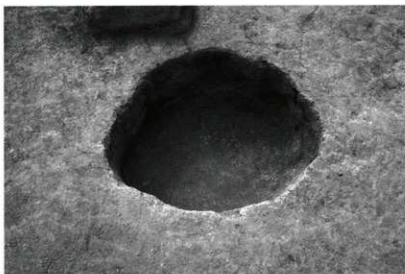


第11図版
住居址3完掘状況
(北から)



第12図版
住居址4完掘状況
(南から)

第13図版
土壙3完掘状況
(南西から)



第14図版
土壙6断面 (東から)



第15図版
段2全景 (南から)





第16図版
土墳墓1 全景
(北西から)



第17図版
土墳墓2 全景
(東南から)



第18図版
土墳墓2 遺物出土状況
(西北から)

第19図版
土墳墓3断面・被熱襖
(東北から)



第20図版
土墳墓3全景
(南東から)



第21図版
土墳墓4全景
(西から)





第22図版
1号墳第1・第2主体部
(北西から)



第23図版
1号墳第1主体部装身具
出土状況(北西から)



第24図
1号墳第1主体部銅鏡と
ガラス製手玉出土状況

第25図版
1号墳第1主体部
石製勾玉とガラス小玉の
耳飾り



第26図版
1号墳第1主体部
ガラス製勾玉・小玉の
耳飾り



第27図版
1号墳第1主体部滑石製
白玉と不明鉄製品





第28図版 1号墳第2主体部鉄鎌出土状況

第29図版 1号墳第2主体部全景（北西から）



第30図版 調査区北半の丘陵（南から）

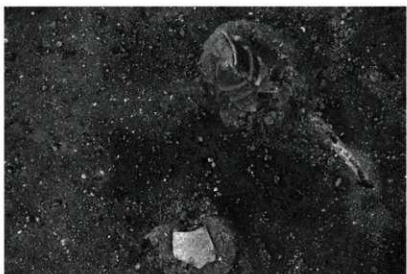
第31図版
北端付近の中央トレンチ
(南西から)



第32図版
2号墳半掘り状況
(北から)



第33図版
3号墳墳丘南西部遺物
出土状況





第34図
3号墳墳丘南東部遺物
出土状況
(周濠上層出土分)



第35図版
3号墳第1・第2主体部
(西から)



第36図版
3号墳第1主体部
頸部付近遺物出土状況
(西から)

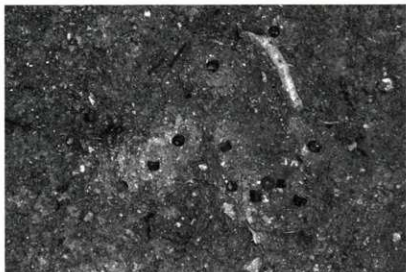
第37図版
3号墳第1主体部
頭部付近の絞具と白玉
(南から)



第38図版
3号墳第2主体部全景
(西から)



第39図版
3号墳第2主体部
ガラス小玉出土状況





第40図版
3号墳墳丘（西から）



第41図版
3号墳墳丘（南から）



第42図版
4号墳主体部と
南側サブトレンチ
（北から）

第43図版
4号墳主体部と
東トレンチ（北東から）

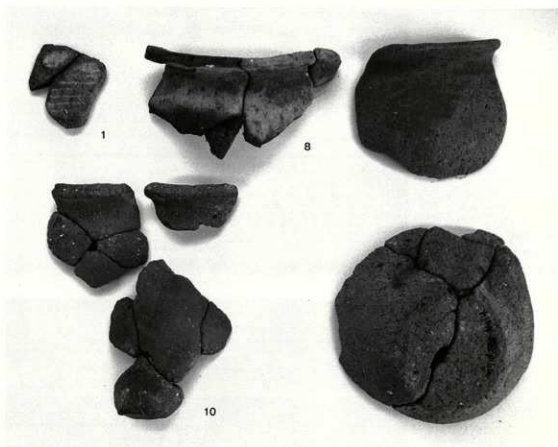


第44図版
4号墳北・西側の周濠
（西から）

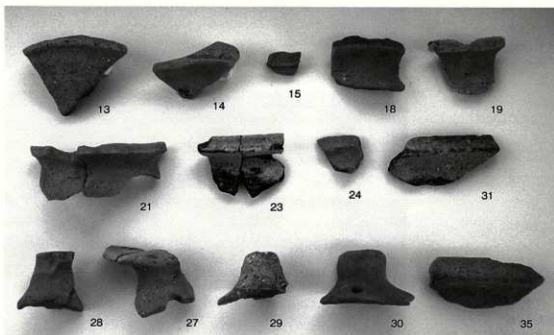


第45図版
古墳群完掘状況と南側の
平野部（北から）

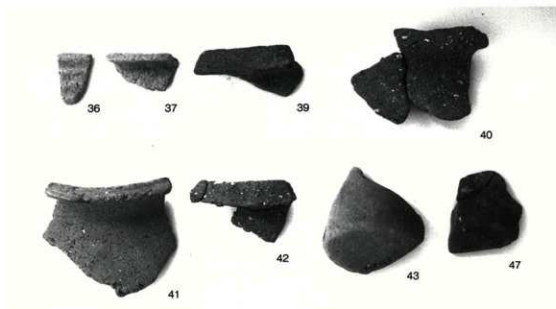




第46図版 住居址1出土土器



第47図版 住居址2出土土器

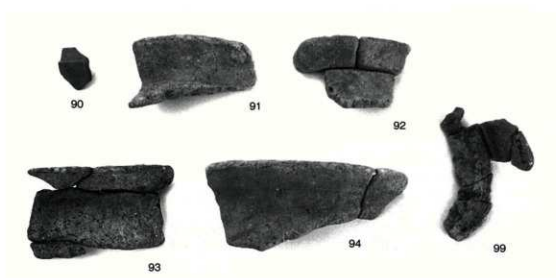


第48図版 住居址3出土遺物



第49図版 P115出土土器

第50図版 土墳墓4出土土器



第51図版 包含層出土土器



S1



S2



S3



S4



S5



S11



S9



S10

第52図版 住居址1出土石器・石製品



S13



S15



S14

第53図版 住居址3出土石器



S16

第54図版 土墳5出土遺物



S25

第55図版 P9出土水晶



S18



S19



S20

第56図版 土墳墓2出土石器・石製品



S21

第57図版 土墳墓5出土礫



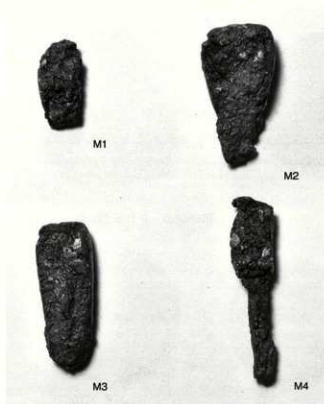
S22

第58図版 4号墳主体部出土石製品



S24

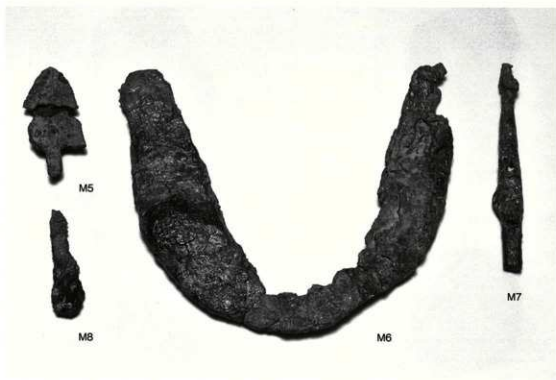
第59図版 包含層出土石器



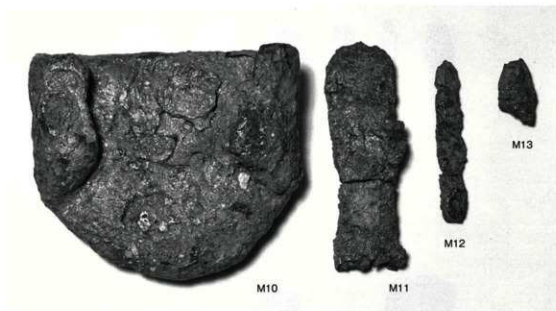
第60圖版 住居址2出土鉄器



第62圖版 土墳墓4出土鉄器



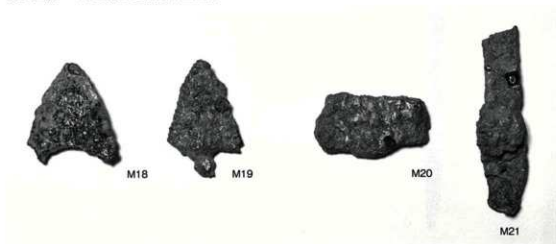
第61圖版 土墳墓2出土鉄器



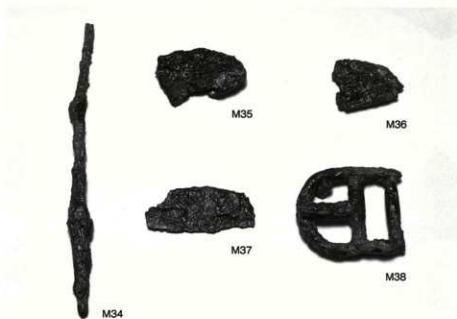
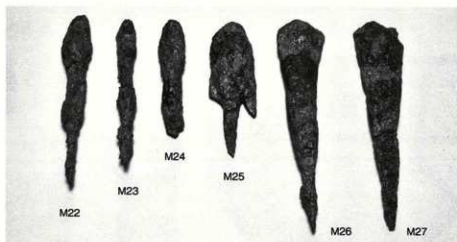
第63図版 1号墳第1主体部出土鉄器



第64図版 1号墳第2主体部出土遺物



第65図版 2号墳出土鉄器

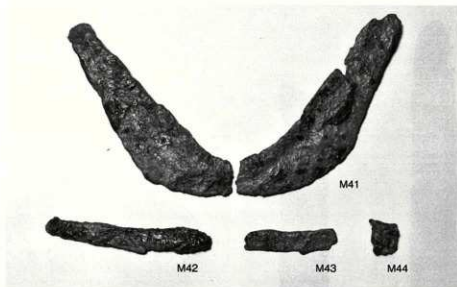


第66图版 3号墳第1主体部出土鉄器(1)



第68图版 3号墳第1主体部出土小管付耳環

第67图版 3号墳第1主体部出土鉄器(2)



第69図版 3号墳第2主体部出土鉄器



第70図版 4号墳主体部出土鉄器



第71図版 包含層出土鉄器

報告書抄録

ふりがな	かりやいせき かりやこふんぐんはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	狩谷遺跡 狩谷古墳群発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	総社市埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	28							
編著者名	平井典子, 高橋進一, 間所克人, 白石 純, 長柄毅一							
編集機関	岡山県総社市教育委員会							
所在地	〒719-1192 岡山県総社市中央一丁目1番1号 TEL0866-92-8363							
発行年月日	西暦2018年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	発掘原因
		市町村	遺跡番号	°	°			
狩谷遺跡 狩谷古墳群	岡山県 総社市 山田字西谷 2307外	33-208		34° 40' 41.33"	133° 40' 20.14"	2012年 7月2日 ～12月5日	約1,400㎡	山土採取事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
狩谷遺跡	集落跡	弥生時代 ～ 近世	竪穴住居・土 塚・柱穴・溝 状遺構・たわ み	弥生土器・須恵器・ 土師器・石甕・石 鏝・卯石・砥石・石 製品・中世土器・近 世土器		弥生時代後期の住居址が4 軒出土。住居址1から石製 品が出土しているほか、住 居址や土塚から後期初頭の 石甕丁が出土。丘陵上の段 とその上方から初期須恵器 出土。		
狩谷土塚墓群 狩谷古墳群	土塚墓 古墳	弥生時代 古墳時代	土塚墓・古墳	鉄器類・銅剣・銅 鈴・小管付耳環、多 種多彩な玉類		3基の古墳主体部から、装 着状況が推定できる玉類を 主とした装身具が多数出土。 また3号墳墳丘からは初期 須恵器が出土。		
要約	<p>新本川左岸の丘陵上に営まれた集落遺跡・土塚墓群・古墳群。弥生時代前期新段階の甕小片が出土していることから、少なくとも前期新段階からこの丘陵上での人々の営みが始まったと考えられる。後期初頭からは本格的な居住が始まり、4軒の住居址のほか土塚や柱穴などが検出された。土塚墓も確認され、土塚墓4からは弥生時代後期のガラス製管玉が出土している。墳丘はほとんど残っていないが、古墳と想定されるものは4基検出され、そのうちの3基から玉類を主とした装身具が多数出土した。装身具の中には朝鮮半島との関係が窺われるものも多く、被葬者の性格を考える上で興味深い資料である。なお、段や3号墳墳丘等から5個体分の初期須恵器が出土。</p>							

総社市埋蔵文化財発掘調査報告28

狩谷遺跡
狩谷古墳群

2018（平成30）年3月30日 印刷

2018（平成30）年3月30日 発行

編集発行 岡山県総社市教育委員会
岡山県総社市中央一丁目1番1号

印刷 サンコー印刷株式会社
岡山県総社市真壁871-2

